

第3回 野田市新清掃工場建設候補地選定審議会 次第

日 時：平成23年10月1日(土)

午後1時30分から

場 所：市役所8階大会議室

1 開 会

2 議 事

(1) 第2回審議会の審議結果等について(報告)

第2回審議会の審議結果について

第2回審議会の会議録について

前回の宿題について

(2) 野田市のごみの3R対策について

(3) その他

3 閉 会

配布資料一覧

資料 3 - 1	第 2 回審議会の審議結果等について（報告）	
	第 2 回審議会の審議結果について・・・・・・・・・・	1
	第 2 回審議会の会議録について・・・・・・・・・・	3
資料 3 - 1 - 1	第 1 回審議会の会議録について・・・・・・・・・・	1
資料 3 - 1 - 2	生ごみ堆肥化装置の購入者の生活形態について・・・・	1
資料 3 - 1 - 3	野田市のごみ質について・・・・・・・・・・	1
資料 3 - 1 - 4	野田市が実施している施策等に対する他市の取組み 状況について・・・・・・・・・・	1
資料 3 - 2	ごみの 3 R に関する方策事例の事業効果比較及び 野田市のごみの 3 R 対策について・・・・・・・・・・	1
報告資料	自治会班回覧した、第 1 回審議会の概要版について	

第 2 回審議会での承認事項等について

1 第 2 回審議会の審議結果について

(1) 会議録の委員氏名の公表及び第 1 回会議録について（資料 3 - 1 - 1）

会議録には、発言した委員の氏名を記して公表することとした。

第 1 回会議録で、コンポスの意見の聞き取り記述については、「住民への意見の聞き取りはしているのか。」ではなく、「購入者へ使用状況の追跡調査をしたほうが良いと思うが、調査はされたのか。」に訂正し、第 3 回審議会で報告する。

(2) 情報提供の取扱

委員から個別に資料の提供を求められた場合は、同資料を全委員に提供することとした。（電子データの送付でも対応可能とする。）

(3) 議事録署名

第 2 回の議事録署名委員は、石塚一男委員と中村利久委員に決まった。

(4) 野田市内の視察について

利根川、江戸川、運河付近は優先的に見学することとした。

過去に選定を行った候補地と、既存の焼却施設の視察は行わないこととした。

(5) 勉強会について

第 1 回目は、9 月 15 日（木）午後 6 時市役所 5 階会議室にて、自由参加のフリートーク方式で行うこととした。

2 審議スケジュール（案）について

第 6 回から第 11 回の審議スケジュールについて、審議スケジュール（案）のとおり決定した。

3 ごみの 3 R に関する方策について

ごみの 3 R に関する方策について、他の自治体の事例を報告した。

4 次回の審議会にて説明（資料提示）するとした事項

(1) 生ごみの堆肥化等について

生ごみ堆肥化装置の購入者の生活形態の把握をするべきではないか。

（資料 3 - 1 - 2）

【市の説明】

本年度、前年度辺りで、可能な限り追跡調査を行い回答する。

閑宿地区は排出量が少ないが、野焼きしている実態を把握しているか。

【市の説明】

野焼きの苦情件数について確認し報告する。

(2) ごみの組成割合について(資料3 - 1 - 3)

【市の説明】

今回提示した資料については問題があるので、もう一度精査して提出する。

(3) ごみの3Rに関する方策について

野田市の人口に近い自治体の事例も示してほしい。(資料3 - 1 - 4)

以下、からは、資料3 - 2

事例集は、比較しやすいように表に示してもらいたい。

事例が、焼却場設置にあたってどのように活用されるか、また、これらの事例を実施すれば野田市のごみがどれくらい減量するか示してほしい。

事例における減量効果、課題やメリット、デメリットを示してほしい。

【市の説明】

ごみの3Rに関する方策事例の資料については、もう一度詳細に問い合わせをするが、野田市に置き換えて分析しどれだけ効果があると示すのは難しいので、事例市の効果、課題を示す資料として提示させていただきたい。

会 議 録

会 議 名	平成23年度第2回野田市新清掃工場建設候補地選定審議会
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	1 第1回審議会の審議結果について（報告） 第1回審議会の承認事項等について 第1回審議会議事録について 2 審議スケジュール（案）について 3 ごみの3Rに関する方策について 4 その他
日 時	平成23年9月3日（土） 午後1時30分から午後4時30分まで
場 所	野田市役所8階大会議室
出席委員氏名	立本 英機、富所 富男、鎌野 邦樹、瀧 和夫、恵 小百合、岡田 稔、石塚 一男、那須野 平一、佐藤 盛、青木 重、江原 敬二、大柴 由紀、小暮 正男、笹木 勝利、知久 浩、千葉 美佐子、平井 和子、古橋 秀夫、松島 高士、柳 掬一郎、横張 一郎、石原 義雄、小倉 妙子、長南 博邦、小室 美枝子、高梨 守、竹内 美穂、鶴岡 潔、中村 利久、松本 睦男
欠席委員氏名	小俣 文宣
事 務 局	今村 繁（総務部長兼新清掃工場建設支援担当）、齊藤 清春（環境部長）、小室 照之（環境部次長兼清掃計画課長）、相島 一美（清掃第一課長）、大和 一夫（関宿クリーンセンター一長）、中村 清八（関宿クリーンセンター主幹兼補佐兼収集係長）、菅野 透（清掃計画課長補佐）、高橋 宏之（清掃第一課長補佐）、柳 正幸（清掃計画課ごみ減量係長）、皆川 賢一（清掃計画課計画係長）、知久 友行（清掃計画課主任技師）、小沼 京治（清掃計画課主任主事）、中山 高裕（清掃計画課主任技師）、奈幡 淳一（清掃計画課主任技師）、岡田 勇貴（清掃計画課主任主事）、町田 藤夫（民生経済部農政課課長）、佐藤 裕（教育委員会学校教育部部長）

	オブザーバー 中外テクノス株式会社 3名
傍 聴 者	6名
議 事	平成23年度第2回野田市新清掃工場建設候補地選定審議会の会議結果は次のとおりである。

1 開会

(1) 開会

清掃計画課長補佐

本日は、審議会委員総数 31 名のうち 29 名出席しています。半数以上の出席なので条例の規定により会議の成立を報告します。本日は、小俣議員が所用のため欠席、恵委員からは遅参の連絡が入っています。

本日の会議では、既に送付した資料に加え、各委員のお手元に追加資料として資料 1-1 から資料 1-7 と、本日欠席の小俣委員からの意見書、本日の席次表、議事録署名をいただいた会議録を用意しましたので、確認をお願いします。

議事録作成のために録音させていただきます。

会議については、野田市審議会等の会議に関する要綱の規定により公開会議となっており、6 名の方から傍聴の申し出があったのでこれを許可しました。このあと次第に基づいて説明しますが、次第に記載した 2 つ目の「挨拶」については、事務局の記載誤りなので削除をお願いします。これより立本会長に議事の進行をお願いします。

(2) 事務局からの説明

立本会長

お忙しい中をお集まりいただき、ありがとうございます。これより議事を進めさせていただく。議事に入る前に、事務局から発言を求められているので事務局からの説明をお願いしたい。

新清掃工場建設支援担当

最初に、2 点ほど審議会のほうにお諮りしていただきたいことがあるのでご説明をさせていただきます。

1 点目は、会議録の公表についてである。具体的には、会議録の中で委員名を明記するかどうかということである。本日、お配りした会議録の委員名のところは委員という表記で、どなたが発言したかということは明記されていない。これは、本審議会に限らず、従来野田市がこのようなかたちで行っていたものである。1 点目は、公表の問題と会議資料との問題を混同していた部分があるので、会議資料として各委員に配布する会議録については、今後委員名を表記したものをお渡ししたいと思う。

もう 1 点は、傍聴の方々あるいは会議録の公表についてどうするかということである。市としては発言者の氏名を公表することによって、自由な意見・率直な意見の交換に支障をきたすということで、あえて「委員」という表現をさせていただいている。流山市は、本年度（平成 23 年度）から委員名を公表している。我孫子市は、それより前に規則で定めている。

この点について市では、個人情報であり、自由な意見・率直な意見の交換に支障が出る恐れがあると考えているのだが、それぞれの審議会の委員の方に判断していただくのが一番適切ではないかと考える。今日、本審議会の中で公表するかどうかをお諮りいただきたい。

なお、他の審議会についても今後随時開催する中で、そのようなお諮りをする。その結果、統一的なことができるようであれば、本格的に公表について定めていきたいと考えている。

2点目は、委員の皆さまに対する情報の提供のルールである。第1回審議会のあと、ある委員の方から資料の情報提供を求められた。今後事務局に皆さんから要求されることがあると思う。事務局としては、要求いただいた方だけに渡しするよりは、要求があった場合には、全委員の方に等しく配布していくというルールを決めてやっていきたいと思っているので、その点についてもお諮りいただきたい。

基本的に、資料はなるべく速やかに提供していきたいと思うが、資料の作成の難易度にもよるので、場合によっては若干時間がかかることもあるのであらかじめご了承いただきたい。

この2点についてお諮りしたい。

立本会長

事務局のご説明の1つ目は会議録の公開の件である。皆さんには第1回目の会議録は「委員」というかたちでお示ししているが、これを公開するときに「委員」だけなのか、あるいは発言をした人の名前も記して市民に公開するのかということである。皆さん、どちらがよろしいか。

江原委員

各委員が責任をもってやることなので、明記したほうが良いと思う。そのほうが責任としてはっきり所在します。

松島委員

別の会議録を読んだりするが、個人名がないと何人の方がどういうやり取りをしているのか全然見えないし、ディベートとして話の脈絡が生きてこないため、記名が必要だと思います。

立本会長

氏名を記して公開するということがよろしいでしょうか。

(異議なし。)

立本会長

情報公開の件で、1人の人が資料の提供を求めたときは、その人のみならず各委員に共通して提供することによろしいでしょうか。

(異議なし。)

立本会長

2点とも皆さんに了解していただいたということで、「氏名を記す」「資料の

提供は全員にする」ということで、この件は処理させていただく。

江原委員

今日配布いただいたものと先日送っていただいたものの議事録の中身で、変わっているところだけ教えていただければ、事前に目を通してしているので無駄な時間がなくなるのでよろしく願います。

清掃計画課計画係長

変わっているところはありません。

2. 議事

(1) 第1回審議会会議録の確認

立本会長

全体の議事録について、違う点等あったらご指摘お願いします。

松島委員

コンポストについては、一般論ではなく、購入した方が実際どのように使っているか、「もっとすすめたほうがいい」という感想の調査をしているかどうかという趣旨で私がしたものです。

新清掃工場建設支援担当

会議録は要約しているため、発言者がそういう趣旨に沿うように修正します。第3回審議会に委員名も入れ、この部分は修正してお渡しします。

(2) 第1回審議会での承認事項等（資料1）

清掃計画課計画係長

審議会の体制、議事の結果について説明する。

立本会長

事務局の報告でよろしいでしょうか。

（異議なし。）

清掃計画課ごみ減量係長

コンポストの購入実績の減少について予算との兼ね合い、予算の想定数を説明する。（資料1 3(1)）

江原委員

コンポストについて、例えば一般住宅に使われているのか、農家の方たちが使われているのか明記すると、どういう方法で使われているのかある程度分かる。使い方が分かることで、ごみの減量化の方向性をみるために必要だと思います。

環境部次長兼清掃計画課長

コンポストというのは地面にそのまま埋め込むため、土地にある程度余裕のある方と理解している。機械式というのは、マンション、集合住宅でも使える

ように、土地がなくても使えるものだと理解しています。

新清掃工場建設支援担当

本年度、前年度で追跡調査など、確認できる範囲で調べて、結果はご報告したいと思います。

江原委員

分かりました。

長南委員

補助金を出して購入してもらっても使われていなくてはどうしようもないので、どの程度使われているか調査も必要ではないかと思ひます。

新清掃工場建設支援担当

松島委員からコンポスト利用者のアンケートの話もあったので、今回確認できる範囲で併せて確認したいと思ひます。

(惠委員が入室)

惠委員

皆さま、はじめまして。1回目を欠席していた惠小百合と申します。隣の流山市の江戸川大学というところにおります。何かお役に立てればと思ひています。どうぞよろしくお願ひします。

環境部次長兼清掃計画課長

ごみの組成分析について、平成6年度、平成7年度当時と不燃のデータについて説明する。(資料1-3(2)、当日配布資料1-2、1-3、1-4)。

小倉委員

資料1-4で重量の割合が一番多いビニール・合成樹脂の部分の3Rを見直していくべきだと思ひます。野田市では、使用可能なペットボトルのキャップなどは不燃ごみで出しているため、ここの部分の削減方法として、もう少し細分化する必要があるのではないのでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

3Rについて諮問させていただいているので、委員がご指摘の細分別についても、審議会の中でご議論いただきたいと思ひます。

笹木委員

資料1-2、資料2-6で、生ごみというカテゴリーがないため、その他の項目の中に生ごみというものが含まれているのでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

生ごみという項目はないが、「厨芥類」に入っています。

笹木委員

「その他」の項目をもう少し細かく説明いただけませんか。

環境部次長兼清掃計画課長

分類については国から標準分類に準じています。可燃ごみの「その他」には、

土、石などの可燃ごみの中に想定できないものが入ります。

竹内委員

厨芥（生ごみ）で平成6年度、平成7年度に比べて、平成22年度ではかなり割合が減っている。ごみの出し方のルール以外に、具体的にどういうところが変わったのでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

乾燥重量のため、平成22年度は、平成6年度と平成7年度と比べると、紙類の割合が大きく減ったために、そのほかの百分率の分が変わってきたと思っています。

竹内委員

割合ではなく重量がかなり違います。

環境部次長兼清掃計画課長

2カ月に1回、10kgのサンプルを取った中での割合を出しています。年の1人1日当たり平均のグラム数を、その割合を乗じたので、1年のトータルの本当の割合ということにはなっていない。傾向を見る資料ということでご理解いただきたい。

竹内委員

3Rに対して生ごみの対策が非常に行われているが、この資料からは、生ごみ対策をそんなにやる必要があるのかという感じがします。他の市では、生ごみが40%ぐらいを占めているが、野田市の場合は6～7%なので、この違いはどこにあるのか。

環境部次長兼清掃計画課長

年に6回調査で、年度や季節によるばらつきが大きい。処理能力に必要なデータだが、処理能力はばらつきの余裕をみて決定します。正確なごみの性質にはならないとご理解いただきたい。

竹内委員

平成22年度のごみの排出量に関していうと、紙が結構ウエートを占めている。資料2-6表下に、「仮に野田地域を関宿地域の水準に合わせると年間4,400トン程度のごみの減量が見込まれる」としている。これは、各地域のごみへの意識が違うという前回のお答えだったが、もう少し詳細な考察が必要ではないかと思うがいかがですか。

環境部次長兼清掃計画課長

資源は関宿地域、ごみは野田地域の1人1日の排出量が多い。生活様式がそれほど変わらないので、取組方に相違があるのかという結論です。

石原委員

平成21年の12月の本議会で、実際野田市の可燃物として年間2万8,000トンが焼却されているが、「そのうち生ごみはどれぐらいの比率か」という質問をした。関宿地区は、25%。旧野田市は15%前後で平均して20%前後だった。こ

のため、生ごみの堆肥化に向けて、堆肥センターの充実を考えてみてはどうでしょうか。

江原委員

ごみの減量と資源回収に熱心なので関宿地域の排出量が少ないというが、例えば紙類・落ち葉の比率を見ないと、野焼きができるかのチェックはしていますか。

環境部次長兼清掃計画課長

野田地域、関宿地域ともに野焼きは役所に苦情が来ており、家庭から出るごみを燃やすという苦情は減っています。例えば、関宿で何件野焼きしている工場があったかというのは後ほどデータとして出せます。

江原委員

データがあればそれを確認して、どういう比率なのか中身をチェックしないと分からないと思います。

環境部次長兼清掃計画課長

工場のデータは今手元には持ちあわせていないので、次回提示します。

那須野委員

可燃ごみの組成について、資料の示す不燃物が入るということ、まだ分別が不十分と見るのか、もしくは、このぐらゐの混入はやむを得ずと見るのか、情報があれば聞かせてほしい。

環境部次長兼清掃計画課長

現場では、野田地域は分別がひどいものは回収をしない。これにより、一定の成果は上がっているものと思っています。

ただ、可燃ごみの中にも不燃ごみがこれだけ入っている、不燃ごみの中にも可燃ごみがこれだけ入っているという状況を、なるべく100%に近づけたいと思っています。これには、更なるご協力が必要かと思っています。

那須野委員

われわれ推進員も時折集積所を回って分別具合を見てみると、まだまだ「ごみだから、これぐらゐ」と、可燃ごみの中にビンが1つ、カンが1つと入っている。このぐらゐのものをわざわざ残していくはずはない。市民の皆さんの今後の課題として、後ほど提案していくという範囲ではないかと私も思っていた。事務局の今の回答で、取りあえず現時点では納得ということにしておく。

富所委員

平成6年度、平成7年度は、指定袋を導入し、総量は3分の1以上減した。減の理由は紙類が半分近く減っており、一番大きく寄与している。しかし、平成22年に紙類が増加傾向になってきている。重量のほうで言うと、有料制をとったとき、総量はリバウンドするということがあり、紙類が増えてきているということについて、考えられる理由が何かありますか。

年間4,400トンの減量が見込まれるという前提として、仮に野田地域を関宿地

域の水準に合わせるとしているが、実際に方法は考えられるのでしょうか。考えられなければ、今後この審議会の中での議論で考えていくこととなります。事務局では、何かしらの成算があつてのことかと思つたので伺いたい。

可燃ごみの減量には、紙類のリサイクル・排出抑制も含めて、当面はリサイクルを活発すると思うが、紙類の中にどれだけリサイクル可能なものが含まれていますか。

今後、ごみ組成調査をするに当たって、精度を高める努力をしていただきたい。
環境部次長兼清掃計画課長

紙類ということで国の指示どおりに調査しているのだが、リサイクル可能な紙かどうかということも含めて、もう少し調査の精度を上げたいと思います。

紙の量の増減は、平成6年と平成7年と比べると大きく紙の量が減っていて、資源回収の紙が増えたことと連動していると思つています。紙をできるだけごみの中から取り除いて資源回収に回していただけるようお願いしたいと思つています。

仮に野田地域を関宿地域の水準に合わせることに關しては、野田地域と関宿地域の排出量の一人当たりの原単位に差があり、関宿地域は現在低くなつている。この原単位を野田地域に適用すると、年間4,400トン程度の減量が見込まれるという試算しています。どのように関宿地域の原単位に合わせていくかは、今後の課題と思つています。

石塚委員

関宿地域と野田地域の表の比較はあまり論じなくていいのではないか思つています。関宿地域は全体の1/6～1/5で、ごみの取組に關しては変わつていないので、特別ここは優秀だ、駄目だというのはないと思つています。野田地域の方は関宿地域のことを「特別のことをやっているのではないか」と思つてしまう。

佐藤委員

関宿地域は、野田市と合併したとき、減量に対して徹底的に叩き込まれ、推進員の人たちの努力と勉強もあつていい結果になつたと思つています。

野田地域はアパートが多く、分別が不十分になりがち人が多いと思う。そういうことで、ここに組成の分類の差が出ているのではないかと考へている。これから地域差をいうことも踏まえて、組成分類についてもう少し勉強させていただいたらいいかと思つています。

鶴岡委員

生ごみの量によって清掃工場の規模が変わつてくるので、ごみの減量は必要だと思つています。他市町村で一番排出量が少ないところはどのくらい分かるならお願いしたいと思う。

新清掃工場建設支援担当

ごみ全体の量で集計しており、生ごみのみの資料はないので、後日提出しま

す。

長南委員

資料 2-6 は平成 22 年度の平均だと思うが、厨芥類が野田地域 6.41%、35.52g
これでは生ごみを減らすのに力入れることないと思う。

私が持っているその前年度の資料は、野田市民 1 人 1 日当たりのごみの排出量
が一日 648.96g、厨芥類は 103.07g、15.9%であまりにも違い過ぎる。政策とし
て生ごみの堆肥化をやるのか、やらないのかが違ってくるので、精査をしてほ
しい。

新清掃工場建設支援担当

パーセントで傾向を見ているものに、年間の一人当たりをかけたので、グラ
ムでもこれだけあるようにミスリードしたと思います。もう少し今後精度を上
げるように調べていきたいと思います。

笹木委員

総重量は、ごみ回収車の重さを全部測ったものですか。

環境部次長兼清掃計画課長

パッカー車が集めてきたものを全車計量します。ここでいう全ごみの量は、
ほかに市民と事業者の持ち込み分が含まれています。

笹木委員

それを人口で割ると野田市の 1 人 1 日当たり 670g という値は間違いはないで
すか。

環境部次長兼清掃計画課長

間違いありません。

笹木委員

カテゴリーの分け方が問題だが、これは法律的に産廃法か何かで年に 6 回測
定することになっているのですか。

環境部次長兼清掃計画課長

国の指針により、年 4 回以上測定、組成の分析の標準型が示されています。

笹木委員

分かりました。

江原委員

資料で野田地域、関宿地域の人口を明記すると、解析しやすくなる。また、
可燃ごみの組成で、不燃ごみの割合は関宿地域も野田地域も 14%前後で、紙以
外で厨芥類等も極端な違いはない。人口の密度や、高齢者、子ども、幼児など
の違いで、ごみの出具合が変わってくると思います。もし、そこまで分析した
数が出せるのであれば、出してほしい。

環境部次長兼清掃計画課長

野田地域の人口は、平成 22 年度末で 12 万 7,888 人。

関宿地域の人口は、2 万 9,145 人です。

資料 1 - 2、2 ページ、3 ページのごみの組成は、1 人 1 日当たりではなく野田地域、関宿地域の人数には関係なく、全体でゴミ組成を測っています。

長南委員

資料 1 - 2 の値は乾物重量か、水分が含まれているか。厨芥類は少なくとも 80%、~90% ぐらい水分が入っていると思います。乾物だとすると、水分が 8 割ぐらいとんでいるので、厨芥類の生のままの占める割合、つまり 1 人 1 日当たり何グラムでは、厨芥類は割合を占めると理解するのでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

訂正させてください。資料 1 - 2 の 2 ページ、3 ページは、1 人 1 日に割り振った数字です。表に示した値は乾燥重量です。野田は平均 55.98% の水分があります。これは水分を抜いた数字です。

長南委員

3 ページの野田地域の重量 554.16g が乾物だということになると、1 キロを超えてしまう。数字を整理してください。

立本会長

これはドライベースで書いてあるのか。

新清掃工場建設支援担当

総重量は水分を含んでおり、パーセンテージの厨芥には水分を含んでいません。この割合をそのままかけると、水分がどこかに消えてしまっただけで厨芥類の割合が必然的に少なくなってしまいます。1 人 1 日当たりの水分を含んだものに水分を含まない割合をかけたので、データの的にはミスリードしています。もう少し精査し再度お示ししたいと思います。

次回出すときには、「どのような条件でつくった資料」で、「どのようなことを見るためにつくった資料」であるかを明らかにして出したいと思います。

江原委員

再度出していただけるのであれば、「水分が入っているのか、入っていないのか」、その辺の明記してくれないと、個々で独自の判断をしたら意味がなくなる。書類は、誰が見ても同じ判断ができないと困るので、今日出たものを合わせて、「水分がある・ない」「人口がどのぐらいか」、でる範囲内で正確に出していただきたいと思う。

富所委員

施設整備のためには、ウェットベースが必要です。その数字が野田市の特性なのか、それとも精度について問題があるのかという検証をする必要があると思います。市民の生活様式がごみの組成に現れてくるので、野田市と同程度あるいは同じような性質の市を出して検証をする。ほとんど同じような比率・状況ならば、それはある程度信頼できる数字だと思います。

千葉委員

野田の南部地区は、大学があって学生がたくさん住んでいます。野田市に籍

を置いていない学生が、うまく分別しないで捨てていったごみがある。また、自治会は興味がない人、ほかの地域から来て1～2年だけ野田で仕事をする人、そういう方はあまりごみ問題に対して真剣に取り組んでもらえないと思います。

そういう、自治会に参加していない方に、ごみ出しのルールをどうやって説明しているのでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

転入届を出していただくと、市民課で、ごみ出しのルールをお配りする。併せて、指定ごみ袋の引換券を差し上げています。

住民票を動かさない学生は、1枚85円の高い袋を買わなくてはいけないので、私どもの窓口に来てもらい理解をいただきます。併せて、理科大の学生担当にパンフレットを配布してお願いしています。

ごみ集積所のルールが守られていなければ推進員から相談を受けるので、ケース・バイ・ケースで、アパートの方にお知らせをしたり、チラシを配ったりしています。

千葉委員

野田市民にも、自治会には参加していない方もいて、ごみのトラブルがあるときには、必ず自治会に入っているか、入っていないかが問題になるが、その対応はどのようにされていますか。

環境部次長兼清掃計画課長

減量等推進員には、自治会の枠を超えてエリア内の方にはお声かけをさせていただきたいとお願いをしています。また、自治会に入っていない方から問い合わせがあれば、各公民館や出張所にパンフレット置いてあるので、そちらで手に入れてほしいというご案内もしています。

小暮委員

焼却場に搬入される年間の収集量と事業系の可燃物の収集量。焼却場に持ち込まれる総量と事業系のごみはどのぐらいウエートを占めていますか。

環境部次長兼清掃計画課長

平成21年度の実績で、可燃ごみが焼却場に持ち込まれる量は年間で3万1,057トン。うち、事業系といわれる市の収集したものでなく持ち込まれるごみは、1万2,035トンです。

新清掃工場建設支援担当

新たに示す資料のうち、ごみ組成については改めて調査しますので、出来次第お示しすることにさせていただきます。

江原委員

可燃ごみの中の不燃ごみはどう処理されていますか。

環境部次長兼清掃計画課長

ピットの中にある不燃ごみなので、そのまま焼却しています。

民政経済部農政課長

剪定枝の堆肥化における放射線への影響について、短期、長期的な状況の認識を説明する。(資料1 3(3))

教育委員会学校教育部長

環境学習に対する取組みについて、副読本が教育現場での活用を説明する。(資料1 3(4))

清掃計画課長補佐

野田市の現状を視察する機会(資料1 3(6) 当日配布資料1-5 資料1-6)について説明する。

石塚委員

当然視察の中に、白紙に戻っている中里も含めて、今まで検討した候補地の近くや、候補地だったところなどを見せていただきたい。

新清掃工場建設支援担当

ご要望があればそれを加えることは可能です。委員の皆さまのご了解がいただければ、その地区をコースの中に入れていきたいと思えます。

松島委員

候補地はゼロベースで始めたわけだから、あまり見ないほうがいいのではないかと。どういうまちになっているかを見ることは必要だけれども、候補地を見ることは反対です。

柳委員

中里に提示された何カ所かを候補地として見て回るなら反対です。候補地についてはゼロのはずです。

立本会長

私は車窓からいろいろ見て回ればいいのかと思っていました。公共施設以外にももう少し見られるのかと思って話をした。候補地を見るということではありません。

江原委員

視察ルートに利根川、江戸川、運河も回れるようにお願いしたい。

川の周辺は比較的人口が少ない。将来そこに行くかどうかは別にしても、ごみの減量化と焼却炉の問題なので、それも合わせた考えからすると、川の近くを見たいというのが私の考えです。

古橋委員

野田市は過去に清掃工場の検討経緯がある。過去と同じ轍を踏まないために、新しい委員の方が知る必要があるだろうと思って提案した。誤解のないように付け加えます。

江原委員

市が過去に候補らしきものとして出しているものは、これは審議会で新たに決めて行うということなので、それを見る必要はないと思う。

立本会長

それでは、過去の候補地は見ないということによろしいか。

(異議なし。)

新清掃工場建設支援担当

委員のご希望があれば、そこは優先的にコースに入れるようにしたいと思います。

高梨委員

既存の施設を見るよりも、利根川、江戸川、運河、そういう場所を見ることが今回のテーマからして妥当な線ではないかと思えます。

(異議なし。)

清掃計画課長補佐

審議会委員のメンバー有志で、フリートーキングができる勉強会を開催について説明する。(資料1 3(7) 当日配布資料1-7)

江原委員

勉強会について、この案だと全員出ないといけないようで、ここまで望んでいないのではないかと思います。私は、これについての発起人ではないが、このスケジュールでいったらフリートークではなくなってしまう。

立本会長

委員の方が皆さん出る必要はなく、関心を持つ方が、市側とディスカッションしてみようというような意味でいいのではないかと思います。

新清掃工場建設支援担当

参加は自由ということで、出たいときに出るというフリートーキングの場ということで考えています。資料については、既存の資料を利用します。フリートーキングですが、事務局も出るので、ご質問があればお答えします。

瀧委員

市民がどういう焼却場を望むかということをごどこかで決めておかないといけない。その為のフリートーキングを設けておかないといけない。市が市民の思いを汲み上げて十分コンセンサスを取っておかないといけない。私が思っているフリートーキングというのは、そういう意味合いを含んでいます。それがどうスケジュールの中に入っているのかご説明いただきたい。

新清掃工場建設支援担当

瀧委員のフリートーキングについては、資料1 3(5)「野田市の風向、地下水の状況、地質、地層等の資料提示や熱源の利用なども含めたフリートーキング」を、第6回以降の時期に会長と相談して設けたいということと考えていま

す。

別の委員から自主的に学びたいという提案があったので、その趣旨で勉強会の開催を考えました。

瀧委員

分かった。出来るだけ早い時期に市民の意見を少しずつ抽出して、それをまとめていくようなかたちを取っていただいたほうがよいと思う。例えば、市民の焼却場の煙に対する不安、パッカー車の動きの許容範囲、騒音、パッカー車の時間帯をどのように考えてほしいのか。一回で済むような話ではないので、少しずつ積み重ねて、市民の考えを、まとめるようにしてほしい。1回、2回で終わるのではなく、少しずつそういうものを重ねていただきたいと思います。ぜひご検討いただきたい。

新清掃工場建設支援担当

会長と良く相談させていただきたいと思います。

立本会長

皆さんは委員として出席しているが、市民の立場で考えた場合はどういうことが言えるか、少し論議の場を持ったらどうかという意見です。

松島委員

私の考えるフリートークは、とにかく自由に発言することです。そういう意味で、前もって場所と時間を設定してもらえると、説明するほうもそういうスタンスですし、こちらも要点を絞って尋ねます。その場で何人かが集まって共通の問題があれば、自然発生的にフリートーキングになればいい。今日かなり具体的に論議したが、早めにそういうのを1回か2回か設けておくと交流もできるし、会話もできます。そういうビジョンです。

瀧委員

再度申しあげるが、市民の方々が何を心配されているか、事務局はつかまないとはいけないと思う。例えば、排気ガスのSOx、NOxはいくら以下に抑えるか。法的根拠だけでなく、市民の方々がどれぐらいのことを考えているのか明確にしておかないといけない。また、交通量の問題にしても、いろいろなものがある。そうすると、自然と処理方式、あるいは機種までも浮かび出てくると思います。あとは予算との兼ね合いだと思います。

そこまで考えると、今委員の方が言われているようなフリートーキングというのは非常に重要なことになるのではないかと思います。

江原委員

瀧委員のほうから言われたのは、これはもう少し中身が煮詰まった状態で論議しなければいけない問題です。その問題にきたときに、委員の中で話し合っ
て決めていくことだと思います。「こういうことをやる」、「こんな資料がほしい」
「こんなことを聞きたい」というのを市にお願いして「いつ、何人で」という
ことで会場をとってもらえればいいのかと思います。

立本会長

私も今の意見でいいように思います。

新清掃工場建設支援担当

第1回目は9月15日の午後6時ということでよろしいでしょうか。

立本会長

正式な委員会ではないので、9月15日は自由に参加してもらって、色々な意見を出してもらい、事務局に整理し、事務局からここに報告があればいいというようにしてください。

新清掃工場建設支援担当

分かりました。

瀧委員

ごみの組成のところで「誤差が大きくて云々」という表現をされていたが、誤差ではなく、毎回測る数値の差があるということです。2カ月前の数値の値と今回測った数値の値には、例えば、季節的な変動のため値が違うというような差であって、間違いを含んでいるという意味の誤差ではない。事務局も、今後とも説明の中に受け止め側が間違えないような説明をしていただきたい。

新清掃工場建設支援担当

分かりました。以後気をつけます。

(3) 審議スケジュール(案)について(資料2)

清掃計画課計画係長

第6回以降の審議会開催日時について説明する。

立本会長

新規のスケジュール案だが、資料2のとおりでよろしいでしょうか。

(異議なし。)

(4) ごみの3Rに関する方策について(資料3)

清掃計画課主任主事

ごみの3Rに関する方策について説明する。

立本会長

小俣文宣委員からの意見書を読み上げる。

立本会長

事例集が出たが、表で比較できるように整理してください。それに対して、野田市はこうだということが分かるようにしてください。

瀧委員

整理するうえで、「焼却場の設置をするに当たってどのように活用するのか」「3Rだけの話か」「その先を見ての話か」を明確にしてください。

野田の新しい焼却場に対して、この事例によってごみが「これぐらい減量され

る」あるいは「ほとんど変わらない」ということを含めて出しておいてほしい。
小室委員

この事例の常総環境センターに視察に行ってきたが、費用対効果について資料でわからない部分もある。減量化という視点から、自治体に問い合わせると、紙ベース以上のものが見えてくると思います。できればそこまで提示していただきたいと思います。

江原委員

ごみの減量施設や資源化、焼却施設の単価を出したりして、メリットとデメリットの比較表がほしい。

新清掃工場建設支援担当

この資料を作成するにあたり、各市には問い合わせをして効果等も確認したが、実際にこの取組がどれだけというのは非常に難しい。もう一度詳細に問い合わせはするが、各自治体の効果を、野田市で更に分析するのは難しいと思う。各市の方策について、「どういう減量効果がある」「課題は何か」というかたちでまとめさせていただきたい。

千葉委員

野田市に近い人口の自治体で比較できたらいいのではないかと思います。

新清掃工場建設支援担当

野田市でやっていない取組にはどのような取組があるかを調べたので、このような結果になっています。野田市と同じ規模で、野田市と違った方策をやっているところが見つからなかったというのが現実です。

千葉委員

地道に努力している市で何か参考にできるのがあるのかと調べていたら大都市の名前ばかり出ていたので、気になりました。

(5) その他

鎌野委員

どなたかが資料の申し出を事務局にしたときに、全員に提供いただくという件で、事務局のほうでデータがあるということなら、データをお送りいただければ、郵送費も少なくなるし紙資源の減量化にもつながるので、ご検討いただきたい。

惠委員

減量が処理方式として大きな課題であるということ、減量していくのかということと、一方では減量できない人たちがいて、そこに色々なことが混ざってしまっている状態もあります。処理の際に、除燃材としてプラスチック系などを入れて発電する処理方式もある。減量はどこまで可能で、これ以上無理というときに、それ以外のやり方として、両立させられる処理方式を考えていくという流れでの資料のご提示があると、現実の実現可能な処理方式選択を頭の中

に描きながら、早めに議論が進むのではと感じました。

3. 閉会

新清掃工場建設支援担当

今日の議事録署名は、石塚一男委員と中村利久委員にお願いします。次回第3回の開催は、10月1日午後1時半から市役所8階大会議室になります。議題は「野田市のごみの3R対策」ですが、ごみの3R対策が肝なので、まずはそこからなると考えています。

資料については、本日の意見を踏まえて、今日の資料に追加する形で考えていますので、よろしくをお願いします。

立本会長

以上で、今日の委員会は閉じさせていただきます。長い間ありがとうございました。

この会議録は、発言の主な部分を要約して記載しております。

会 議 録

会 議 名	平成 23 年度第 1 回野田市新清掃工場建設候補地選定審議会
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	1 審議スケジュール(案)について 2 ごみ処理の現状とこれまでの経緯について(報告) 3 野田市におけるごみの 3 R 対策の取組について 4 その他
日 時	平成 23 年 8 月 21 日(日) 午後 2 時 30 分から午後 4 時 55 分まで
場 所	野田市保健センター 3 階大会議室
出席委員氏名	立本 英機、富所 富男、鎌野 邦樹、瀧 和夫、 岡田 稔、石塚 一男、那須野 平一、佐藤 盛、 青木 重、江原 敬二、大柴 由紀、小暮 正男、 笹木 勝利、知久 浩、千葉 美佐子、平井 和子、 古橋 秀夫、松島 高士、柳 掬一郎、横張 一郎、 石原 義雄、小倉 妙子、長南 博邦、小俣 文宣、 小室 美枝子、高梨 守、竹内 美穂、鶴岡 潔、中村 利久、 松本 睦男
欠席委員氏名	恵 小百合
事務局	根本 崇(市長)、今村 繁(総務部長兼新清掃工場建設支援担当)、齊藤 清春(環境部長)、小室 照之(環境部次長兼清掃計画課長)、相島 一美(清掃第一課長)、大和 一夫(関宿クリーンセンター長)、中村 清八(関宿クリーンセンター主幹兼補佐兼収集係長)、菅野 透(清掃計画課長補佐)、高橋 宏之(清掃第一課長補佐)、柳 正幸(清掃計画課ごみ減量係長)、皆川 賢一(清掃計画課計画係長)、知久 友行(清掃計画課主任技師)、小沼 京治(清掃計画課主任主事)、中山 高裕(清掃計画課主任技師)、奈幡 淳一(清掃計画課主任技師)、岡田 勇貴(清掃計画課主任主事) オブザーバー 中外テクノス株式会社 3 名

傍 聴 者	8 名
議 事	平成 2 3 年度第 1 回野田市新清掃工場建設候補地選定審議会の会議結果は次のとおりである。

1 開会

清掃計画課長補佐

本審議会の会議は、野田市新清掃工場建設候補地選定審議会条例第6条第1項の規定により、会長が招集し、議長となります。

本審議会の委員は、先の臨時議会の議決により26名から32名となりましたが、公募委員13名のうち、1名の方より、健康上の理由により辞任させていただきたいとの申し出があり、8月16日付けで「辞任届」の提出がなされ、これを受理致し、31名の委員委嘱となりました。

審議会委員総数31名のうち、半数以上の出席をしていますので、野田市新清掃工場建設候補地選定審議会条例第6条第2項の規定により、会議が成立していることを報告いたします。

議事録作成のために録音させていただきます。

会議について、野田市審議会等の会議に関する要項の規定により、公開会議となっております。8名の方から傍聴の申し出がありましたため、入室を許可することを報告いたします。

2 市長挨拶

まず、お礼を申し上げます。大変難しい審議会になると考えています。後ほど諮問書には書いてありますが、野田の清掃工場は関宿と野田に2つの清掃工場があります。関宿については地元との稼働期限が切れていましたが、地元の御理解の中で延長をお願いしてきましたが、裁判所の和解の中で新たな期限を決めさせていただいています。もう一つの旧野田市の清掃工場ですが、メンテナンスをしていけば運転できるように判断をさせていただいており、今しばらくは使用可能ですが、私どもとしては、いつまでかという将来的に建替えが必要です。たまたま、関宿の候補地として出たところが、一体的でも大丈夫ということであったので、一体的な整備を考えた。いずれどこかに決めなければいけない。われわれとして一つの場所を決めるとなると、どうしても総論は賛成だけれど、各論は反対であるそんな話になります。是非、全市民的立場で御議論を頂き決めていただきたい。候補地として決めて頂いた中で環境の問題の議論が重要です。具体的にどのような焼却をするのか、ごみ量を減らす必要があるなどの点も含めて御議論ください。学識経験者の皆様については、遠くからおいで頂いている方も多いと思います。お忙しいなかお引き受け頂きましてお礼を申し上げます。

自治会連合会、廃棄物減量等推進員会議の代表の方には、今までも地域でのごみ減量に取り組んで頂いているところですが、もうひと絞りをお願いしたいと思います。公募委員の皆様については、臨時議会で条例を変えさせていただきました。7名を想定していましたが13名の応募があり、審査は行いましたが、あまり差がないとのことで、非常に難しい問題で、私どもが恣意的に選定した

と思われた場合は、必ず議会で問題になり、まさにそこから議論が外の方向に行く可能性があった。私どもは、本音で行いたいと申し上げたところですが、全員の皆様に委員となっていただくように、臨時議会で条例を通していただいたところです。残念ながら1名が辞退されました。

審議会につきましては、原則として法令等で定められてない場合は、辞退しますというのが市議会議員の方々からの申し入れ事項であり、それが筋であると思っておりますが、まさに今回の全市民的な議論を進める中で、どうしても議員の方々にも御参加頂きたいとして参加頂きました。どこがいいよとは決まらない中で、どこか決めなければならない。お願いをしたい。非常に難しい問題をお願いすることになります。閉会の期限には、必ず稼働を止めるつもりです。その時期には間に合わないのではないかと思います。なるべく早く、野田市内で処理ができるようになりたいのでよろしくお願いします。候補地等につきまして、私どもが幾つかの候補地のリストを、出させていただいた経緯があります。リストについては、とらわれないで、議論していただきたい。従いまして、私どもが前回、いいのではないかとした場所は、当然入ってくると思っていますし、それ以外の場所も上がってくるように思います。われわれが以前作成した判断基準にとらわれずに、幅広く議論をお願いします。場合によっては、皆様方のすぐ近くが候補地となるかもしれません。この場合でも、個人的な感情ではなく、全体の広い気持ちでお考え頂きたい。よろしくお願いします。

3 委員の紹介

4 事務局職員の紹介

5 会長の指名について

清掃計画課長補佐

本審議会の会長につきまして、条例第5条第2項に「会長は学識経験者である委員のうちから市長が指名する。」と規定されていますので、市長から会長の指名をお願いします。

市長

ただいま、会長については、条例の規定によりまして、学識経験者の委員の方から市長が指名するとの説明がございましたので、会長を指名させていただきます。

会長には、千葉大学の名誉教授の立本先生を指名させていただきます。

立本先生におかれましては、環境技術やごみ処理技術全般を専門分野とされ、これまでも、他市において、当審議会のような委員を数々歴任されており、現在も、千葉市の環境審議会委員として御活躍されております。

従いまして、これまでの豊富な経験からも、当審議会の会長として適任であると判断させていただき、事前に先生に相談したところ、快くお引き受けいただけたとのことでしたので、是非、お力添えをいただきますようお願い申し上げます。

6 会長挨拶

皆様と一緒に、目標達成のために努力いたします。学識経験者を除くと、皆様は野田市の市民であり、市民の代表として選ばれて、ここにいると思います。発言なり行動なりには、責任も当然伴うと思います。地域的な特性も踏まえて、建設的な御意見を頂きたいと思います。皆様方の意見を取りまとめまして、清掃工場を中心とした新しいまちづくりができるよう、微力ながら努力をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

7 職務代理者の指名について

立本会長

富所さんを職務代理者として指名させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

(異議なし。)

8 職務代理者挨拶

会長から御指名を頂きましたので、私なりに精いっぱい努力をさせていただいて、会長のお力になるのはもちろんのことではございますが、今回の審議会の諮問に十分な答申ができますよう、私なりに努めてまいりたいと思います。皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

9 諮問

市長から諮問書の読み上げ、会長に手渡す。

10 議事

立本会長

諮問書の内容は、新清掃工場の建設候補地として最も適する候補地の選定、その他新清掃工場の建設に関する事項について、その重要性や緊急性といったものを踏まえて、慎重かつ迅速に調査、審議、答申をさせていただきたいと思います。時期があって、平成24年の1月を一つの目途とすることになっているので御協力をお願いしたいと思います。

なお、市長には今、諮問を頂き大役を終えて退席をされると思いますが、また問題点等があれば、答申書が終わった後に、懇談会等を設ける時間もあるかと思えます。これから答申書が終わるまでは、市長と我々委員会が直接話すことは時間的にないかと思えます。そういうことで、御理解をいただきたいと思えます。

人数が多いですが、審議会は3時間で終わるようにしたいと思います。超える場合は次回に持ち越したいと思います。

次回には、今日審議した内容を最初に確認していきたいと思えます。

(異議なし。)

(1) 審議スケジュール(案)について

清掃計画課計画係長

資料1について説明する

(意見、質疑応答)

立本会長

審議会の運営につきましては、個々の疑義がでるが、委員は市民の代表である認識が必要であります。次回は、今回の協議内容を確認した上で進める方針でよろしいでしょうか。

(異議なし。)

江原委員

一般廃棄物処理基本計画は2回だけでは、時間が足りないと思います。スケジュールの変更は可能でしょうか。

立本会長

今のところ考えていません。今後の協議によります。まだ何も出ていないのに延ばす、延ばさないということはここでは論議しません。

松島委員

パブリックコメントの結果については、審議会と別個でしょうか。

新清掃工場建設支援担当

別個ではなく、素案をこの委員会で考えていただき、パブコメの結果を踏まえ、この委員会で決めていただきたいと思います。

長南委員

現状スケジュールで、施設稼働は何年になるのでしょうか。大変大きな課題を進めるわけですが、大きな減量化目標を、本当に到達できるかを見極められるのでしょうか。設計できるのでしょうか。

新清掃工場建設支援担当

1月に答申を頂いて、候補地における冬の環境調査を2月に実施したいと思います。審議期間については、期間の延長ではなく、予算上15回の審議会を見込んでいますので、回数を密にして対応したいと思います。施設の稼働時期については、関宿クリーンセンターの26年7月の稼働停止時期には間に合わないのので、最低でも1年半は遅れると考えています。

立本会長

非常にタイトなスケジュールであることを、皆さん認識してもらいたいと思います。

青木委員

11月の中旬に候補地の選定基準がでて、11月下旬に候補地が見つかるのでしょうか。11月半ばまで白紙で、この日程でできるのでしょうか。

新清掃工場建設支援担当

事務局サイドでは、これから課税課の資料、商工会議所、その他の資料を合わせて、幅広く候補地を探します。候補地の選定基準ですが、第6回と第7回では個々では2つに分かれています。このような基準ならこのような所が残

る、ということを示したいと思います。

立本会長

私は、野田市が2回目です。地理的にもよく理解していません。学識経験者も同じと思いますが、今回、資料として野田市の地図が置いてあります。これを参考にさせていただきながら、野田市を歩いていただきたいと思います。

高梨委員

候補地はもう決まっているのではないかと。中里地区が決まるのではないかと認識している。このような条件で示していると中里地区になるのではないかと。中里地区と同じような条件の地区は他にあるのでしょうか。

立本会長

全く白紙と聞いています。

新清掃工場建設支援担当

中里地区が決まった時の選定基準では、他の所はありませんでしたが、今回は前回の基準にとらわれないで、こういう基準では、このような場所が候補地になるというお示しをします。

高梨委員

中里地区と同様な地区はあるのかと聞いているのです。

新清掃工場建設支援担当

今のところはありません。

立本会長

今のところ白紙で進めます。

(2) ごみ処理の現状とこれまでの経緯について(報告)

環境部次長兼清掃計画課長

資料2について説明する。

(意見、質疑応答)

小室委員

関宿地区のごみ量が野田地区より少ない理由は。

環境部次長兼清掃計画課長

ごみの減量と資源回収が熱心なのかと思います。

大柴委員

原告の古布内・桐ヶ作地区環境を守る会、関宿町ゴミ処理場建設反対期成同盟はどういう組織でしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

途中で名前が変わったが、中身は同じ構成です。

大柴委員

具体的に、どのような人たちの集まりなのでしょう。

関宿クリーンセンター長

地元の代表者と聞いています。

長南委員

再質問も、名乗る必要があるのではないのでしょうか。

江原委員

今の時点で、時間がありません。再質問では、名乗るのは不要ではないか。

新清掃工場建設支援担当

記録をとる関係上、できれば名乗ってほしいと思います。

江原委員

再質問時は立つことでよいのではないか。

新清掃工場建設支援担当

再質問時は、立っていただければ対応可能です。

竹内委員

図2 - 5で紙類の量が減ってきているがこの理由は。

環境部次長兼清掃計画課長

紙については表のとおり減少しているが、これは、新聞等は新聞販売店が直接取りにくることもあり、ごみの組成で可燃ごみ中に含まれる紙類が多いことから、もう少し資源に回る可能性があると考えています。

笹木委員

閑宿の施設が停止したあとはどのように対応するのでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

市外の民間の業者で処理をしたいと考えています。

江原委員

22ページの可燃、不燃を合わせた表であるので、誤解のないように表記を変えてほしい。ごみ組成を教えてほしい。

環境部次長兼清掃計画課長

表は可燃ごみの組成で、不燃ごみ組成は別にあります。この表では可燃ごみの組成で、その中にプラスチックや不燃物が入っている割合を示したものです。

江原委員

この表は、可燃ごみにこれだけ不燃ごみが入っていることを示したものでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

そのとおりです。

(3) 野田市におけるごみの3R対策の取り組みについて

清掃計画課計画係長

資料3について説明する。

(意見、質疑応答)

小室委員

2点あります。1点目は機械式堆肥化についての考え方に2種類あるようで、すぐ故障するとの意見と、非常に良いとの意見がありました。野田市の考え方

はどちらでしょうか。もう1点は、現状実施している余ったごみ袋のトイレットペーパーとの交換を継続するのでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

まず1点目ですが、機械式の生ごみ処理機については、すぐに壊れるとの苦情はありません。続いて2点目ですが、そのために不法投棄や野焼きをしているとの指摘もあります。そのあたりの判断を皆さんで御議論頂きたいと思えます。

長南委員

剪定枝の受入は2mを1mに変えたのではなかったでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

収集は1mにしました。持込は2mまでとしています。

松島委員

4つ伺います。

1つ目どのように「わたしたちの野田市」は活用させているのか。

2つ目ですがコンポストのことで購入者へ使用状況の追跡調査をしたほうがいいと思うが、調査はされたのか。

3つ目ですが空き缶回収機はどのようなものか。

4つ目堆肥センターの堆肥は農家のプロ以外への配布はないのか。

です。

環境部次長兼清掃計画課長

1つ目について、「わたしたちの野田市」は副読本で学校の授業で活用されています。その一環として、ほとんどの小学生達が清掃工場や関宿クリーンセンターに見学に来ています。2つ目について、コンポストの補助は一回中断して、再開したもので、初回のときに市民意見はフォローしました。なぜやめたのかの意見が多くて再開したので現時点でフォローはしていません。3つ目の空き缶回収機は、アルミ缶、スチール缶を入れカウントするカードを入れてノートと鉛筆との交換が可能で、市内4箇所、ジャスコ、カワタ、マックスバリュ、関宿支所で行っています。4つ目の堆肥センターの堆肥は堆肥という名前だが養分が少なく繊維質を含む土壌改良剤としての使用になり、現状、量が足りないで農家を対象としています。

新清掃工場建設支援担当

今の説明のうち、副読本については、学校ごとの対応が異なったりすることもあると考えられるので教育委員会に、堆肥については、民生経済部が所管なので、現状の件、確認して次回に回答します。

江原委員

今のコンポストや機械式の3Rの対策の中で、昔は農家が多かったと思いますが、今はサラリーマンの方が多くなっていると思います。使用しているのは、農家の方が多いのか、サラリーマンの方が多いのか、そのパーセンテージは捉

えているのでしょうか。

また、野焼きの家庭が多いように思いますが、把握するための方策は取っているのでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

コンポストは、土地に穴を掘って使用するもので、機械式は屋内で使用します。利用している農家の戸数などの統計は取っていません。

ごみを燃やす、野焼きの苦情件数は減っています。ごみではなく、落ち葉などを燃やしているというのが現状です。

松本委員

放射能の問題があり堆肥化をやめるとなっているが、長期的な考え方は。

環境部次長兼清掃計画課長

3月以降については堆肥化していません。計りますと3月以降が高いようであるので、堆肥化する予定はないと聞いています。

松本委員

長期的な影響はどのように考えているのか。

環境部次長兼清掃計画課長

次回に担当課に確認して回答します。

千葉委員

コンポスト等の補助金は年間、何件までと決められているか。予算的に何件までが可能であるのでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

予算が足りなくなって却下したものはありません。予算的に何件まで可能であるか、次回に回答します。

大柴委員

空き缶回収機ですが、野田市の回収機は丸いまま投入だが、店舗では潰してだすように案内があるが。統一性はできないのでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

空き缶回収機は、丸い状態でないと投入口で詰まる可能性があるのもので、そのままお願いしたいと思います。

大柴委員

空き缶回収機の記念品ですが、鉛筆は使わないのでシャープペンの芯のほうがいいのではないのでしょうか。

環境部次長兼清掃計画課長

最後まで使用できるなどの理由で鉛筆だと思います。御意見として伺います。

(4) その他

立本会長

その他、意見がありますか。

長南委員

現時点での結論は求めないが、委員会の運営について、審議会の傍聴に多数来るのではないかと思います。審議会で決まった状態で、地元の説明すると押し付けられる印象をもつので、できれば利害関係者については、適切な時に傍聴人からも事前に意見を聞く方法も考えられるのではないのでしょうか。いろいろなメリットやデメリット、リスクを共有するリスクコミュニケーションという方策も頭においてほしいと思います。

立本会長

意見は伺いますが、私としては一般の方は傍聴可能なので、自由に傍聴していただきたい。傍聴者の方が意見をお持ちだとは私も分かります。この委員会では皆さんは市民の代表です。地元へ帰って説明をする必要もあります。傍聴者に来ていただいて意見を述べてもらうことは、今のところ私は考えておりません。

長南委員

今まではそれでよかったが、今回の最終候補地まで決めて地元対策まで決定までするなど、大きな課題を背負わされています。結論は出してから地元話すよりも、一定程度地元意見を聞き、例えば市議会条例についても、参考人の話を聞く条項もあるので、その対応でもよいが、これからは、メリットやデメリット、リスクを共有するリスクコミュニケーションが必要です。私は代表だと思っているが、相手側は分からない。信頼関係が重要である。科学的な説明についても、信頼関係がなければ進まない。今回は反対運動や早く出て行ってほしいという運動をした方もいるので、これからは、そのような意見も活かされていくべきだと思うので、今、決めなくていいですが要望します。

立本会長

要望としてお聞きします。原則としてそのような意見は、皆さんがこの委員会で意見を述べてください。

知久委員

地域の人意見まで、聞かなければいけないのですか。そのようなことをしていたら決まらない。私が来たのは条件をあまり考えないで、ごみ処理場としてどこが適切かを示すために来た。住民の意見を聞いていたら決まらない。総論賛成各論反対なのだから決まらない。私もそのようにやってきた。

江原委員

審議員の公募案内の中で、候補地の選定、答申までとなっています。地元住民云々というものは、答申とは異なります。もっと先のことです。この線引きだけは明らかにし、あらかじめ決めなければならないと思います。公募の中でここまでとしたものを正とするのか、市へ要望する、地元民への説得まで入るのを明確にする必要があると思います。

長南委員

市議会条例については書いていないが、議会で審議したときには、当局はそ

のようなことを想定してお願いしたいと、どうも認識が違うようなので、そこを説明していただきたいと思います。

江原委員

当局云々ではなく、その部分も含めてどうするかを委員会で決めれば良いのではないか。

長南委員

条例に基づいて行われている審議会である。

江原委員

それは、公募の中でうたっていることと変わってきてしまうが。審議会で決めるのであれば決めて良いと思う。ただ、議会でやったとかというのではなく、審議会の中で揉んでいただいて、審議会で決めていただいて良いのではないか。

鎌野委員

清掃工場の建替えについては、今2つある地域は、今回検討の範囲に入っていないと考えて良いのか。それとも含めて検討するのか。

新清掃工場建設支援担当

今おっしゃった御質問のように考えています。三ツ堀の清掃工場については、既に一度建て替えています。再度の建て替えというのは、これまでの経過から考えても無理だということで、今回、中里を検討した時も、当初から候補地としては見ていません。それから、当然閑宿クリーンセンターについても、和解していますので、そのすぐ近くにとすることは考えていません。

富所委員

清掃工場は、都市施設として必要であるということは、どなたも異論がないと思います。総論では賛成です。わが町にくるとなれば反対になります。このたびの諮問は、複数の候補地を選定してくださいという中には、結果だけを答申するだけでははく、それに至った経過というか、全景を議論してくださいということです。地元対策についても審議会で協議し、浸透していくような努力をしなければなりませんし、これならば、そうだなと思っていただくような、清掃工場に対するイメージチェンジが必要です。是非、我がまちに清掃工場をと思っていただきたい。東京のごみ戦争時には、当時の知事は、床の間に清掃工場をと言っていました。過去の議論の中では、住民から少し遠ざけるような形で、選定した方がいいのかなという議論もあります。そういうところも取り払い、これだけ住宅が密集した、全く関係のない土地はないので、市役所の横に焼却施設がある事例もあります。総論と各論が一致するような議論を進めたいと思います。市にお願いですが、資料2-6に平成22年度ごみ組成の結果が出ていますが、平成7年度の実績を見せていただきたい。指定袋制度の前後の組成を知りたい。また、ごみの組成をみて、可燃ごみの中に、なぜ不燃ごみが入っているのか、と言う素朴な疑問を感じる方もいると思います。その辺を資料で確認したいと思います。申しあげたいことは、分別を徹底させることによ

って、ごみの減量、資源化が可能な余地がこのような形で残っているのだ、と
言うことが分かると思います。少なくとも平成 22 年度の組成分析の結果だけ見
ても、紙類の組成がかなり高いと思います。野田市はかなり一人当たりのごみ
減量は進んでいると思いますが、ただ、もっとごみ減量の余地があるかどう
かが問題なわけです。ごみの性状とごみの量は、どういう施設が必要なのか、
その施設がどういう規模が必要なのかを判断する重要なデータになりますので、
是非、施策とそれに対応する実績、それを比較しながら、見やすく提示してい
ただければありがたいと思います。よろしくをお願いします。

瀧委員

フリートキングする場があっても良いのではないかと。総論賛成各論反対と
いう意見があります。総論賛成の範囲で、どの程度の施設であれば各論に持っ
ていけるのか、という話合いが必要ではないかと思います。焼却施設は、技術的
に向上していますので、場合によっては、皆様が期待できるような、施設の建
設は可能であると思います。市の財政が組み込んでいくことができるのか、そ
のような話もしなくてはなりません。現実を踏まえた、理想的な焼却施設のイ
メージを作らないと、次の段階に進めないと思います。続いて、どこにもって
きたらとなるので、その辺までいった場合は、わが方で引き受けましょうか、
との意見にもなります。その中で、技術的な面で、もしこの施設が悪くなった
場合、大気汚染や地下水のデータが必要であります。風向きがどうなのか。井
戸を使用している区域がどこら辺なのか。地下水の流れはどのようになっている
のか。地質、地層等の情報も必要ではないかと思います。燃やすわけですから、
最近の技術から見ると発電という考え方があります。それから、現実を見て
という話になりますと、燃やすわけなので時には熱が出てきます。これは最
近の技術的なものから見ると、資源という見方もできるということです。皆さ
ん、御承知のように電気には太陽電池、バイオ電池の考え方があります。それ
から、古くは温水プールをつくらうではないかという話、最近では幼稚園や老
人ホームなどを巻き込んだかたちでの菜園といったらいいのか、老人の方も生
きがいを求める意味で、1年中稼働するような、菜園の熱源としてこれを使
おうではないかと、いろいろな工夫があるかと思っています。そういう意味で、フ
リートキングに近い形での議論も必要ではないでしょうか。そのような時間
を設けてもらいたい。

石塚委員

大変なところに入ってしまったという印象です。ごみの問題はいかに難しい
か、総論賛成、各論反対という当たり前の事項があります。この問題について
は、十分に分かっている人と、私みたいに分からない人、若い人、年配の人な
どいろいろいます。情報の差がずれていると思います。今回は、原点に戻って
白紙の段階で、現実が現実、実績は実績、経過は経過として、絶対起こしては
いけないことはいけないこととして、例えば関宿クリーンセンターも法的には、

ほとんど決まっているわけで、そこを突っ込んでいっても話にならないということです。場所の選定と、いかにコンパクトな施設にするかが重要であると思います。一番重要なのは、場所の選定ですが、皆さんが野田市のことを分かっている人がいるのかと思います。各人が言っても、想定外のところしか出てこないのではないかと思います。非常に難しいけれど原点に戻って、総論賛成各論反対ではなく、みんなで決めたところを、みんなで野田市はやっていくんだと考えてほしいと思います。

立本会長

非常に貴重な意見を頂きました。私も野田市にあまり来ていない。委員会としても野田市はどのようなまちなのか、勉強会を開き、見学会を開いていただきたい。事務局に検討をお願いします。

長南委員

委員会の役割について、認識の統一が出来ていないと思います。

松島委員

非常に勉強になりました。もしできたら、月に1回や2回でも有志だけでいいので勉強会を開催してほしいと思います。

立本会長

市長さんが、市民的なコンセンサスが必要だと言っていたので、是非、事務局に検討をお願いします。

古橋委員

この審議会は、ものすごく難しいことをしようとしている。情報の格差があるため、フリートーキングが重要である。情報の共有化も重要である。現場を踏まえた議論が重要である。議事録を残す会議ではなく、良い内容の良い結論を出すことを目的としたいと思います。

立本会長

議事録については、議事録署名人を設けてできる限り、漏れのないようにしたい。議事録署名人については、第一回目でありますので、名簿6番目の岡田稔さんと31番の松本睦男さんをお願いしたいのですがよろしいでしょうか。次回の審議会からは、13時30分からにしてよろしいでしょうか。

(異議なし。)

立本会長

これで本日の議事は終了とします。

新清掃工場建設支援担当

次回は9月3日の午後1時30分に市役所8階大会議室で行います。ごみの3Rについての資料をできるだけ早く、土日挟むようにご送付したいと思います。しかし、場合によっては、できた資料からお送りする場合がありますので、御了承ください。また、欠席の場合は、議事に対する御意見、御要望をお寄せ頂きたいと思います。事務局から、発表させていただきたいと思います。有志

での勉強会については9月3日までは難しいので、どのような形にするのか、それまでに整理したいと思います。それ以降に検討します。また、長南委員の御意見ですが、議会の方でも申し上げましたけれど、条例第7条の取扱い及び地元対策に対してどのような対応が望ましいのかも含めて、この審議会で決めていただきたいと思います。いずれも、審議会で決めていただくようお願いします。

この会議録は、発言の主な部分を要約して記載しております。

生ごみ堆肥化装置の購入者の生活形態について

平成18年度 生ごみ堆肥化ヒヤリング等調査結果

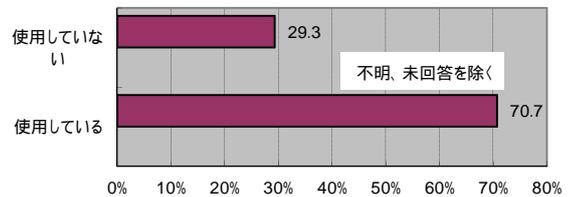
有効回答率：29.3%（232件。回答有が68件、回答拒否が5件、その他連絡先不明、不在159件）

結果の概要 回答者の約7割が処理機を使用しており、可燃ごみ量の減量化、堆肥の有効利用等が良かったとしている。処理機を使用して良かった点では、可燃ごみ量の減量、堆肥の活用となっており75%を占めている。可燃ごみの減量化率は回答者の約半数が可燃ごみを出さなくなったとしている。処理機は、8割以上が継続的に使用するとしている。使用しないでは、装置の故障、コストを挙げている。生ごみ処理機等購入補助金制度は、販売店で知ったが約5割と、市のPRが不足していると言える。助成制度については、約6割が評価するとともに継続を求めている。

質問1 処理機を現在も使用していますか。

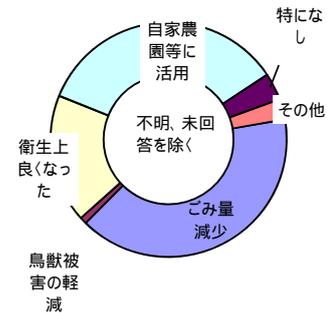
(SA)	(1)使用している	25.4%	(70.7%)
	(2)使用していない	3.9%	(29.3%)
	(3)不明、未回答	70.7%	-

注) (. %) は、不明、未回答を除いた割合



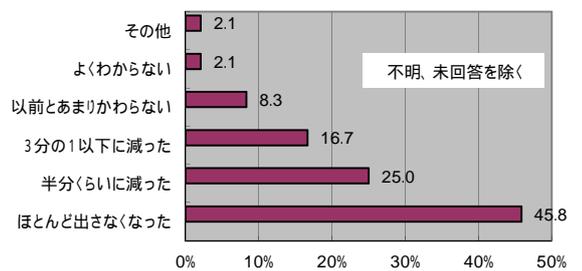
質問2 使用してみて良かった点は何ですか。（複数回答可）

(MA)	(1)燃えるごみの量（回数）が減った	18.5%	(40.2%)
	(2)カラスや猫の被害が軽減された	0.4%	(0.9%)
	(3)台所の臭いがなくなり衛生上良くなった	8.2%	(17.8%)
	(4)堆肥を自家農園等に活用できた	15.9%	(34.6%)
	(5)特になし	1.7%	(3.7%)
	(6)その他（糞対策、草を堆肥等）	1.3%	(2.8%)
	(7)不明、未回答	53.9%	-



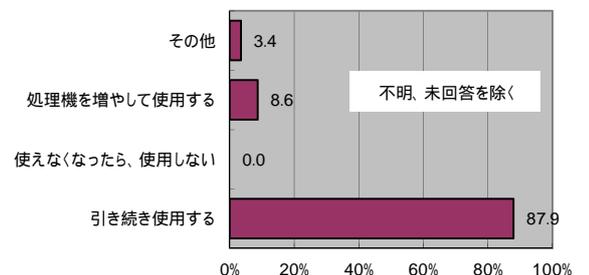
質問3 処理機を使用してから、生ごみを「燃やせるごみ」として

(SA)	出す量に変化はありましたか。		
	(1)ほとんど出さなくなった	9.9%	(45.8%)
	(2)半分くらいに減った	5.4%	(25.0%)
	(3)3分の1以下に減った	3.6%	(16.7%)
	(4)以前とあまりかわらない	1.8%	(8.3%)
	(5)よくわからない	0.5%	(2.1%)
	(6)その他（生ごみを使用していない）	0.5%	(2.1%)
	(7)不明、未回答	78.3%	-



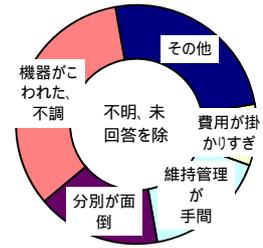
質問4 使用している処理機の今後の使用予定を教えてください。

(SA)	(1)引き続き使用する	22.0%	(87.9%)
	(2)使えなくなったら、使用しない	0.0%	(0.0%)
	(3)処理機を増やして使用する	2.1%	(8.6%)
	(4)その他（節電上停止、壊れたら更新等）	0.9%	(3.4%)
	(5)不明、未回答	75.0%	-



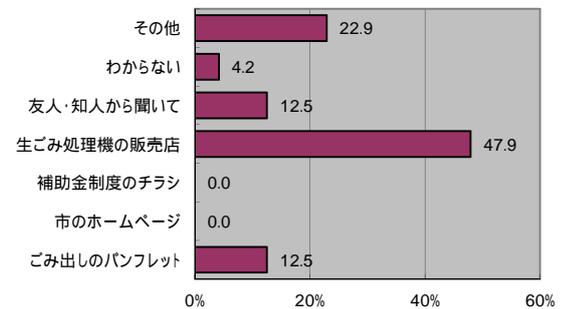
質問5 使用していない理由は何ですか。(複数回答可)

(MA)	(1)臭いが臭いが気になった	0.0%	(0.0%)
	(2)音が気になった	0.0%	(0.0%)
	(3)費用がかかりすぎた	0.4%	(8.3%)
	(4)維持管理に手間がかかりすぎた	0.9%	(16.7%)
	(5)生ごみの分別が面倒になった	0.9%	(16.7%)
	(6)機器がこわれた(機器の調子が悪い)	1.7%	(33.0%)
	(7)堆肥がうまく作れなかった	0.0%	(0.0%)
	(8)できた堆肥の使い道がなかった	0.0%	(0.0%)
	(9)その他(節電、裏庭に捨てる)	1.3%	(25.0%)
	(10)不明、未回答	94.8%	-



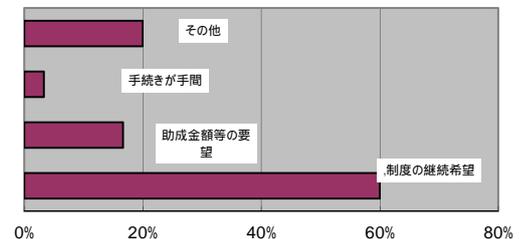
質問6 生ごみ処理機等購入補助金制度を何で知りましたか。

(SA)	(1)ごみ出しのパンフレット	2.0%	(12.5%)
	(2)市のホームページ	0.0%	(0.0%)
	(3)補助金制度のチラシ	0.0%	(0.0%)
	(4)生ごみ処理機の販売店	9.9%	(47.9%)
	(5)生ごみの分別が面倒になった	2.6%	(12.5%)
	(6)友人・知人から聞いて	0.9%	(4.2%)
	(7)その他(市報、窓口、常識等)	4.7%	(22.9%)
	(8)不明、未回答	79.3%	-



質問7 市の助成制度について、ご意見があればお聞かせください。

(FA)	(1)よい制度だ、継続希望	60.0%
	(2)助成額増額、助成率アップ等	16.7%
	(3)手続きに時間がかかりすぎる	6.7%
	(4)その他(電気代が高い、修理等のアフターサービス要望)	20.0%



野田市のごみ質について

1. ごみ質調査について

本市にある野田市清掃工場及び野田市関宿クリーンセンターでは毎年4回から6回ごみ質の調査を行っています。本市のごみ質の性状を把握するために、野田市清掃工場については昭和61年度から平成22年度までの151回、関宿クリーンセンターについては平成15年度から平成22年度までの44回の分析結果についてごみ組成の傾向確認を行いました。

【調査対象期間】

野田市清掃工場	昭和61年度～平成6年度(54回)《指定袋制導入以前》 平成7年度～平成22年度(97回)《指定袋制導入後》
野田市関宿クリーンセンター	平成15年度～平成22年度

2. 調査結果について

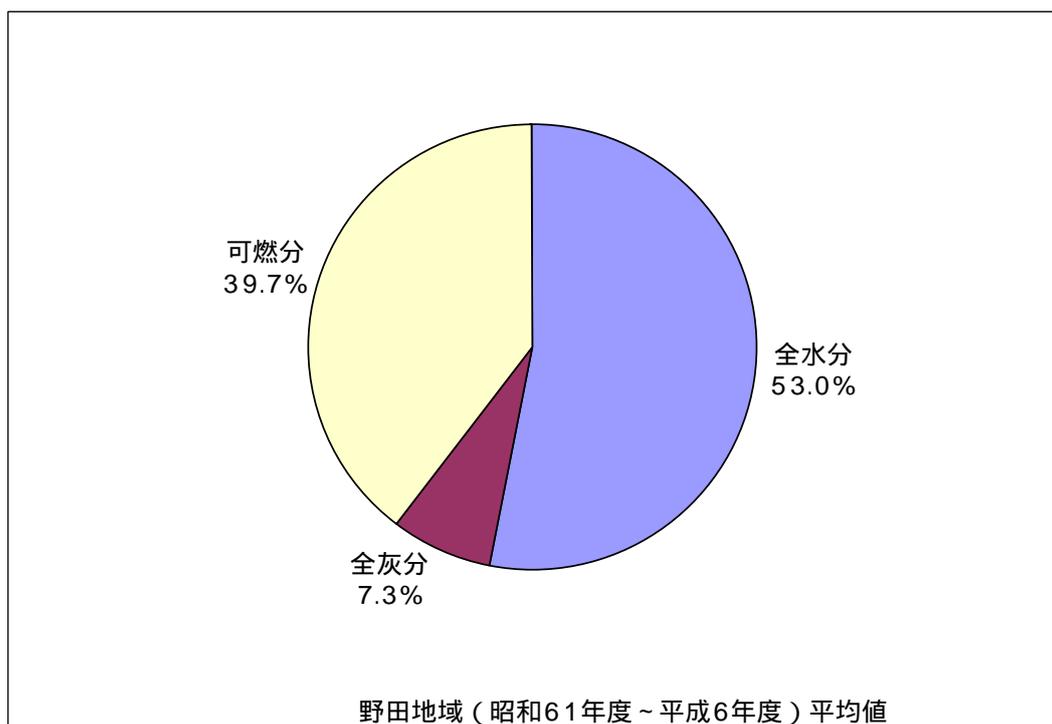
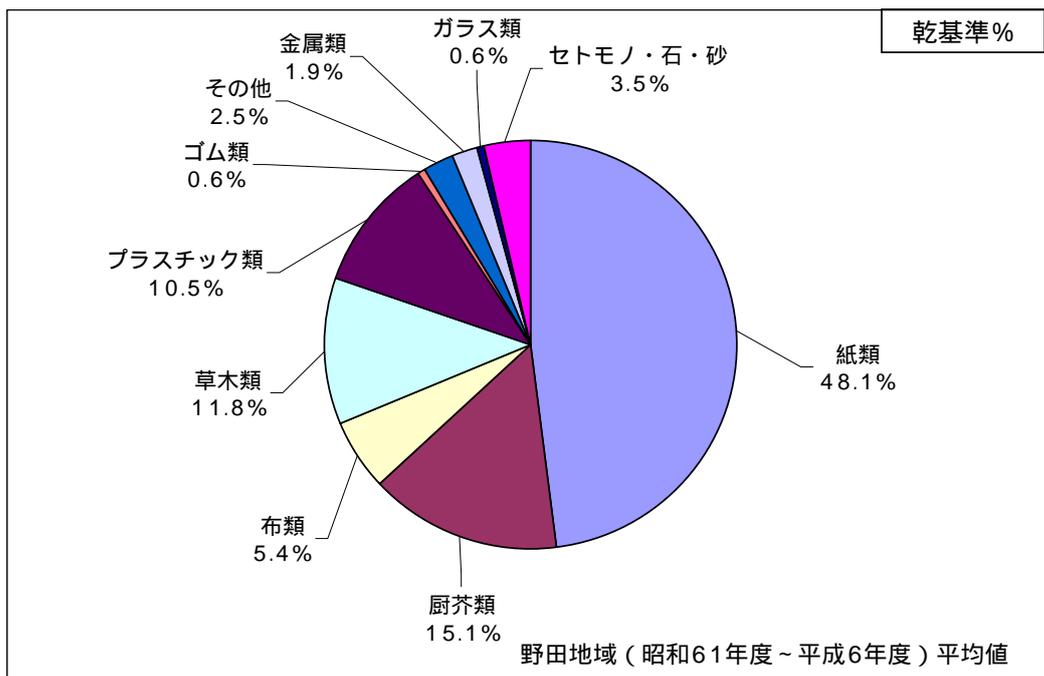
(1) 昭和61年度から平成6年度までの野田市清掃工場におけるごみ質の傾向について

昭和61年度から指定袋制の導入前年までの平成6年度までの54回の分析結果について整理したものを表-1に示します。

表-1 野田市清掃工場でのごみ質調査結果(昭和61年度～平成6年度)

		資料個数	平均	最小	最大	
比重	kg/l	54	0.245	0.106	0.377	
全水分	(%)	54	53.0	31.6	67.6	
全灰分	(%)	54	7.3	3.6	13.1	
可燃分	(%)	54	39.7	28.8	55.3	
ごみ種類組成基準%	紙類	(%)	54	48.1	25.6	71.6
	厨芥類	(%)	54	15.1	1.2	38.2
	布類	(%)	54	5.4	0.1	16.9
	草木類	(%)	54	11.8	2.0	35.7
	プラスチック類	(%)	54	10.5	5.4	26.5
	ゴム類	(%)	54	0.6	0.0	6.4
	その他	(%)	54	2.5	0.4	6.4
	金属類	(%)	54	1.9	0.4	4.2
	ガラス類	(%)	54	0.6	0.0	8.2
	セトモノ・石・砂	(%)	54	3.5	0.7	16.1
不燃物混入率	(%)	54	16.6	8.0	30.6	

不燃物混入率 : 不燃物(プラスチック類、金属類、ガラス類、セトモノ・石・砂)の割合(乾基準)



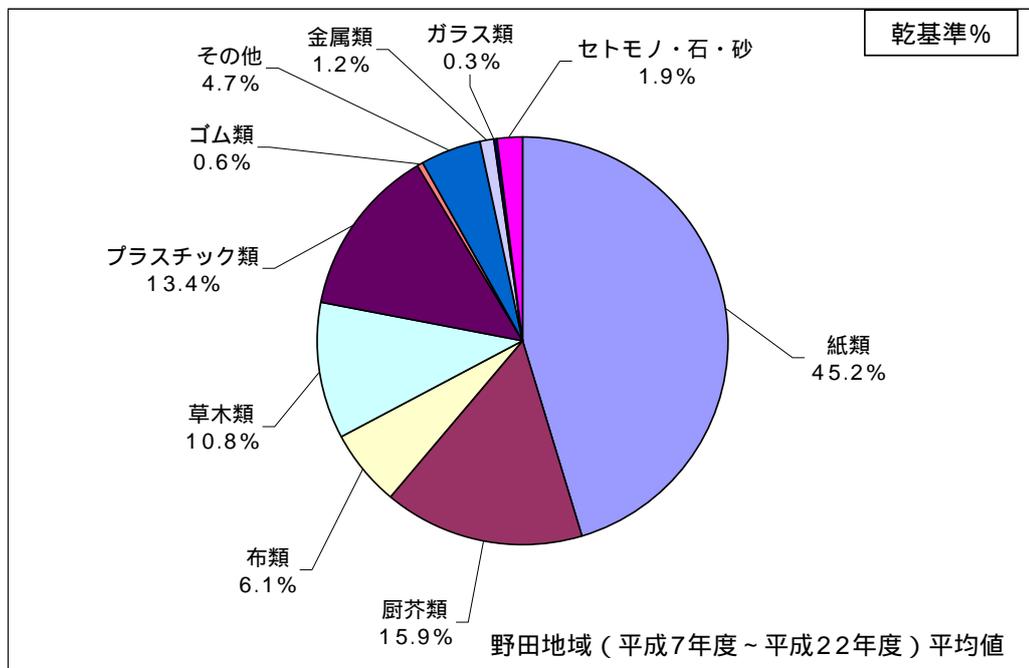
乾燥ベースでのゴミ組成分析結果では 48%の紙類が含まれており、厨芥類が 15%程度含まれています。一方、塵芥ベース(湿ベース)でゴミの3成分をみると 53%の水分が含まれています。

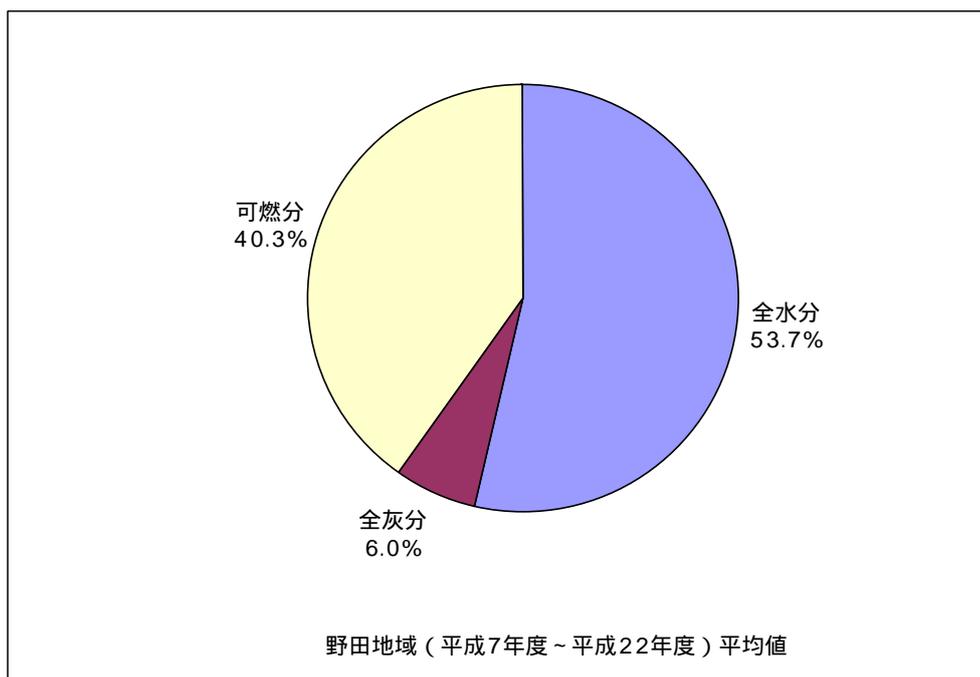
(2) 平成7年度から平成22年度までの野田市清掃工場におけるごみ質の傾向について

指定袋制が導入された平成7年度から平成22年度までの97回の分析結果について整理したものを表-2に示します。

表-2 野田市清掃工場でのごみ質調査結果(平成7年度~平成22年度)

		資料個数	平均	最小	最大	
比重	kg/l	97	0.217	0.024	0.405	
全水分	(%)	97	53.7	37.0	70.0	
全灰分	(%)	97	6.0	2.0	13.3	
可燃分	(%)	97	40.3	30.7	58.8	
ごみ種類組成乾基準%	紙類	(%)	97	45.2	19.8	66.8
	厨芥類	(%)	97	15.9	1.7	49.8
	布類	(%)	97	6.1	0.1	33.7
	草木類	(%)	97	10.8	0.0	36.4
	プラスチック類	(%)	97	13.4	2.3	35.8
	ゴム類	(%)	97	0.6	0.0	12.3
	その他	(%)	97	4.7	0.1	18.8
	金属類	(%)	97	1.2	0.0	12.1
	ガラス類	(%)	97	0.3	0.0	3.4
	セトモノ・石・砂	(%)	97	1.9	0.0	11.9
不燃物混入率	(%)	97	16.7	5.5	36.2	





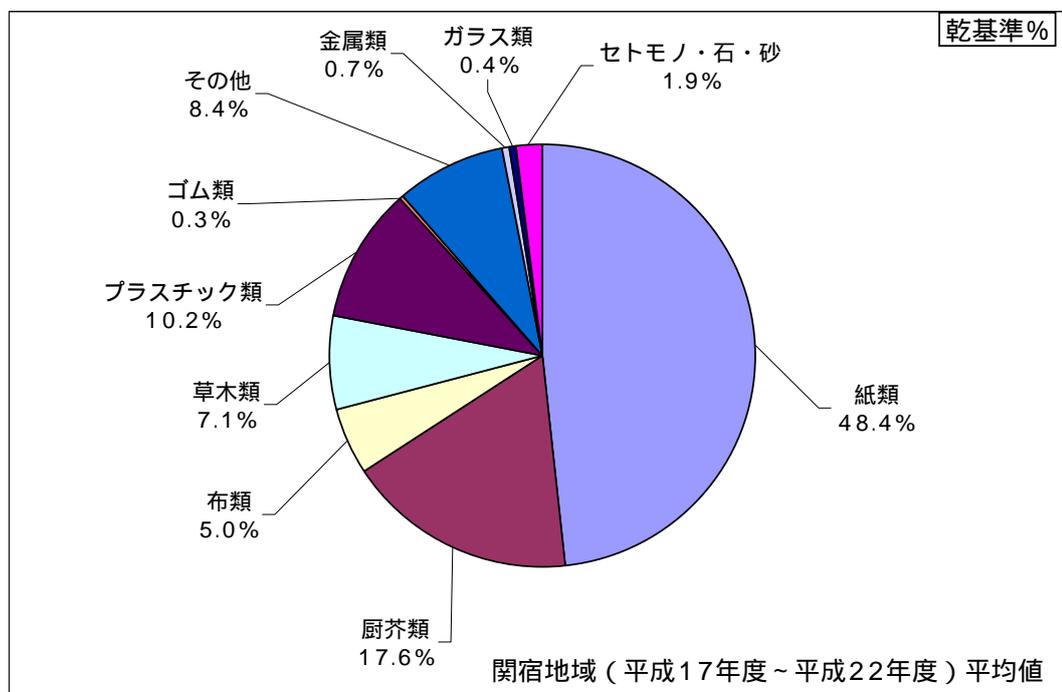
乾燥ベースでのごみ組成分析結果では 45.2%の紙類が含まれており、厨芥類が 16%程度含まれています。一方、塵芥ベース（湿ベース）でごみの3成分をみると 54%の水分が含まれています。

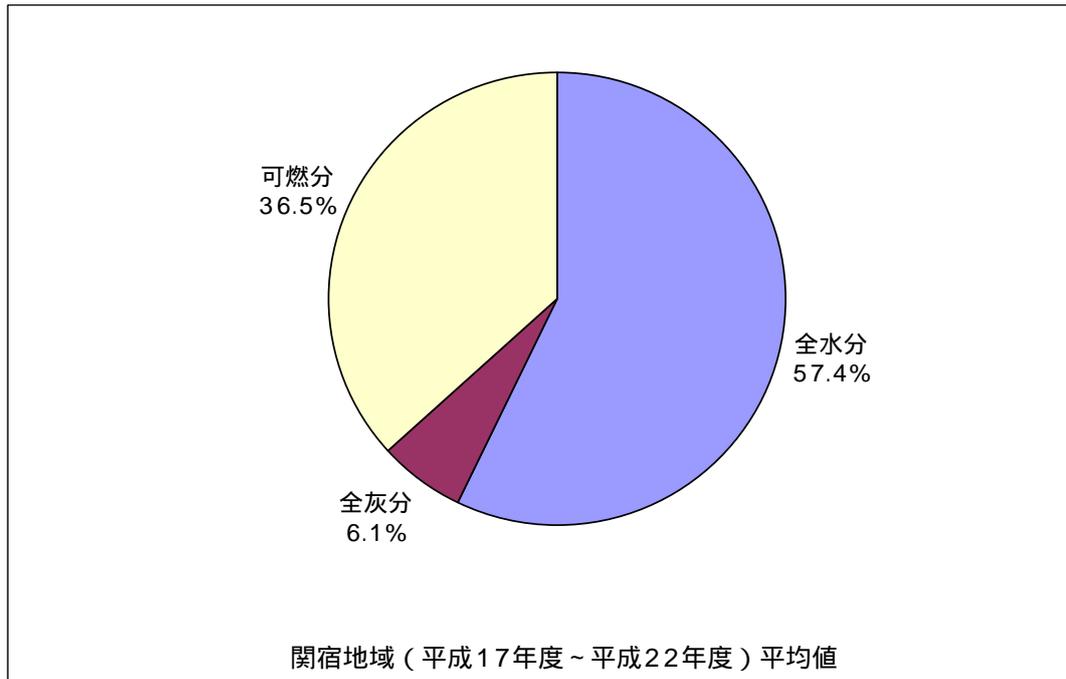
(3) 平成15年度から平成22年度までの関宿クリーンセンターにおけるごみ質の傾向について

平成15年度から平成22年度までの44回のデータの確認を行いました。平成15年度及び平成16年度のデータについては調査対象のごみ種類組成が後年度と異なる(紙と布類が一区分となっているなど)ため、平成17年度から平成22年度までの36回のデータについて、分析結果の整理を行いました。結果を表-3に示します。

表-3 関宿クリーンセンターでのごみ質調査結果(平成17年度~平成22年度)

		資料個数	平均	最小	最大	
比重	kg/l	36	0.268	0.112	0.394	
全水分	(%)	36	57.4	45.0	69.2	
全灰分	(%)	36	6.1	2.7	16.2	
可燃分	(%)	36	36.5	25.2	49.4	
ごみ種類組成乾基準%	紙類	(%)	36	48.4	34.2	70.7
	厨芥類	(%)	36	17.6	4.8	44.8
	布類	(%)	36	5.0	0.0	14.6
	草木類	(%)	36	7.1	0.5	20.5
	プラスチック類	(%)	36	10.2	2.4	18.5
	ゴム類	(%)	36	0.3	0.0	1.8
	その他	(%)	36	8.4	1.1	21.1
	金属類	(%)	36	0.7	0.0	3.2
	ガラス類	(%)	36	0.4	0.0	11.1
	セトモノ・石・砂	(%)	36	1.9	0.0	10.9
不燃物混入率(%)		36	13.3	2.4	25.4	





乾燥ベースでのごみ組成分析結果では 48.4%の紙類が含まれており、厨芥類が 17.6%程度含まれています。一方、塵芥ベース（湿ベース）でごみの3成分をみると 57.4%の水分が含まれています。

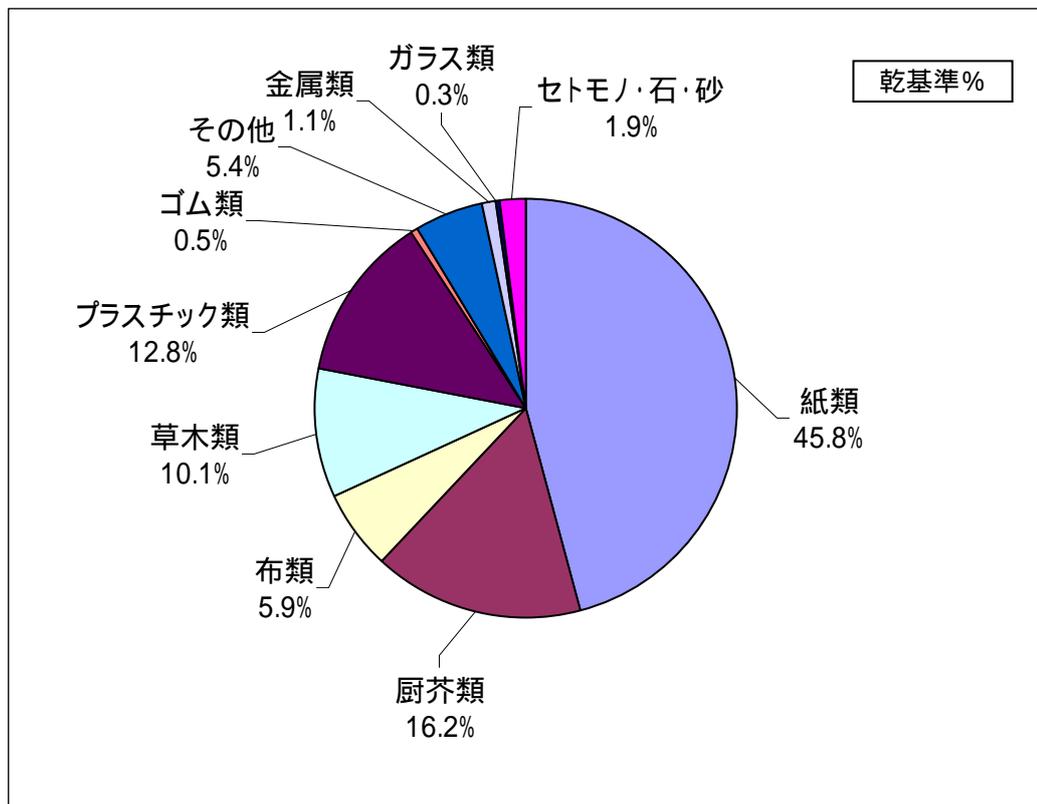
3. 本市の現状のごみ組成について

(1) 本市の現状の平均ごみ種類組成の推計

表-2 及び表-3 に示しました野田地域及び関宿地域における平均ごみ種類組成を用いて、平成22年度の各地域人口により加重平均を行って推計したものを表-4 に示します。

表-4 現状の平均ごみ種類組成の推計結果

		野田地域	関宿地域	野田市平均	
比重	kg/l	0.217	0.268	0.226	
全水分	(%)	53.74	57.4	54.4	
全灰分	(%)	5.95	6.1	6.0	
可燃分	(%)	40.31	36.5	39.6	
ごみ種類組成 乾基準%	紙類	(%)	45.2	48.4	45.8
	厨芥類	(%)	15.9	17.6	16.2
	布類	(%)	6.1	5.0	5.9
	草木類	(%)	10.8	7.1	10.1
	プラスチック類	(%)	13.4	10.2	12.8
	ゴム類	(%)	0.6	0.3	0.5
	その他	(%)	4.7	8.4	5.4
	金属類	(%)	1.2	0.7	1.1
	ガラス類	(%)	0.3	0.4	0.3
セトモノ・石・砂	(%)	1.9	1.9	1.9	
不燃物混入率	(%)	16.7	13.3	16.1	
平成22年度 人口 (4月1日)	(人)	127,888	29,145	157,033	



(2) 湿分ベースへごみ組成割合の推計

湿分ベースへの推計換算には2つの手法を実施しました。

ごみピット内から採取した各ごみ組成水分量(文献値)を用いて推計を行う

ごみ種類組成の本来持っている水分量(文献値)を用いて推計を行う。

【資料 都市ごみの水分】

	ごみピット内での水分量(%)	備考(参考とした品目)	本来の水分量(%)	備考(参考とした品目)
紙類	30.2	新聞紙	8.9	新聞紙
厨芥類	69.6	植物性厨芥	76.2	植物性厨芥
布類	4.6	木綿	4.6	と同じ
草木類	34.5	草	34.5	と同じ
プラスチック類	24.1	ナイロン	2.4	ビニール袋
ゴム類	1.3	ホース	1.3	と同じ
その他	8.9	新聞紙 ²	8.9	と同じ
金属類	0		0	
ガラス類	0		0	
セトモノ・石・砂	0		0	

資料：ごみ処理施設整備の計画・設計要領 2006 改訂版社団法人全国都市清掃会議 p.138 から抜粋加工

上記資料中においてごみ焼却施設で採取した試料として示された値

²「その他」とは5mmのふるいを通過したもので品目として参考値がないことから紙類を想定しました。

【3成分及びごみ種類組成(乾基準及び湿基準)のイメージ】

湿基準(3成分)(%)	水分量(54.4%)			可燃分(39.6%)							灰分(6.0%)		
湿基準(%)	水分量(54.4%)			可燃物(45.6%)									
乾基準(%)				紙類	厨芥類	布類	草木類	プラスチック類	ゴム類	その他	金属類	ガラス類	セトモノ・石・砂
湿基準(%)				紙類	厨芥類	布類	草木類	プラスチック類	ゴム類	その他	金属類	ガラス類	セトモノ・石・砂

ごみピット内から採取した各ごみ組成水分量(文献値)を用いて推計を行う

ごみ調査時に各成分の水分量を測定して算出する方法に近い推計方法となります。なお、対象ごみ質の3成分の測定で得た水分量が各ごみ成分に分布しているものとして按分して算出しました。

ごみ種類組成の本来持っている水分量(文献値)を用いて推計を行う。

ごみ調査時に各成分の水分はほとんどが厨芥類(生ごみ)から移行したもので、生ごみ以外の成分の水分量は本来少ないことが想定されます。これを考慮して、同様に水分量を各ごみ

成分に按分して算出しました。

表 - 5 湿基準（推計）によるごみ種類組成

単位：湿ベース%

紙類	36.9	24.7
厨芥類	37.5	52.4
布類	2.9	2.9
草木類	8.9	9.2
プラスチック類	9.1	6.1
ゴム類	0.2	0.2
その他	2.9	2.9
金属類	0.5	0.5
ガラス類	0.2	0.2
セトモノ・石・砂	0.9	0.9
合計	100	100

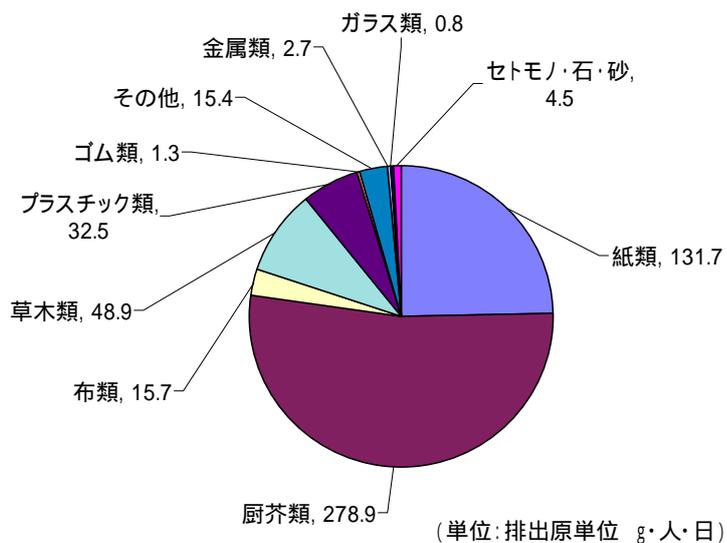
【採用するごみ種類別組成及び原単位】

現状ごみ質調査結果から確認できる水分量のほとんどが厨芥類（生ごみ）から移行した水分と考えられます。排出状態である湿ベースでの組成割合を推計するためには、各組成の水分量として平常時の水分量を用いる方法の方が好ましいと考えられます。したがって、ここではの手法による結果を本市の湿ベースのごみ組成割合として採用します。

なお、平成 22 年度における焼却処理原単位が 532.43 g/人日を用いてごみ種類組成ごとの原単位を試算したものを表 - 6 に示します。

表 - 6 ごみ組成別原単位（湿基準）

	排出原単位
紙類	131.7
厨芥類	278.9
布類	15.7
草木類	48.9
プラスチック類	32.5
ゴム類	1.3
その他	15.4
金属類	2.7
ガラス類	0.8
セトモノ・石・砂	4.5
	532.43

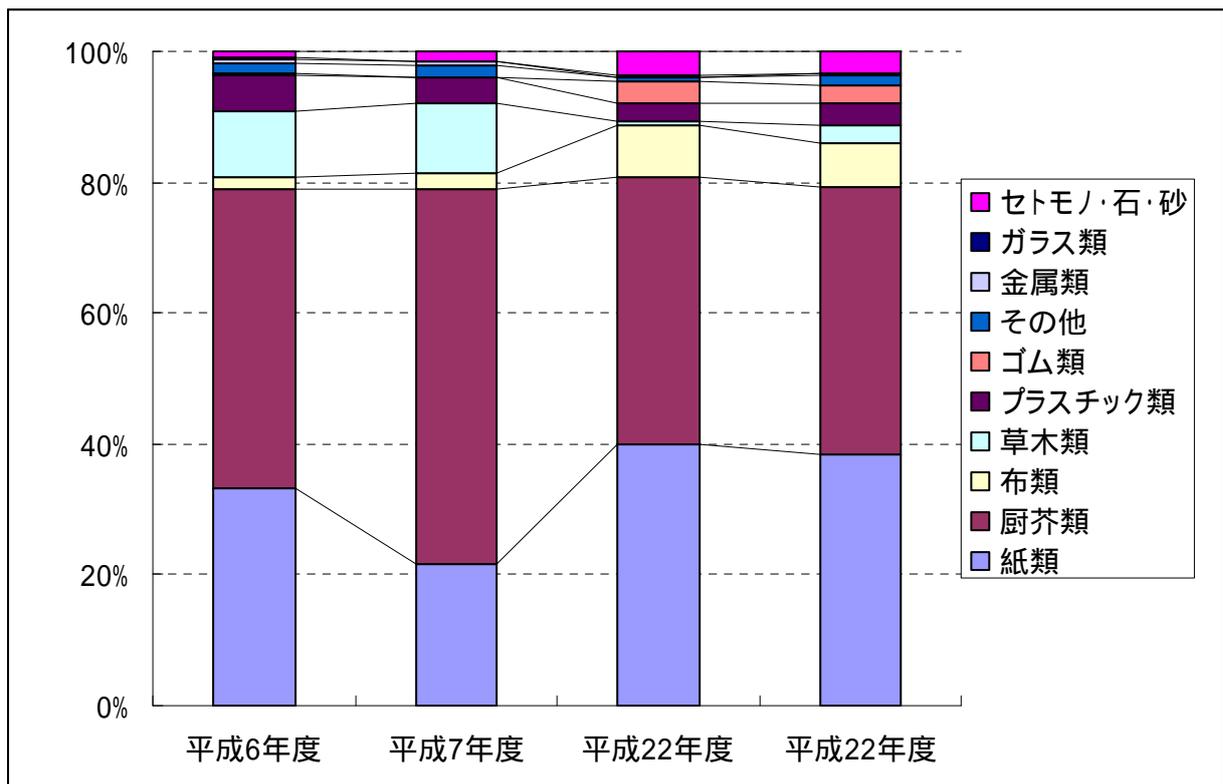


【参考 野田市清掃工場における指定袋制導入前後のごみ組成比較（湿ベース換算）】

表 - 7 野田市清掃工場におけるごみ組成比較（湿基準%）

		平成 6 年度	平成 7 年度	平成 22 年度	平成 22 年度
紙類		33.1	21.6	39.9	38.3
厨芥類		45.6	57.4	40.9	40.8
布類		1.9	2.4	8.0	6.9
草木類		10.2	10.8	0.6	2.7
プラスチック類		5.5	3.9	2.8	3.2
ゴム類		0.1	0.0	3.4	2.8
その他		1.6	1.8	0.4	1.5
金属類		0.5	0.5	0.1	0.2
ガラス類		0.3	0.1	0.3	0.2
セトモノ・石・砂		1.0	1.5	3.7	3.3
備考	調査場所	清掃工場	清掃工場	清掃工場	清掃工場と関宿の加重平均
	(抽出理由)	指定袋制導入前	指定袋制導入後	最新データ	最新データ

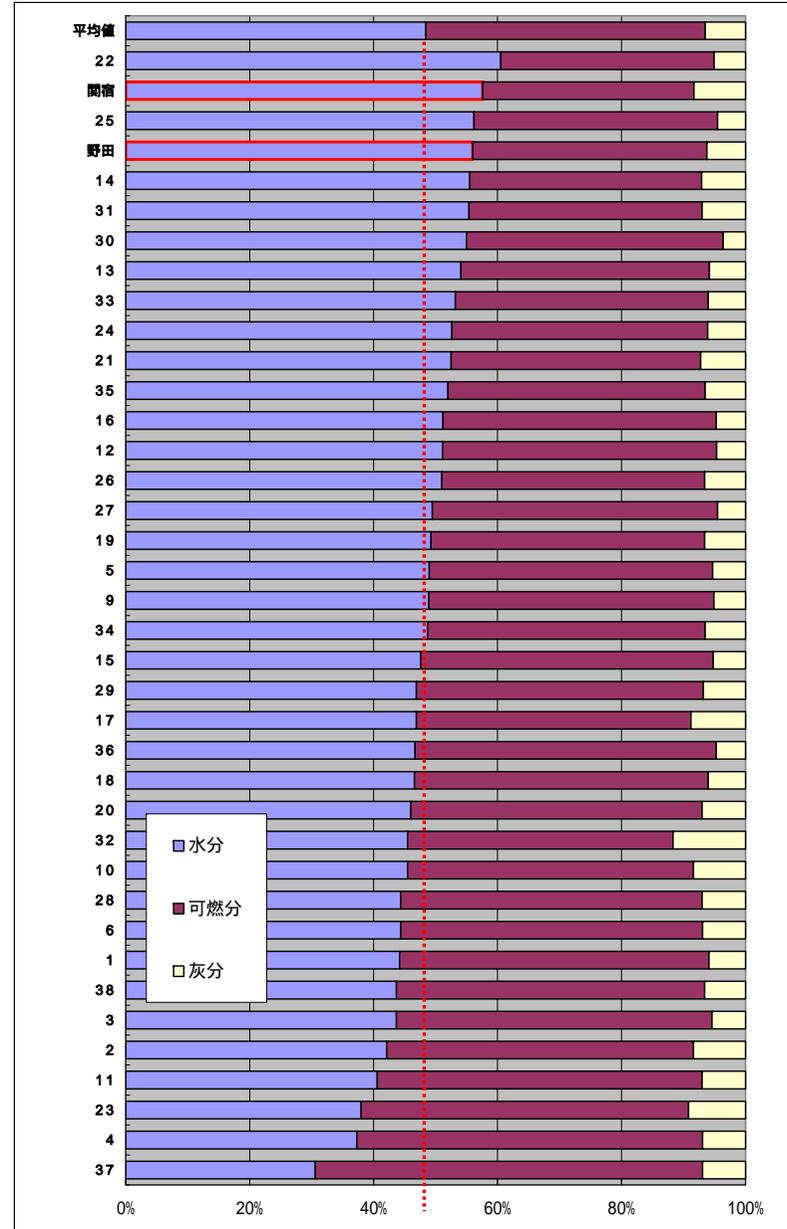
野田市清掃工場と関宿クリーンセンターの各地の人口による加重平均



指定袋制の導入前後のごみ組成（湿基準）を比較しました。一時的に紙類の割合が減少したため厨芥類の割合が増加しています。現状のごみ質も同様な傾向で厨芥類、紙類が多い性状を示しています。

野田市の3成分の千葉県他施設との比較

		水分	可燃分	灰分
平均値		48.4	45.1	6.5
22	鴨川市 天津小湊清掃センター	60.5	34.4	5.1
8	野田市 関宿クリーンセンター	57.6	34.1	8.3
25	富里市 富里市クリーンセンター焼却施設	56.2	39.3	4.5
7	野田市 野田市清掃工場	56.0	37.8	6.2
14	勝浦市 勝浦市クリーンセンター	55.5	37.4	7.1
31	山武郡市環境衛生組合 ごみ焼却施設	55.4	37.6	7.0
30	東金市外三市町清掃組合 東金市外三市町環境クリーンセンター(焼却施)	55.0	41.4	3.6
13	柏市 柏市第二清掃工場	54.1	40.1	5.8
33	匝瑳市ほか二町環境衛生組合 匝瑳市ほか二町環境衛生組合松山清掃工場	53.2	40.8	6.0
24	四街道市 四街道市クリーンセンターごみ焼却施設	52.6	41.3	6.1
21	鴨川市 鴨川清掃センター	52.5	40.3	7.2
35	長生郡市広域市町村圏組合 環境衛生センターごみ処理場	52.0	41.5	6.5
16	市原市 市原市福増クリーンセンター第二工場	51.2	44.1	4.7
12	柏市 柏市清掃工場	51.1	44.2	4.7
26	いすみ市 いすみクリーンセンター	51.0	42.4	6.6
27	御宿町 御宿町清掃センター	49.5	46.0	4.5
19	八千代市 八千代市清掃センター(1・2号炉)	49.3	44.1	6.6
5	松戸市 松戸市クリーンセンター	49.0	45.7	5.3
9	成田市 成田市いすみ清掃工場	48.9	46.0	5.1
34	鴨川市南房総市環境衛生組合 ごみ焼却場	48.7	44.8	6.5
15	市原市 市原市福増クリーンセンター第一工場	47.6	47.2	5.2
17	流山市 流山市クリーンセンターごみ焼却施設	46.9	44.3	8.8
29	佐倉市、酒々井町清掃組合 酒々井リサイクル文化センター焼却処理施設	46.9	46.3	6.8
36	香取広域市町村圏事務組合 伊地山クリーンセンター	46.7	48.6	4.7
18	八千代市 八千代市清掃センター(3号炉)	46.6	47.4	6.0
20	我孫子市 我孫子市クリーンセンター	46.0	47.0	7.0
10	旭市 旭市クリーンセンター焼却施設	45.5	46.1	8.4
32	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合 クリーンセンターしらさぎ	45.5	42.8	11.7
6	松戸市 松戸市和名ヶ谷クリーンセンター	44.4	48.7	6.9
28	鋸南地区環境衛生組合 大谷クリーンセンター	44.4	48.6	7.0
1	市川市 市川市クリーンセンター(ごみ焼却処理施設)	44.2	49.9	5.9
3	船橋市 船橋市南部清掃工場	43.7	50.9	5.4
38	印西地区環境整備事業組合 印西クリーンセンター	43.7	49.7	6.6
2	船橋市 船橋市北部清掃工場	42.1	49.5	8.4
11	習志野市 習志野市芝園清掃工場	40.6	52.4	7.0
23	浦安市 浦安市クリーンセンター(ごみ処理施設)	38.0	52.8	9.2
4	館山市 館山市清掃センター	37.3	55.8	6.9
37	香取広域市町村圏事務組合 仁良清掃工場	30.6	62.5	6.9



平成21年度データ 環境省HP 千葉県 焼却処理施設データ

ごみ処理施設整備の計画・設計要領

2006 改訂版

1. マテリアルリサイクル推進施設
 - ・ 容器包装リサイクル推進施設
 - ・ リサイクルセンター
 - ・ ストックヤード
 - ・ 焼却残さ熔融施設
2. エネルギー回収推進施設
 - ・ ごみ焼却施設
 - ・ ガス化熔融施設
 - ・ ガス化改質施設
 - ・ 炭化施設
 - ・ ごみ固形燃料化施設
 - ・ ごみメタン化施設
3. 有機性廃棄物リサイクル推進施設
 - ・ ごみ高速堆肥化施設
4. その他
 - ・ 廃棄物運搬中継・中間処理施設

社団法人 全国都市清掃会議

II.1 焼却施設に関する基本的事項 1.3 計画ごみ質

(表中(注))及び表1.3.3-2では、厨芥以外の物質の水分も多くなっている。すなわち、都市ごみ中の水分の大部分は厨芥によってもたらされるものであるが、排出源から収集・運搬及び貯留される過程で紙や繊維等の吸湿性のある他の物質へ移行するものと考えられる。

(2) 可燃分

可燃分は、乾燥したごみを電気炉等で完全燃焼させた場合の減量分であり、その組成は、C、H、O、N、S等の元素成分である。プラスチック等の化成品が多いごみでは、C、Hの占める比率が高くなるため、可燃分の発熱量が高くなる。

表1.3.3-1 都市ごみを構成する代表的な可燃物の三成分値

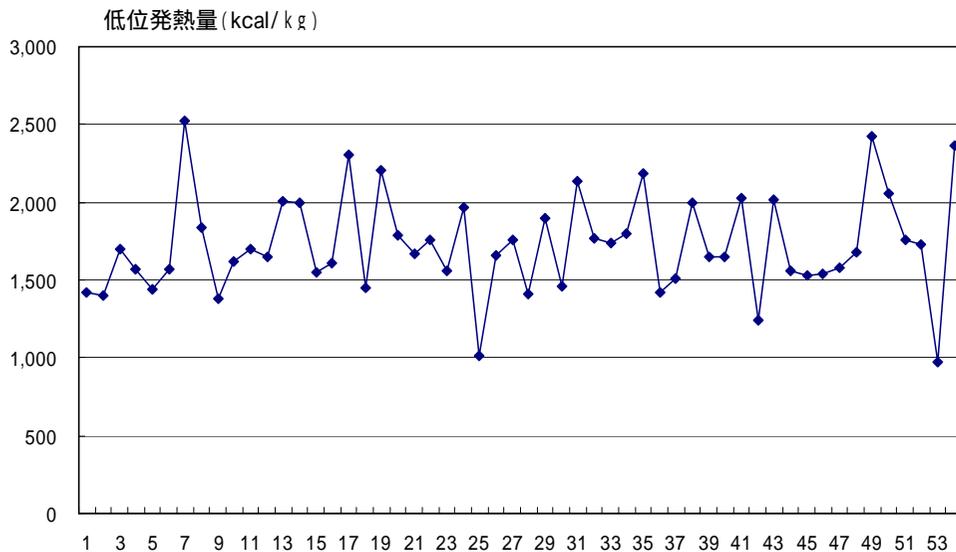
単位：湿ベース(%)

試料	水分	可燃分	灰分	試料	水分	可燃分	灰分		
紙類	新聞紙	8.9	89.0	2.1	ゴム	タイヤ	0.9	97.5	1.6
	ボール紙	8.1	83.6	8.7		ホース	1.3	71.7	27.0
	ダンボール紙	7.6	89.4	3.0		輪ゴム	0.8	96.9	2.3
	広告紙	5.2	71.7	23.1	プラスチック類	ビニール袋	0.3	99.5	0.2
	包装紙	7.5	91.9	0.6		ごみ袋	0.1	99.2	0.7
	ノート	6.3	86.0	7.7		タライ	0.1	99.5	0.4
	ちり紙	6.8	88.4	4.8		ごみ箱	0.4	99.3	0.3
	牛乳パック	5.8	94.0	0.2		菓子袋	1.9	97.7	0.4
	新聞紙 ^(注)	30.2	68.4	1.4		乳酸飲料容器	0.3	99.6	0.1
	ボール紙 ^(注)	30.2	66.0	3.8		食品容器	0.5	98.9	0.6
ダンボール紙 ^(注)	30.2	67.4	2.4	発泡トレイ		1.0	98.1	0.9	
包装紙 ^(注)	30.2	68.3	1.5	玩具		0.4	99.5	0.1	
厨芥	植物性厨芥	76.2	22.7	1.1		チ	洗剤容器	0.6	99.3
	動物性厨芥	66.2	32.1	1.7	サラップ	0.3	99.6	0.1	
	残飯	48.9	50.7	0.4	ツ	しょう油容器	0.4	99.5	0.1
	厨芥 ^(注)	69.6	27.5	2.9	ク	レトルト食品袋	0.3	84.4	15.3
繊維類	木綿	4.6	95.3	0.1	ク	ビール樽(内)	0.2	99.7	0.1
	毛糸	7.9	91.2	0.9		ビール樽(外)	0.3	99.6	0.1
	ナイロン	2.4	97.4	0.2		スポンジ	6.4	89.8	3.7
	アクリル	1.4	98.5	0.1		ビニール袋 ^(注)	24.1	74.1	4.6
	ポリエステル	1.0	98.7	0.3		ごみ袋 ^(注)	24.1	71.3	1.8
草木皮革	草	34.5	61.0	4.5	発泡トレイ ^(注)	24.1	74.6	1.3	
	木	34.5	65.2	0.3	汚泥	石灰薬注汚泥	82.8	9.8	7.4
	サイフ	11.2	87.9	0.9		熱処理汚泥	60.8	28.7	10.5
	ベルト	12.8	85.7	1.5		高分子薬注汚泥	80.7	16.3	3.0

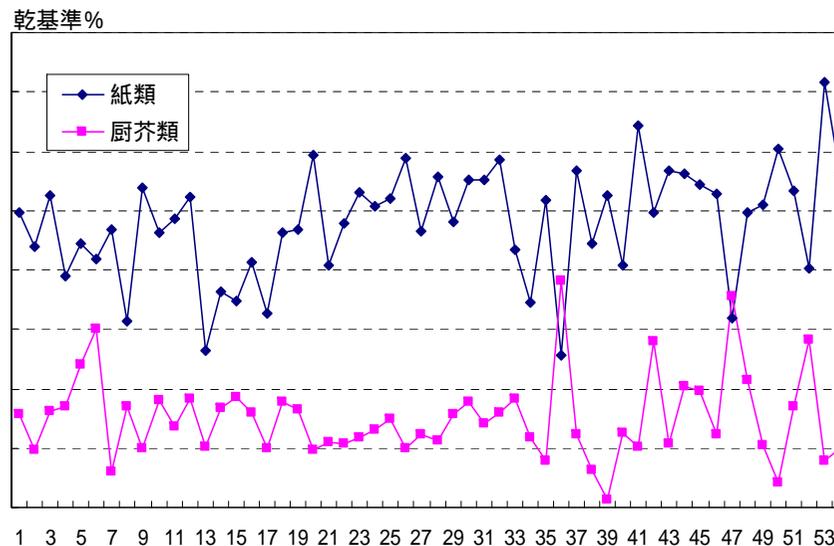
(注)ごみ焼却施設で採取した試料

≪「都市固形廃棄物の熱分解処理に関する基礎的研究(昭和60年)」片柳健一≫

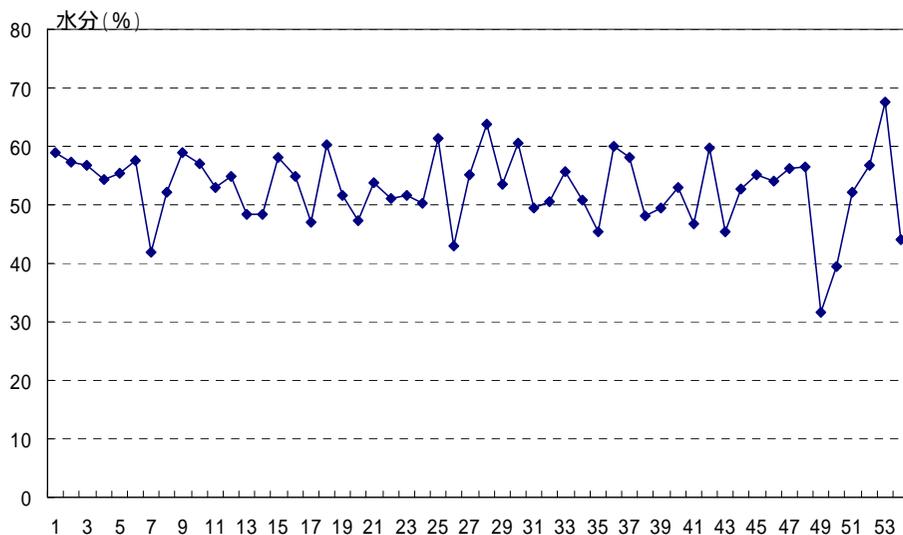
【野田市清掃工場におけるごみ質調査結果】-昭和61年度～平成6年度実績-(1 / 5)



野田地域(昭和61年度～平成6年度)の低位発熱量の推移



野田地域(昭和61年度～平成6年度)の紙類と厨芥類の推移



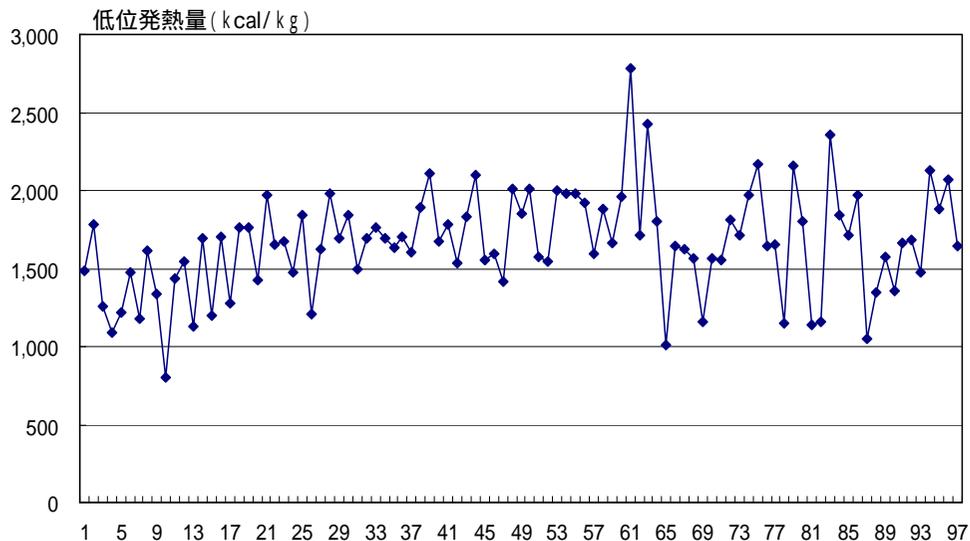
野田地域(昭和61年度～平成6年度)の水分の推移

【低位発熱量】《変動はあるが、横ばい傾向》
 変動はあるものの 970～2,520 kcal/kg の間で推移しています。(平均値 1,727 kcal/kg)

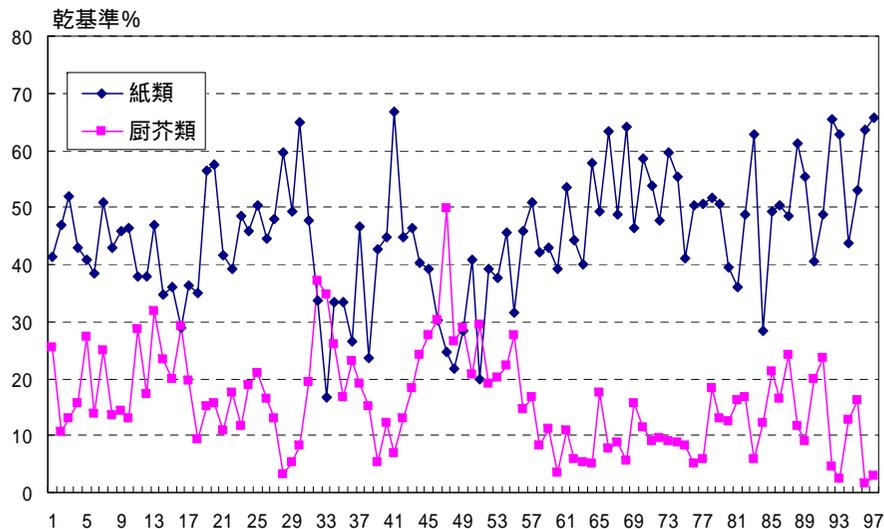
【紙類・厨芥類の乾基準】《紙類増加傾向、厨芥類横ばい傾向》
 紙類の混入している割合は常に高く、その割合も増加傾向にあります(平均値 48%)。厨芥類も近年特に大きな変動がありますが概ね 10～20%の数値で推移しています(平均値 15%)。

【水分】《常に水分量が多い》
 変動はあるもの概ね 50%以上で推移しています(平均値 53%)。

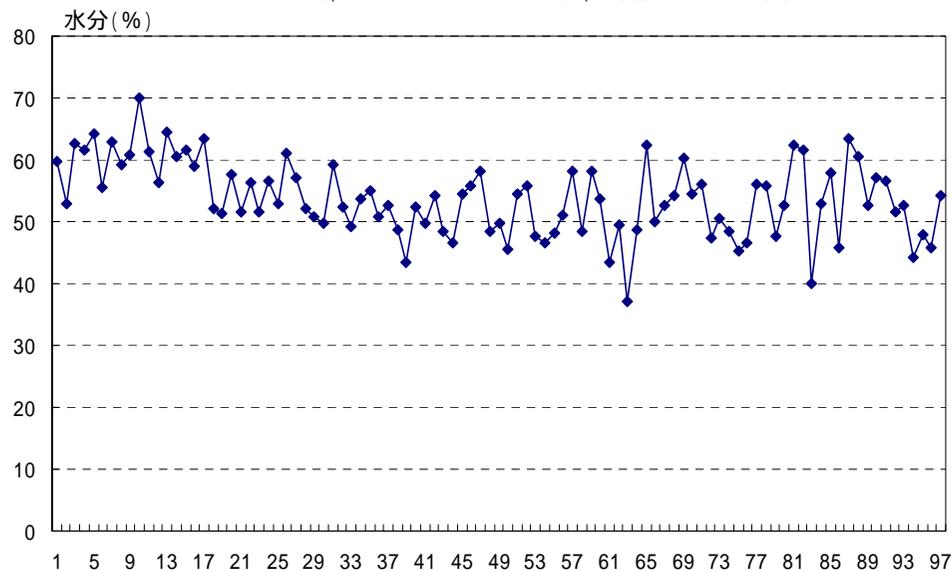
【野田市清掃工場におけるごみ質調査結果】-平成7年度～平成22年度実績-(2/5)



野田地域(平成7年度～平成22年度)の低位発熱量の推移



野田地域(平成7年度～平成22年度)の紙類と厨芥類の推移



野田地域(平成7年度～平成22年度)の水分の推移

9 1

【低位発熱量】《変動はあるが、近年横ばい傾向》

指定袋制導入以前と比較して一旦減少しましたが徐々に増加傾向を示し近年 1,010～2,780 kcal/kg の間で推移しています。(平均値 1,660 kcal/kg)

【紙類・厨芥類の乾基準】《紙類増加傾向、厨芥類横ばい傾向》

紙類の混入している割合は常に高く、その割合も増加傾向にあります(平均値 45%)。厨芥類は近年、低下傾向が見られます(平均値 16%)。

【水分】《常に水分量が多い》

変動はあるものの概ね 50%以上で推移しています(平均値 54%)。

【野田市清掃工場におけるごみ質調査結果】(3/5)

野田市清掃工場 (昭和61年度～平成元年度)

年度		S61年度						S62年度						S63年度						H元年度						
実施年月日		S.61.5.19	S.61.6.18	S.61.8.27	S.61.10.21	S.61.12.22	S.62.2.26	S.62.4.22	S.62.6.25	S.62.8.24	S.62.10.27	S.62.12.22	S.63.2.29	S.63.4.25	S.63.6.13	S.63.8.26	S.63.10.14	S.63.12.19	H.1.1.27	H.1.4.19	H.1.6.21	H.1.8.23	H.1.10.23	H.1.12.25	H.2.2.26	
比重	kg/l	0.298	0.311	0.34	0.321	0.215	0.309	0.194	0.212	0.377	0.289	0.265	0.323	0.218	0.332	0.32	0.282	0.224	0.342	0.23	0.215	0.318	0.205	0.262	0.142	
全水分	(%)	59	57.2	56.7	54.2	55.3	57.5	41.9	52.2	58.8	57.1	52.9	54.8	48.4	48.5	58.2	54.8	46.9	60.3	51.6	47.3	53.7	51.1	51.5	50.3	
全灰分	(%)	6	9.1	5.7	9.6	6.7	7.3	7.9	8.3	6.8	5.5	6.5	6.4	7.2	6.3	6	8.4	5.8	8.3	5.9	9.7	7.1	7	11	6.1	
可燃分	(%)	35	33.7	37.6	36.2	38	35.2	50.2	39.5	34.4	37.4	40.6	38.8	44.4	45.2	35.8	36.8	47.3	31.4	42.5	43	39.2	41.9	37.5	43.6	
ごみ種類組成・乾基準%	紙類	(%)	49.6	44	52.6	38.9	44.5	41.8	46.7	31.5	53.9	46.3	48.6	52.4	26.5	36.3	34.7	41.3	32.6	46.4	46.7	59.4	40.7	47.9	53	50.7
	厨芥類	(%)	15.7	9.6	16.1	17	24	30.1	6	17	9.9	18.1	13.7	18.4	10.2	16.8	18.5	15.9	9.9	17.8	16.4	9.8	11	10.7	11.8	13
	布類	(%)	5	8.3	1.3	9.8	10	2.3	5	13.5	5.4	13.5	7.7	6	10.3	15.9	3.3	2.9	9.9	2.7	6.2	0.3	11.3	16.9	3.8	4.4
	草木類	(%)	12.1	16.9	10.6	12.6	2.9	5.8	6.8	15.8	10.5	8.4	13.1	8.1	35.7	17.1	22.8	21.3	24.9	7.4	2.5	9.3	21.8	10.4	7.2	5.8
	プラスチック類	(%)	10.3	7.2	13	6.7	7.9	10	26.5	10.9	9.6	8.4	6.9	7.7	9.2	6.2	11.4	10.4	14.2	13.7	18.6	10.5	7.8	5.9	7.4	19.1
	ゴム類	(%)	0	0.2	0	4	0.2	0	3.5	0.1	0	0	0.3	0.4	0	0.2	0.9	0.1	2.2	0	1.5	0.9	0.1	1.3	0	0.1
	その他	(%)	1.8	3.1	1.5	3.8	2.9	3.8	1.4	2.9	3.2	2.4	4.3	2.3	3	3	2.5	1.6	2.5	3.1	2.8	1.7	1.9	1.9	1.3	1.6
	金属類	(%)	1.6	2.7	2.3	0.7	3.6	1.7	1.9	2.1	1.5	1	2.2	2.2	1.7	1	1	2.4	1.3	2.6	2.7	2.4	1.4	1.7	4.2	3.4
	ガラス類	(%)	0	3.5	0	0	0.6	0.7	0.2	0.4	3	0	1.1	0.1	0.1	0.1	2.5	0.8	0	0.1	0	0	0	0.1	8.2	0.5
	セトモノ・石・砂	(%)	3.9	4.5	2.6	6.5	3.4	3.8	2	5.8	3	1.9	2.1	2.4	3.3	3.4	2.4	3.3	2.5	6.2	2.6	5.7	4	3.2	3.1	1.4
不燃物混入率	(%)	15.8	17.9	17.9	13.9	15.5	16.2	30.6	19.2	17.1	11.3	12.3	12.4	14.3	10.7	17.3	16.9	18	22.6	23.9	18.6	13.2	10.9	22.9	24.4	
総発熱量	kcal/kg	4,900	4,900	5,300	4,740	4,600	5,120	5,350	5,260	4,900	5,050	4,850	4,940	5,040	4,940	5,160	4,910	5,450	5,390	5,910	4,650	4,910	4,800	4,890	5,230	
低位発熱量(計算値)	kcal/kg	1,220	1,170	1,350	1,300	1,380	1,240	2,010	1,460	1,190	1,340	1,510	1,420	1,710	1,740	1,260	1,330	1,850	1,050	1,600	1,650	1,440	1,580	1,380	1,660	
低位発熱量(実測値)	kcal/kg	1,420	1,400	1,700	1,570	1,440	1,570	2,520	1,840	1,380	1,620	1,700	1,650	2,010	2,000	1,550	1,610	2,300	1,450	2,210	1,790	1,670	1,760	1,560	1,970	

野田市清掃工場 (平成元年度～平成5年度)

年度		H2年度						H3年度						H4年度						H5年度						
実施年月日		H.2.4.25	H.2.6.18	H.2.8.17	H.2.10.31	H.2.12.21	H.3.2.16	H.3.4.17	H.3.6.4	H.3.8.23	H.3.10.7	H.3.12.18	H.4.2.26	H.4.4.15	H.4.6.17	H.4.8.12	H.4.10.12	H.4.12.17	H.5.2.16	H.5.4.20	H.5.6.10	H.5.8.20	H.5.10.4	H.5.12.7	H.6.2.8	
比重	kg/l	0.297	0.195	0.302	0.278	0.199	0.267	0.218	0.171	0.36	0.297	0.106	0.355	0.294	0.186	0.163	0.274	0.111	0.178	0.165	0.342	0.235	0.258	0.19	0.154	
全水分	(%)	61.4	43.1	55.2	63.8	53.4	60.6	49.5	50.6	55.7	50.9	45.3	59.9	58.2	48.2	49.5	53	46.7	59.7	45.5	52.8	55.1	54	56.3	56.4	
全灰分	(%)	5.9	12	8	4.4	6.6	5.1	6.3	5.9	5.7	8.2	5.9	7.4	6.5	8.3	13.1	13	6.4	6.1	6.9	7.7	6.3	7	8.4	6.5	
可燃分	(%)	32.7	44.9	36.8	31.8	40	34.3	44.2	43.5	38.6	40.9	48.8	32.7	35.3	43.5	37.4	34	46.9	34.2	47.6	39.5	38.6	39	35.3	37.1	
ごみ種類組成・乾基準%	紙類	(%)	51.9	58.9	46.6	55.6	48.2	55.2	55.1	58.5	43.4	34.5	51.8	25.6	56.7	44.4	52.5	40.7	64.4	49.6	56.8	56.3	54.4	52.7	31.8	49.8
	厨芥類	(%)	14.8	10	12.3	11.3	15.8	17.8	14.2	16	18.4	11.8	7.9	38.2	12.4	6.4	1.2	12.5	10.1	28	10.6	20.3	19.5	12.3	35.6	21.5
	布類	(%)	2.1	3.2	4.2	3.7	4.4	4.3	2	4.9	12.9	6	7.1	1.4	1.7	4.2	1.5	1	1.3	1.6	13.8	1.6	5.2	5.8	0.7	1.8
	草木類	(%)	8.7	13.5	10.8	9.6	10.6	3.6	11.2	6.4	7.1	29.6	16	15.5	6.3	28.4	23.7	14.2	6.2	2	5.1	9.4	6.7	8.4	6.3	3.2
	プラスチック類	(%)	13.1	6.3	13.3	12.8	14.5	12.5	8	9.5	12.5	6.4	12.7	7.4	14.6	9.7	7.8	10.5	9	9.9	7.5	5.4	7	10.2	9.9	15
	ゴム類	(%)	0	0	0	0	0.1	0.1	1.1	0.1	0	2.2	0	0	0	0.1	0	0	6.4	0	0	0	0	0	2.3	0.1
	その他	(%)	0.9	0.4	3.3	1.7	1.2	3.8	4.8	1.5	0.9	3.5	1.6	4	2.2	0.8	1.5	3.4	1.1	2.9	2	3.3	1.9	3.1	6.4	3.1
	金属類	(%)	2.2	1.5	1.7	2.9	2	1.8	1.3	1.3	3.1	1.6	0.7	2.6	2.1	2.1	2.1	1.6	0.4	3.3	1.9	1	2	2.3	0.6	2.8
	ガラス類	(%)	2.7	0.2	0.2	0	0	0	0.2	0.2	0	0.5	0	1.6	0	0.2	0	0	0	0.4	0	0	0.2	2.4	0.2	0
	セトモノ・石・砂	(%)	3.6	6	7.6	2.4	3.2	0.9	2.1	1.6	1.7	3.9	2.2	3.7	4	3.7	9.7	16.1	1.1	2.3	2.3	2.7	3.1	2.8	6.2	2.7
不燃物混入率	(%)	21.6	14	22.8	18.1	19.7	15.2	11.6	12.6	17.3	12.4	15.6	15.3	20.7	15.7	19.6	28.2	10.5	15.9	11.7	9.1	12.3	17.7	16.9	20.5	
総発熱量	kcal/kg	4,270	5,110	4,530	5,630	5,460	5,110	5,300	4,710	5,290	5,110	5,010	5,210	5,170	5,100	4,760	5,490	4,780	4,610	4,750	4,500	4,720	4,760	5,090	5,280	
低位発熱量(計算値)	kcal/kg	1,100	1,320	1,950	1,050	1,480	1,180	1,600	1,650	1,400	1,540	1,920	1,110	1,240	1,670	1,390	1,210	1,830	1,180	1,870	1,460	1,410	1,430	1,250	1,330	
低位発熱量(実測値)	kcal/kg	1,010	1,660	1,760	1,410	1,900	1,460	2,140	1,770	1,740	1,800	2,190	1,420	1,510	2,000	1,650	1,650	2,030	1,240	2,020	1,560	1,530	1,540	1,580	1,680	

不燃物混入率(乾基準%): 不燃物(プラスチック類、金属類、ガラス類、セトモノ・石・砂)の割合%の合計

【野田市清掃工場におけるごみ質調査結果】(4/5)

野田市清掃工場（平成6年度～平成9年度）

年度		H6年度						H7年度						H8年度						H9年度							
実施年月日		H.6.4.22	H.6.6.8	H.6.8.11	H.6.10.6	H.6.12.20	H.7.2.7	H.7.4.21	H.7.6.9	H.7.7.24	H.7.8.22	H.7.10.11	H.7.12.15	H.8.2.8	H.8.4.25	H.8.6.7	H.8.8.15	H.8.10.18	H.8.12.9	H.9.2.20	H.9.4.22	H.9.6.17	H.9.8.19	H.9.10.23	H.9.12.12	H.10.2.24	
比重	kg/l	0.162	0.132	0.216	0.275	0.15	0.167	0.402	0.255	0.365	0.285	0.405	0.178	0.275	0.151	0.21	0.2875	0.18	0.264	0.28	0.278	0.136	0.235	0.214	0.148	0.138	
全水分	(%)	31.6	39.5	52.2	56.8	67.6	44.1	59.8	52.8	62.6	61.7	64.2	55.6	62.9	59.3	60.7	70	61.4	56.4	64.4	60.4	61.5	59	63.4	52.1	51.2	
全灰分	(%)	6.1	11.8	6.5	6.3	3.6	7.5	4.7	7.9	4.6	6.2	4.5	8.2	6.1	6.7	6.5	4.4	5.9	8.6	4.7	4.8	9	6	4.7	6	7.3	
可燃分	(%)	55.3	48.7	41.3	36.9	28.8	48.4	35.5	39.3	32.8	32.1	31.3	36.2	31	34	32.8	25.6	32.7	35	30.9	34.8	29.5	35	31.9	41.9	41.5	
ごみ種類組成・乾基準%	紙類	(%)	51	60.3	53.4	40.3	71.6	56.3	41.4	46.9	51.8	42.9	40.9	38.3	50.9	42.8	45.9	46.4	37.8	37.9	46.8	34.7	35.9	28.9	36.3	34.9	56.4
	厨芥類	(%)	10.4	4.1	17	28.2	7.8	10	25.5	10.6	13.1	15.7	27.3	13.8	25	13.4	14.3	13.1	28.5	17.2	31.7	23.2	19.9	29.1	19.7	9.3	15.2
	布類	(%)	8.6	0.8	1.2	0.1	3.3	7.4	2.2	9.4	11.4	4.5	4.9	3.7	2.3	1.3	3.5	5.1	1.5	8.5	3.4	1.7	4.3	2.1	3.7	16.5	1.6
	草木類	(%)	10.4	15.8	13.1	4.9	8.4	9.7	18.3	8.5	10.1	23	4.5	21	4.5	1.2	15.1	12.7	7.3	12.7	2.1	8.8	10.2	11.1	18.1	29.6	6.2
	プラスチック類	(%)	8.9	9.6	9.8	16.9	6.7	10.5	7.1	13.3	8.3	4.5	14.6	10	7.6	26.1	11.5	18.3	18.8	9.1	10.1	17.9	10.1	21	12.1	5.5	7.4
	ゴム類	(%)	0.6	0	0.1	0	0	0.7	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0.9	0	0	0	0	0.2	1.8	0	0.1	0	0	0.4
	その他	(%)	4.6	2.5	1.9	3.8	0.9	2.5	3.2	4.5	1.8	3.6	3.5	4.6	4.3	4.2	3.6	3.4	2.2	5.7	3.6	8.2	6.2	2.7	5.8	1.2	8.2
	金属類	(%)	1	1	0.5	2.5	0.5	1	0.7	1.9	2.1	1.1	2.2	0.5	0.9	5.2	1.2	1	2.8	1.2	0.4	1.4	4	2	1.2	0.5	0.7
	ガラス類	(%)	0	2.2	1.6	0	0.1	0.1	0	0.7	0	0.1	0.1	0.1	0	3.4	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
セトモノ・石・砂	(%)	1.5	3.7	1.4	3.3	0.7	1.8	1.6	4	1.4	4.6	2	7.9	4.5	1.5	4.7	0	1.1	7.7	1.7	2.3	9.4	3	3.1	2.5	3.9	
不燃物混入率	(%)	11.4	16.5	13.3	22.7	8	13.4	9.4	19.9	11.8	10.3	18.9	18.5	13	36.2	17.6	19.3	22.7	18	12.2	21.6	23.5	26	16.4	8.5	12	
総発熱量	kcal/kg	4,740	4,430	4,870	5,490	4,630	5,200	5,090	5,140	4,910	4,420	5,080	4,790	4,750	5,820	4,950	4,510	5,230	5,080	4,740	5,790	4,960	5,670	5,110	4,810	4,760	
低位発熱量(計算値)	kcal/kg	2,260	1,950	1,550	1,320	890	1,910	1,240	1,450	1,100	1,070	1,020	1,300	1,020	1,170	1,110	730	1,100	1,240	1,000	1,200	960	1,220	1,060	1,570	1,560	
低位発熱量(実測値)	kcal/kg	2,420	2,060	1,760	1,730	970	2,360	1,490	1,780	1,260	1,090	1,220	1,480	1,180	1,610	1,340	800	1,440	1,540	1,130	1,690	1,200	1,700	1,280	1,760	1,760	

野田市清掃工場（平成10年度～平成13年度）

年度		H10年度						H11年度						H12年度						H13年度						
実施年月日		H.10.4.15	H.10.6.15	H.10.8.12	H.10.10.14	H.10.12.17	H.11.2.15	H.11.4.20	H.11.6.21	H.11.8.19	H.11.10.20	H.11.12.20	H.12.2.23	H.12.4.18	H.12.6.14	H.12.8.9	H.12.10.11	H.12.12.13	H.13.2.14	H.13.4.24	H.13.6.12	H.13.8.7	H.13.10.16	H.13.12.11	H.14.2.13	
比重	kg/l	0.032	0.145	0.21	0.263	0.024	0.143	0.18	0.3	0.17	0.16	0.11	0.27	0.146	0.134	0.146	0.226	0.16	0.189	0.21	0.187	0.27	0.347	0.298	0.271	
全水分	(%)	57.7	51.5	56.4	51.6	56.7	52.8	61	57.1	52.1	50.8	49.7	59.1	52.33	49.12	53.66	55.13	50.83	52.68	48.62	43.3	52.46	49.79	54.33	48.32	
全灰分	(%)	6.5	5.9	5.4	7.7	6.1	6.2	6.4	4.4	4.9	13.3	4.1	3.6	9.29	10.43	7.22	5.98	8.11	7.53	5.85	5.02	4.73	4.07	6.05	4.62	
可燃分	(%)	35.8	42.6	38.2	40.7	37.2	41	32.6	38.5	43	35.9	46.2	37.3	38.38	40.45	39.12	38.89	41.06	39.82	45.53	51.68	42.81	46.14	39.62	47.06	
ごみ種類組成・乾基準%	紙類	(%)	57.6	41.7	39.3	48.5	45.9	50.4	44.5	47.9	59.5	49.3	64.8	47.6	33.61	16.62	33.26	33.31	26.51	46.59	23.65	42.53	44.8	66.78	44.78	46.3
	厨芥類	(%)	15.7	10.9	17.6	11.7	18.9	20.8	16.4	13	3.1	5.2	8.2	19.3	37.2	34.71	26	16.57	23.06	19.1	15.09	5.42	12.28	6.76	12.95	18.2
	布類	(%)	2.7	19.4	13	3	12.5	6.3	1.3	8.5	0	0.9	4	6.2	2.18	0.26	1.97	4.13	1.68	1.07	6.07	4.83	9.22	8.31	2.2	5.11
	草木類	(%)	7.2	5.9	11.5	16.5	10.7	3.6	9.9	6.1	17.7	29.3	15.2	3.5	7.11	6.69	12.81	19.99	20.56	8.88	36.37	26.92	9.11	0	19.86	5.11
	プラスチック類	(%)	7.5	14.5	13.2	11.8	6.5	11.4	14.1	16.4	18.9	5.6	4.7	18.3	14.24	30.02	17.98	17.25	17.42	19.67	11.82	18	21.32	7.29	15.36	2.1
	ゴム類	(%)	0.8	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0.49	0	0	0	0	0	7.1	0	0
	その他	(%)	3.3	3.2	2.2	0.8	3.1	3.8	10.6	8	0.8	3.6	2.5	5.1	4.48	6.99	6.32	4.85	7.63	3.54	6.33	2.3	3.16	2.49	2.56	4.13
	金属類	(%)	2.6	2.7	0.7	2.1	0.7	1.6	0.3	0	0	0.5	0.6	0	0.16	1.61	0.61	0.11	1.16	0.63	0.67	0	0.12	0	0.5	0.15
	ガラス類	(%)	0	0	0	0	0.2	0	0	0.1	0	0	0	0	1.02	3.1	1.05	3.3	1.98	0.52	0	0	0	0.12	0	0
セトモノ・石・砂	(%)	2.6	1.7	2.5	5.6	1.7	1.9	2.4	0	0	5.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.15	1.79	0
不燃物混入率	(%)	12.7	18.9	16.4	19.5	8.9	15.1	16.8	16.5	18.9	11.7	5.3	18.3	15.42	34.73	19.64	20.66	20.56	20.82	12.49	18	21.44	8.56	17.65	21.15	
総発熱量	kcal/kg	4820	5260	5060	4790	4630	5130	4900	4950	5130	4660	4640	4910	4800	4950	5100	5100	4890	4600	2370	2600	2170	1840	2020	1910	
低位発熱量(計算値)	kcal/kg	1260	1610	1380	1520	1330	1530		1390	1630	1310	1780	1320	1410	1530	1440	1420	1540	1480	1760	2070	1610	2320	1460	2400	
低位発熱量(実測値)	kcal/kg	1430	1970	1650	1670	1480	1840	1210	1620	1980	1690	1840	1500	1690	1760	1690	1630	1700	1600	1890	2110	1670	1780	1530	1830	

不燃物混入率(乾基準%)：不燃物(プラスチック類、金属類、ガラス類、セトモノ・石・砂)の割合%の合計

【野田市清掃工場におけるごみ質調査結果】(5 / 5)

野田市清掃工場(平成14年度～平成17年度)

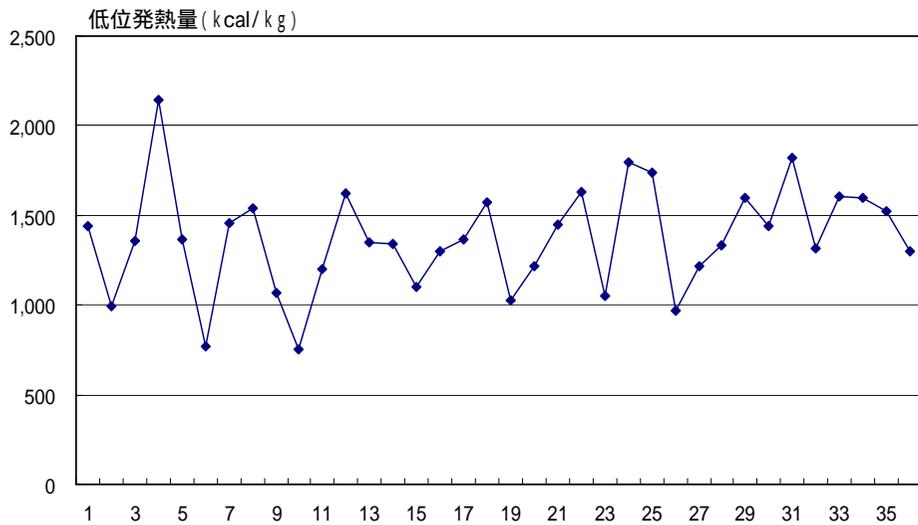
年度		H14年度							H15年度							H16年度							H17年度						
実施年月日		H.14.4.12	H.14.6.13	H.14.8.9	H.14.10.10	H.14.12.12	H.15.2.13	H.15.4.9	H.15.6.11	H.15.8.7	H.15.10.9	H.15.12.9	H.16.2.10	H.16.4.21	H.16.6.1	H.16.8.4	H.16.10.4	H.16.12.6	H.17.2.7	H.17.5.17	H.17.7.22	H.17.9.16	H.17.11.18	H.18.1.20	H.18.3.6				
比重	kg/l	0.128	0.179	0.192	0.18	0.13	0.144	0.137	0.168	0.167	0.138	0.126	0.137	0.322	0.333	0.251	0.311	0.278	0.167	0.15	0.18	0.3	0.23	0.16	0.21				
全水分	(%)	46.52	54.6	55.84	58.27	48.38	49.69	45.53	54.5	55.67	47.66	46.46	48.05	51	58.1	48.3	58.1	53.8	43.4	49.4	37	48.8	62.3	49.9	52.6				
全灰分	(%)	3.78	5.23	5.9	6.29	7.08	6.18	5.71	4.87	4.41	4.34	4.53	5.44	5.5	4.7	6.4	5.4	2	6.7	9.6	4.2	6.5	5.9	7.7	5.1				
可燃分	(%)	49.7	40.17	38.26	35.44	44.54	44.13	48.76	40.63	39.92	48	49.01	46.51	43.5	37.2	45.3	36.5	44.2	49.9	41	58.8	44.7	31.8	42.4	42.3				
ごみ種類組成・乾基準%	紙類	(%)	40.34	39.1	30.07	24.57	21.75	28.3	40.91	19.83	39.25	37.67	45.6	31.46	45.8	50.9	42.2	42.8	39.3	53.5	44.2	39.9	57.8	49.2	63.3	48.8			
	厨芥類	(%)	24.16	27.59	30.26	49.78	26.61	28.87	20.64	29.53	19.14	20.02	22.12	27.54	14.5	16.7	8.2	11.2	3.5	10.8	5.9	5.3	5.1	17.5	7.8	8.8			
	布類	(%)	0.33	0.57	0.98	2.04	1.52	1.7	0.94	0.19	3.86	4.33	0.13	1.6	8.1	4.3	0.4	15.1	4.3	10.7	9.6	33.7	4	6.3	8.3	9.2			
	草木類	(%)	7.48	9.15	15.72	5.56	28.82	11.1	22.67	28.94	20.09	5.55	8.48	4.4	5.8	5.3	25.6	16.7	15.9	3	12.7	6.3	4.8	8.7	2.9	12.5			
	プラスチック類	(%)	21.82	18.43	19.99	13.14	13.92	22.03	8.54	17	10.23	27.66	18.45	29.42	19.5	19.3	19.3	10.1	35.8	17.5	14.1	7.3	12.6	7.7	7.5	11			
	ゴム類	(%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0.95	0	0	0	0.1	0	0	0.5	0	0.3	0	0	0.1	0	0	0			
	その他	(%)	4.76	3.3	2	3.43	4.11	4.27	4.49	2.65	4.84	3.99	4.08	4.35	5.3	2.5	3.7	3	1.2	4.2	0.9	5	14.1	6.3	1.5	5.5			
	金属類	(%)	0.85	1.12	0.93	1.01	3.25	3.67	0.96	0.99	0.93	0.52	0.83	0.81	0.8	0	0	0.3	0	0	12.1	1.5	0.4	3.8	7.8	2.2			
ガラス類	(%)	0.26	0.74	0.05	0.47	0.02	0.06	0.85	0.87	0.71	0.26	0.31	0.42	0	0	0	0	0	0	0.5	0.9	0.1	0	0.7	0				
セトモノ・石・砂	(%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.1	0.5	0.3	0	0	0	0.1	1	0.5	0.2	2				
不燃物混入率	(%)	22.93	20.29	20.97	14.62	17.19	25.76	10.35	18.86	11.87	28.44	19.59	30.65	20.3	20.4	19.8	10.7	35.8	17.5	26.7	9.8	14.1	12	16.2	15.2				
総発熱量	kcal/kg	2550	2030	2080	1910	2460	2310	2450	2050	2010	2470	2440	2450	5050	5040	4660	5130	5320	5750	2180	2880	2270	1510	2120	2100				
低位発熱量(計算値)	kcal/kg	1960	1480	1390	1250	1710	1690	1920	1500	1460	1870	1930	1800	1650	1330	1750	1290	1670	1980	1550	2430	1720	1050	1610	1590				
低位発熱量(実測値)	kcal/kg	2100	1550	1590	1420	2010	1850	2010	1570	1540	2000	1980	1980	1920	1590	1880	1660	1960	2780	1710	2430	1800	1010	1640	1620				

野田市清掃工場(平成18年度～平成22年度)

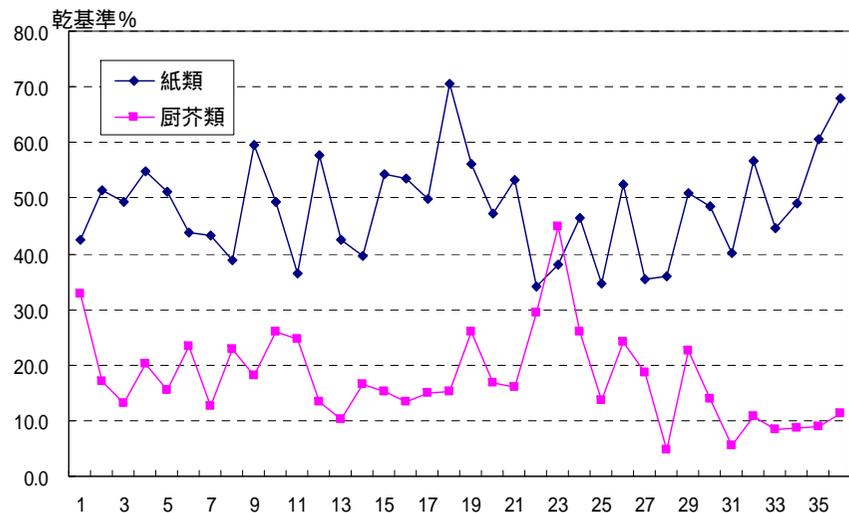
年度		H18年度							H19年度							H20年度							H21年度							H22年度				
実施年月日		H.18.5.19	H.18.7.21	H.18.9.15	H.18.11.17	H.19.1.11	H.19.3.2	H.19.5.19	H.19.7.20	H.19.9.21	H.19.11.22	H.20.1.9	H.20.3.7	H.20.5.23	H.20.7.15	H.20.9.17	H.20.11.12	H.21.1.4	H.21.3.4	H.21.4.15	H.21.6.10	H.21.8.6	H.21.10.8	H.22.1.7	H.22.2.4	H.22.5.14	H.22.7.16	H.22.8.27	H.22.11.26	H.23.1.20	H.23.3.4			
比重	kg/l	0.24	0.32	0.29	0.17	0.21	0.2	0.191	0.161	0.237	0.25	0.267	0.193	0.198	0.293	0.26	0.185	0.205	0.245	0.258	0.306	0.355	0.325	0.243	0.225	0.256	0.256	0.151	0.195	0.131	0.189			
全水分	(%)	54.3	60.3	54.6	56	47.5	50.4	48.33	45.22	46.47	56.06	55.76	47.71	52.67	62.25	61.69	40.08	52.95	57.85	45.76	63.38	60.54	52.52	57.08	56.57	51.54	52.63	44.10	47.91	45.90	54.08			
全灰分	(%)	4.4	6.4	4.7	5.8	8.9	6.3	6.6	6.3	7.2	4.4	8.5	3	5.97	4.86	4.71	6.24	5.03	4.15	9.97	5.93	4.88	6.28	5.98	4.22	6.00	5.90	5.00	4.40	6.60	5.30			
可燃分	(%)	41.3	33.3	40.7	38.2	43.6	43.3	45.07	48.48	46.33	39.54	35.74	49.29	41.36	32.89	33.6	53.68	42.02	38	44.27	30.69	34.58	41.2	36.94	39.21	42.46	41.47	50.90	47.69	47.50	40.62			
ごみ種類組成・乾基準%	紙類	(%)	64.2	46.3	58.5	53.8	47.7	59.5	55.26	41.18	50.39	50.61	51.6	50.6	39.58	36.13	48.65	62.84	28.36	49.14	50.28	48.35	61.23	55.37	40.66	48.82	65.37	62.89	43.79	52.92	63.58	65.78		
	厨芥類	(%)	5.5	15.7	11.5	9	9.6	9.1	8.71	8.12	5.12	5.81	18.26	12.95	12.42	16.03	16.78	5.83	12.18	21.28	16.54	24.07	11.69	9.11	19.75	23.45	4.62	2.39	12.82	16.22	1.66	3.00		
	布類	(%)	7.7	6.5	2.6	1.7	10.7	8.2	6.68	11.36	4.03	4.36	4.34	3.78	15.05	10.38	7.4	7.4	14.18	6.11	5.98	2.84	4.05	3.88	12.06	2.5	14.29	10.66	12.42	11.00	14.62	18.33		
	草木類	(%)	12.4	5.4	2.4	8.5	7.7	5.8	4.25	7.3	11.47	8.72	4.79	2.39	19.4	22.8	11.77	6.37	24.11	2.58	7.37	8.7	6.75	9.19	12.23	4.75	0.00	0.00	1.74	0.47	0.28	0.00		
	プラスチック類	(%)	4.4	6.9	16	18	11.2	9.7	11.54	19.47	7.13	13.07	5.02	19.12	9.61	10.06	6.96	15.79	12.69	15.15	10.85	8.38	11.27	11.87	6.26	14.85	3.90	12.84	2.67	6.34	2.34	2.44		
	ゴム類	(%)	0	0	0	0.5	0	0	0	0.61	0.31	0	0.69	0.8	0.13	0.42	0.19	0.01	0.49	0.02	0.21	0.02	0.14	0	0.02	0.45	4.47	3.16	12.28	4.85	8.14	5.56		
	その他	(%)	4.7	17.4	7.1	6.4	8.4	6.5	11.13	10.14	18.76	15.01	8.22	9.36	2.59	3.44	6.41	0.73	4.94	4.08	3.38	3.91	2.45	5.03	4.14	3.15	0.43	0.44	1.20	0.65	0.69	0.11		
	金属類	(%)	0.7	0.7	0.4	0.7	3.3	0.6	1.82	0.81	0.31	0.24	6.39	0.8	0.74	0.66	1.09	1.03	0.61	0	0.7	1.25	0.05	0.71	0.27	0.08	0.14	0.00	0.00	0.00	1.38	0.00		
ガラス類	(%)	0.4	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0.23	0	0.08	0.03	0	0	0	0.06	1.44	0	0	0	0	0.25	1.01	0.98	1.20	0.19	0.00	0.00			
セトモノ・石・砂	(%)	0	1.1	1.5	1.4	1.4	0.6	0.41	0.81	2.48	2.18	0.46	0.2	0.4	0.05	0.75	0	2.44	1.58	3.25	2.48	2.37	4.84	4.61	1.7	5.77	6.64	11.88	7.36	7.31	4.78			
不燃物混入率	(%)	5.5	8.7	17.9	20.1	15.9	10.9	13.97	21.29	9.92	15.49	12.1	20.12	10.83	10.8	8.8	16.82	15.74	16.79	16.24	12.11	13.69	17.42	11.14	16.88	10.82	20.46	15.75	13.89	11.03	7.22			
総発熱量	kcal/kg	2050	1660	2050	2040	2270	2170	2450	2670	2100	2150	1620	2680	2280	1660	1670	2820	2360	2250	2430	1560	1870	2050	1850	2150	2,170	1,960	2,580	2,360	2,550	2,120			
低位発熱量(計算値)	kcal/kg	1530	1140	1510	1380	1680	1640	1740	1910	1810	1440	1270	1930	1550	1110	1140	2170	1570	1360	1720	1000	1190	1540	1320	1430	1,600	1,550	2,030	1,860	1,860	1,500			
低位発熱量(実測値)	kcal/kg	1560	1160	1560	1550	1810	1710	1970	2170	1640	1650	1150	2160	1800	1140	1160	2360	1840	1710	1970	1050	1350	1570	1360	1660	1,680	1,480	2,130	1,880	2,070	1,640			

不燃物混入率(乾基準%) : 不燃物(プラスチック類、金属類、ガラス類、セトモノ・石・砂)の割合%の合計

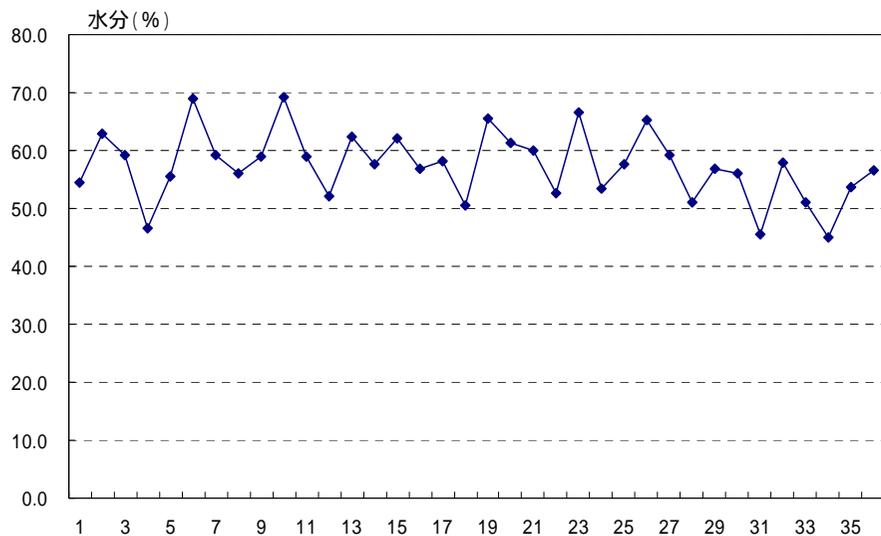
【野田市関宿クリーンセンターにおけるごみ質調査結果】(1 / 2)



関宿地域(平成7年度～平成22年度)の低位発熱量の推移



関宿地域(平成7年度～平成22年度)の紙類と厨芥類の推移



関宿地域(平成7年度～平成22年度)の水分の推移

02

【低位発熱量】《変動はあるが、横ばい傾向》

変動はあるものの 750～2,140 kcal/kg の間で推移しています。(平均値 1,372 kcal/kg)

【紙類・厨芥類の乾基準】《紙類増加傾向、厨芥類横ばい傾向》

紙類の混入している割合は常に高く、その割合も増加傾向にあります(平均値 48%)。厨芥類は近年、低下傾向が見られます(平均値 18%)。

【水分】《常に水分量が多い》

変動はあるものの概ね 50%以上で推移しています(平均値 57%)。

【野田市関宿クリーンセンターにおけるごみ質調査結果】(2 / 2)

野田市関宿クリーンセンターにおけるごみ質調査結果

年度	H15年度				H16年度				H17年度				H18年度									
	H15.6.27	H15.8.27	H15.11.18	H16.2.3	H16.6.8	H16.8.30	H16.11.12	H17.2.2	H17.4.19	H17.6.21	H17.8.9	H17.10.18	H17.12.20	H18.2.21	H18.5.23	H18.7.18	H18.9.19	H18.11.14	H19.1.12	H19.3.6		
実施年月日																						
比重	kg/l	0.290	0.420	0.530	0.300	0.220	0.390	0.210	0.290	0.250	0.210	0.310	0.180	0.230	0.330	0.250	0.310	0.320	0.290	0.190		
全水分	(%)	60.2	64.0	65.5	59.6	64.5	65.9	53.9	62.3	54.5	62.9	59.2	46.7	55.5	68.9	59.1	56.0	59.0	69.2	58.9	52.2	
全灰分	(%)	2.9	4.3	2.9	5.7	4.9	4.6	13.9	8.7	2.7	5.1	3.7	3.9	7.7	5.9	4.0	4.0	6.6	4.6	5.0	5.5	
可燃分	(%)	36.9	31.7	31.6	34.7	30.6	29.5	32.2	29.0	42.8	32.0	37.1	49.4	36.8	25.2	36.9	40.0	34.4	26.2	36.1	42.3	
ごみ種類組成・乾基準%	紙類	(%)	44.3	51.6	51.8	51.2	51.9	55.7	38.2	37.7	42.6	51.4	49.2	54.9	51.1	43.8	43.3	38.9	59.5	49.2	36.5	57.7
	厨芥類	(%)	29.7	26.2	30.3	33.7	23.4	26.1	24.3	48.2	32.8	17.0	13.0	20.1	15.4	23.3	12.6	22.8	18.0	25.9	24.7	13.5
	布類	(%)									3.0	2.1	13.7	1.6	1.3	6.0	14.4	14.3	2.5	0.0	10.5	3.1
	草木類	(%)	7.6	5.3	4.1	4.5	6.3	5.9	5.9	1.8	5.8	5.2	7.0	1.4	5.1	1.9	8.2	6.6	5.3	6.1	11.8	4.8
	プラスチック類	(%)	11.9	8.0	5.4	2.1	3.2	3.9	5.3	6.6	2.4	8.8	10.5	17.4	11.0	7.8	17.3	9.2	6.9	6.6	6.6	10.1
	ゴム類	(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.7	0.0	0.3	1.8	0.0	0.5	0.0	0.2
	その他	(%)	5.4	7.6	7.9	5.8	12.7	7.9	2.6	4.4	13.4	11.1	3.2	3.5	13.7	4.6	2.3	5.1	4.4	7.9	8.6	5.8
	金属類	(%)									0.0	0.4	0.9	0.8	1.3	0.4	0.8	1.1	2.7	1.5	1.0	1.7
	ガラス類	(%)	1.1	1.3	0.5	2.7	2.5	0.5	23.7	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	2.9
	セトモノ・石・砂	(%)									0.0	4.0	2.3	0.0	0.4	1.1	0.8	0.2	0.7	2.3	0.0	0.2
不燃物混入率	(%)	13	9.3	5.9	4.8	5.7	4.4	29	7.9	2.4	13.2	13.7	18.2	12.7	20.4	18.9	10.5	10.3	10.4	7.9	14.9	
総発熱量	kcal/kg									1,930	1,490	1,860	2,630	1,860	1,280	1,970	2,030			1,680		
低位発熱量(計算値)	kcal/kg	1,300	1,040	1,030	1,200	990	930	1,120	930	1,600	1,070	1,320	1,940	1,320	720	1,310	1,460			1,270		
低位発熱量(実測値)	kcal/kg	1,470	1,030	1,040	1,160	870	920	1,010	1,040	1,440	990	1,360	2,140	1,370	770	1,460	1,540	1,070	750	1,200	1,620	

年度	H19年度					H20年度					H21年度					H22年度										
	H19.5.29	H19.7.17	H19.9.18	H19.11.30	H20.1.10	H20.3.4	H20.5.23	H20.8.29	H20.9.17	H20.11.12	H21.1.9	H21.3.4	H21.4.16	H21.6.11	H21.8.7	H21.10.7	H22.1.8	H22.2.19	H22.5.14	H22.7.16	H22.8.27	H22.11.26	H23.1.20	H23.3.4		
実施年月日																										
比重	kg/l	0.279	0.208	0.112	0.312	0.243	0.160	0.288	0.295	0.263	0.305	0.186	0.230	0.265	0.294	0.344	0.338	0.237	0.394	0.285	0.293	0.379	0.240	0.283	0.242	
全水分	(%)	62.40	57.58	62.04	56.90	58.07	50.48	65.62	61.29	60.12	52.76	66.71	53.32	57.53	65.18	59.13	51.10	56.73	55.98	45.55	57.83	51.15	44.98	53.63	56.47	
全灰分	(%)	5.00	4.80	4.30	6.90	4.10	5.60	4.84	5.77	4.17	8.32	3.64	5.42	5.75	4.60	10.33	16.18	4.40	8.36	11.10	5.00	10.00	12.20	5.30	5.10	
可燃分	(%)	32.60	37.62	33.66	36.20	37.83	43.92	29.54	32.94	35.71	38.92	29.65	41.26	36.72	30.22	30.54	32.72	38.87	35.66	43.35	37.17	38.85	42.82	41.07	38.43	
ごみ種類組成・乾基準%	紙類	(%)	42.60	39.53	54.36	53.60	49.79	70.67	56.06	47.21	53.15	34.22	37.92	46.43	34.70	52.37	35.40	35.88	50.78	48.62	40.09	56.65	44.66	49.04	60.71	68.06
	厨芥類	(%)	10.14	16.49	15.10	13.31	15.06	15.15	25.92	16.82	15.96	29.38	44.80	26.06	13.57	24.08	18.69	4.75	22.48	13.92	5.38	10.67	8.33	8.61	8.80	11.17
	布類	(%)	6.49	2.96	3.35	1.80	2.51	0.96	4.07	3.07	1.44	5.46	5.09	6.45	5.24	5.71	4.22	11.12	5.50	2.86	2.24	1.71	3.43	14.61	3.12	4.53
	草木類	(%)	4.67	13.74	5.03	9.71	9.62	0.48	2.13	11.21	9.64	7.06	1.78	2.80	18.88	4.22	7.49	6.83	4.72	11.79	20.49	10.94	9.89	5.71	3.83	3.58
	プラスチック類	(%)	18.46	13.11	9.40	6.47	5.86	3.37	7.19	10.09	12.56	14.16	8.99	12.52	17.94	9.12	14.41	11.83	12.73	7.65	7.28	12.12	14.01	5.27	12.63	6.01
	ゴム類	(%)	0.81	0.00	0.00	0.00	0.42	0.00	0.02	0.52	0.25	0.04	0.07	0.00	0.16	0.18	0.01	0.75	0.03	0.08	1.23	0.00	0.00	0.00	0.57	0.00
	その他	(%)	15.82	10.57	12.08	14.75	15.48	7.21	4.03	9.98	6.62	8.44	1.14	3.74	5.21	3.63	8.75	18.03	2.66	8.93	21.05	6.07	9.11	8.38	9.65	5.80
	金属類	(%)	0.20	3.17	0.34	0.18	0.42	1.92	0.58	0.74	0.18	0.08	0.21	0.82	0.78	0.00	0.04	0.55	0.08	0.33	1.12	0.00	1.76	0.00	0.06	0.11
	ガラス類	(%)	0.20	0.00	0.00	0.00	0.42	0.00	0.00	0.19	0.02	0.03	0.00	0.00	0.09	0.02	0.06	0.00	0.03	0.35	0.11	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00
	セトモノ・石・砂	(%)	0.61	0.42	0.34	0.18	0.42	0.24	0.00	0.17	0.18	1.13	0.00	1.18	3.43	0.67	10.93	10.26	0.99	5.47	1.01	1.84	8.81	8.38	0.57	0.74
不燃物混入率	(%)	19.47	16.7	10.08	6.83	7.12	5.53	7.77	11.19	12.94	15.4	9.2	14.52	22.24	9.81	25.44	22.64	13.83	13.8	9.52	13.96	24.58	13.65	13.32	6.86	
総発熱量	kcal/kg						2,040	1,550	1,730	1,980	2,100	1,580	2,300	2,290	1,480	1,700	1,780	2,120	1,910	2,290	1,810	2,090	2,050	2,010	1,780	
低位発熱量(計算値)	kcal/kg						1,670	940	1,110	1,250	1,430	930	1,540	1,310	970	1,020	1,170	1,410	1,270	1,680	1,330	1,440	1,660	1,530	1,390	
低位発熱量(実測値)	kcal/kg	1,350	1,340	1,100	1,300	1,370	1,570	1,030	1,220	1,450	1,630	1,050	1,800	1,740	970	1,220	1,330	1,600	1,440	1,820	1,320	1,610	1,600	1,520	1,300	

不燃物混入率(乾基準%): 不燃物(プラスチック類、金属類、ガラス類、セトモノ・石・砂)の割合%の合計

野田市が実施している施策等に対する他市の取組状況について

団体名	野田市		松戸市		柏市(旧柏地域)		
人口(H23.4.1)	157,033人		491,302人		405,233人		
一般会計予算 (平成23年度当初)	471億1700万円		1259億5千万円		1129億2千万円		
ごみ処理総量、原単位(可燃+不燃)	36,639 t	639 g	118,782 t	662 g	86,816 t	688 g	
可 燃	生活系(総量、原単位)	19,719 t	344 g	78,262 t	436 g	50,770 t	403 g
	事業系(総量、原単位)	10,798 t	188 g	37,759 t	211 g	28,564 t	226 g
不 燃	生活系(総量、原単位)	6122 t	107 g	2,583 t	14 g	6,885 t	55 g
	事業系(総量、原単位)	0 t	0 g	178 t	1 g	597 t	5 g
資源回収	集 団	8,118 t		1,345 t			
	行 政(剪定枝含む)	4,232 t		17,463 t		23,155 t	
	その他	59 t		131 t		5,606 t	
ごみ処理総量、原単位(可燃+不燃+資源)	49,048 t	856 g	137,721 t	768 g	115,577 t	916 g	

上記は旧柏市(345,512人)データです。

野田市が実施している施策等に対する他市の取組状況

	指定袋制の有無			
	導入時期	平成7年4月	平成23年7月	
ごみ袋制度	種類と容量	種類は可燃ごみ、不燃ごみの2種類 容量は種類ごとに20、30、40リットルの3種類	種類:家庭の燃やせるごみの1種類 容量:平形袋(30,45) U形袋(10,20,30,45)	
	無料配布枚数	年間130枚	無	
	有料袋代(袋代のみ)		自由価格	
	有料袋代(処理費込み)	20リットル 1枚 85円 30リットル 1枚125円 40リットル 1枚170円		
生ごみ堆肥化装置購入助成金の有無				
概 要	コンポスト	購入価格の1/2 3千円を限度	コンポスト・EM容器 購入価格の1/2 6千円を限度	
	機械式生ごみ処理機	購入価格の1/3 3万円を限度	機械式生ごみ処理機 購入価格の1/3 2万円を限度	
	年度別実績		年度別実績	
	コンポスト	127基	コンポスト	97基
	機械式	96基	機械式	158基
	H20 計	230基	H20 計	255基
	コンポスト	104基	コンポスト	65基
	機械式	93基	機械式	149基
	H21 計	197基	H21 計	214基
	コンポスト	63基	コンポスト	70基
機械式	70基	機械式	111基	
H22 計	133基	H22 計	181基	
リサイクル展示場の有無		×		
リサイクルフェアなどの啓発イベントの有無				
環境学習の実施の有無				
施設見学の有無				
広報誌等による啓発活動の有無				
空き缶回収機設置の有無		×	×	
ごみ減量による還元制度の有無		×	×	
堆肥化施設の有無(生ごみ、剪定枝など)		×	×	
概 要	剪定枝、落ち葉及び草を活用して良質な堆肥を生産し、ごみの減量化推進と化学肥料の減量化による環境保全型農業を推進することにより、付加価値のある持続性の高い農業の振興に寄与することを目的として建設、平成12年4月稼働			
その他、3Rの推進やごみの減量のため取り組んでいる事例について		パートナー講座(ごみ問題や環境問題等をテーマに、市民への啓発と情報の共有化を図る) 廃食用油の資源化(バイオディーゼル燃料等として再利用する) 別紙1参照	指定多量廃棄物排出者へのごみ減量指導(「事業系一般廃棄物減量計画」の提出依頼、事業所への立入調査) レジ袋削減キャンペーンの実施(啓発及びアンケートの実施) ごみ減量リサイクル協力店、エコオフィス、買い物袋持参協力店の推奨(市内小売店・事業所等への啓発及び広報等の支援)	

野田市が実施している施策等に対する他市の取組状況について

団体名	流山市		鎌ヶ谷市		我孫子市		
人口（H23.4.1）	165,671人		108,370人		134,911人		
一般会計予算 （平成23年度当初）	419億9800万円		277億2千万円		343億3千万円		
ごみ処理総量、原単位（可燃+不燃）	39,456 t	652 g	25,538 t	646 g	31,867 t	647 g	
可 燃	生活系（総量、原単位）	26,085 t	431 g	17,017 t	430 g	22,910 t	465 g
	事業系（総量、原単位）	10,283 t	170 g	5,355 t	135 g	6,750 t	137 g
不 燃	生活系（総量、原単位）	2,853 t	47 g	2,244 t	57 g	1,846 t	37 g
	事業系（総量、原単位）	235 t	4 g	922 t	23 g	361 t	7 g
資源回収	集 団	8,482 t		1,298 t			
	行 政（剪定枝含む）	7,001 t		6,098 t		10,608 t	
	その他	1,012 t				2,222 t	
ごみ処理総量、原単位（可燃+不燃+資源）	55,951 t	925 g	32,934 t	833 g	44,697 t	908 g	

上記は平成21年度データです。

野田市が実施している施策等に対する他市の取組状況

ごみ袋制度	指定袋制の有無	×		×		
	導入時期			昭和61年 7月		
	種類と容量					
	無料配布枚数			無		
	有料袋代（袋代のみ）			製造業者によって異なる		
	有料袋代（処理費込み）					
生ごみ堆肥化装置購入助成金の有無						
概 要	コンポスト・EM容器	購入価格の1/2 6千円を限度		コンポスト・EM容器 購入価格の1/2 4千円を限度		
	機械式生ごみ処理機	購入価格の1/2 2万円を限度		機械式生ごみ処理機 購入価格の1/3 2万円を限度		
	平成23年度より廃止				コンポスト・EM容器 購入価格の2/3 3千円を限度	
	年度別実績		年度別実績		年度別実績	
	コンポスト	42基	コンポスト	15基	コンポスト	169基
	機械式	104基	機械式	26基	機械式	51基
	H20 計	146基	H20 計	41基	H20 計	220基
	コンポスト	63基	コンポスト	26基	コンポスト	164基
	機械式	156基	機械式	31基	機械式	57基
	H21 計	219基	H21 計	57基	H21 計	221基
	コンポスト	90基	コンポスト	9基	コンポスト	103基
	機械式	58基	機械式	13基	機械式	32基
H22 計	148基	H22 計	22基	H22 計	135基	
リサイクル展示場の有無			×		×	
リサイクルフェアなどの啓発イベントの有無						
環境学習の実施の有無			×			
施設見学の有無						
広報誌等による啓発活動の有無						
空き缶回収機設置の有無	×		×		×	
ごみ減量による還元制度の有無	×		×		×	
堆肥化施設の有無（生ごみ、剪定枝など）			×			
概 要	剪定枝を材料に堆肥（土壌改良剤）を生産し、市民に安価で提供し、ごみの減量化啓発を行うことを目的として建設。 平成22年4月稼働				保育園、小中学校、福祉施設、協力団体（4自治会）の生ごみを減容化、残渣を堆肥として学校等で利活用。実証実験段階なので今後協力団体数を増やし焼却ごみを減量していく計画。 剪定枝木を資源として回収している。破碎し、チップ状にして配布。マルチング材や堆肥の原料として活用してもらっている。（厳密に言うと堆肥化ではない）	
	その他、3Rの推進やごみの減量のため取り組んでいる事例について		リサイクル推進店制度 不用品を再利用して行なうごみ減量・資源化啓発を行うリサイクル講座 平成23年度よりノーレジ袋推進事業による還元制度を行なっている。こちらは買い物の際にレジ袋を断った場合に105円（税込）の買い物ごとに取得できるノーレジ袋推進事業を側面支援している。なお、本事業は流山商業協同組合が行なっています。			

野田市が実施している施策等に対する他市の取組状況について

団体名	木更津市		八千代市		習志野市		
人口（H23.4.1）	128,775人		193,274人		163,722人		
一般会計予算 （平成23年度当初）	360億円		530億8300万円		513億2千万円		
ごみ処理総量、原単位（可燃+不燃）	46,016 t	979 g	48,089 t	682 g	50,819 t	850 g	
可 燃	生活系（総量、原単位）	25,440 t	541 g	35,301 t	500 g	32,911 t	551 g
	事業系（総量、原単位）	19,119 t	407 g	11,672 t	165 g	16,540 t	277 g
不 燃	生活系（総量、原単位）	1,377 t	29 g	1,114 t	16 g	1,116 t	19 g
	事業系（総量、原単位）	80 t	2 g	2 t	0 g	252 t	4 g
資源回収	集 団	1,584 t		0 t		4,399 t	
	行 政（剪定枝含む）	7,540 t		7,572 t		6,548 t	
	その他	0 t					
ごみ処理総量、原単位（可燃+不燃+資源）	55,140 t	1,173 g	55,661 t	789 g	61,766 t	1,034 g	

野田市が実施している施策等に対する他市の取組状況

	野田市	八千代市	習志野市
ごみ袋制度	指定袋制の有無		×
	導入時期	平成12年4月 容器包装プラスチックのみ平成16年4月	平成12年7月
	種類と容量	種類は燃やせるごみ、燃やせないごみ、びん・かん・ペットボトル、容器包装プラスチックの4種類。容量は20、30、45の3種類	可燃ごみ袋 ・10、20、30、40の4種類 不燃・有害ごみ袋 ・20のみ
	無料配布枚数	無	無
	有料袋代（袋代のみ）	びん・かん・ペットボトル、容器包装プラスチックのごみ袋については本市で許可された製造業者の自由な流通経路・価格で販売している。	
有料袋代（処理費込み）	燃やせるごみ、燃やせないごみについては下記のとおり。 20 20円/枚 30 30円/枚 45 45円/枚	10 袋1枚8.5円 20 袋1枚12円 30 袋1枚18円 40 袋1枚24円	
生ごみ堆肥化装置購入助成金の有無			×
概 要	コンポストや密封容器 購入価格の1/2 6千円を限度	コンポスト容器等 購入価格の6割 3千円を限度	
	機械式生ごみ処理機 購入価格の1/2 2万5千円を限度	機械式生ごみ処理機 購入価格の6割 2万円を限度	
	年度別実績	年度別実績	
	コンポスト 56基	コンポスト 59基	
	機械式 65基	機械式 51基	
	H20 計 121基	H20 計 110基	
	コンポスト 24基	コンポスト 37基	
	機械式 53基	機械式 35基	
	H21 計 77基	H21 計 72基	
	コンポスト 40基	コンポスト 41基	
機械式 25基	機械式 24基		
H22 計 65基	H22 計 65基		
リサイクル展示場の有無	×	×	
リサイクルフェアなどの啓発イベントの有無			
環境学習の実施の有無			
施設見学の有無	×		
広報誌等による啓発活動の有無			
空き缶回収機設置の有無	×	×	×
ごみ減量による還元制度の有無	×	×	×
堆肥化施設の有無（生ごみ、剪定枝など）		×	×
概 要	平成11年9月より生ごみ堆肥化促進事業として市立小学校1校に生ごみ処理機（100kg処理タイプ）を設置。設置校と市立保育園6園から出る給食の残飯を投入し、堆肥化している。堆肥はクリーンセンターにて保管し、希望者に配布している。		
その他、3Rの推進やごみの減量のため取り組んでいる事例について			

野田市が実施している施策等に対する他市の取組状況について

団体名	佐倉市	成田市	浦安市				
人口（H23.4.1）	(外国人含む) 178,199人	129,630人	165,128人				
一般会計予算 (平成23年度当初)	404億3800万	628億円	623億8千万円				
ごみ処理総量、原単位（可燃+不燃）	57309 t	881 g	49,299 t	1,042 g	55,295 t	917 t	
可 燃	生活系（総量、原単位）	34,068 t	524 g	28,513 t	602 g	28,760 t	477 g
	事業系（総量、原単位）	7,944 t	122 g	3,254 t	69 g	22,193 t	368 g
不 燃	生活系（総量、原単位）	1,539 t	24 g	17,003 t	359 g	3,362 t	56 g
	事業系（総量、原単位）	1 t	0 g	529 t	11 g	980 t	16 g
資源回収	集 団	6,677 t		2,467 t			
	行 政（剪定枝含む）	7080 t		96 t		5,161 t	
	その他			3 t		14 t	
ごみ処理総量、原単位（可燃+不燃+資源）	43,552 t	670 g	51,864 t	1,096 g	60,470 t	1,003 g	

野田市が実施している施策等に対する他市の取組状況

	指定袋制の有無			
	導入時期	昭和47年 4月	平成2年4月	平成18年1月
ごみ袋制度	種類と容量	もやせるごみ 20・30 うめたてごみ 15 ビン、カン、その他紙製容器、その他プラスチック容器 各30	(合併以前の旧成田市地域) 燃やせるごみ(大)約35 燃やせるごみ(小)約18 ビニール・プラスチック類 約35 ビン・カン・ガラス 約35 金物・陶磁器類 約35 (合併以前の旧下総・大栄町地域) 可燃ごみ(大)約35 可燃ごみ(小)約18 ペットボトル 約35 ビン・カン 約35 不燃ごみ 約35	種類 燃やせるごみ、燃やせないごみの2種類 容量 燃やせるごみ(15・20・30・45の4種類) 燃やせないごみ(15・20・30の3種類)
	無料配布枚数	無	無	無
	有料袋代(袋代のみ)	市場価格	平成20年1月31日で希望小売価格を廃止。 目安価格 (合併以前の旧成田市地域) 35袋(10枚入り)120円程度 18袋(10枚入り)90円程度 (合併以前の旧下総・大栄町地域) 35袋(10枚入り)140円程度 18袋(10枚入り)100円程度	自由競争価格
	有料袋代(処理費込み)			
生ごみ堆肥化装置購入助成金の有無				
概 要	コンポスト容器等 購入価格の1/3 2千円を限度	コンポスト容器等 購入価格の1/2 5千円を限度	コンポスト容器等 購入価格の1/2 3千5百円を限度 一世帯2基まで	コンポスト容器等 購入価格の1/2 3千5百円を限度 一世帯2基まで
	機械式生ごみ処理機 購入価格の1/4 1万円を限度	機械式生ごみ処理機 購入価格の1/2 5万円を限度	機械式生ごみ処理機 購入価格の1/2 3万円を限度 一世帯1機までで、過去に補助を受けた方は、5年間受けられない。	機械式生ごみ処理機 購入価格の1/2 3万円を限度 一世帯1機までで、過去に補助を受けた方は、5年間受けられない。
	年度別実績	年度別実績	年度別実績	年度別実績
	コンポスト 152基	コンポスト 80基	コンポスト 4基	コンポスト 4基
	機械式 31基	機械式 133基	機械式 48基	機械式 48基
	H20 計 183基	H20 計 213基	H20 計 52基	H20 計 52基
	コンポスト 117基	コンポスト 127基	コンポスト 13基	コンポスト 13基
	機械式 16基	機械式 99基	機械式 32基	機械式 32基
	H21 計 133基	H21 計 226基	H21 計 45基	H21 計 45基
	コンポスト 70基	コンポスト 81基	コンポスト 16基	コンポスト 16基
機械式 15基	機械式 70基	機械式 28基	機械式 28基	
H22 計 85基	H22 計 151基	H22 計 44基	H22 計 44基	
リサイクル展示場の有無	×			
リサイクルフェアなどの啓発イベントの有無				
環境学習の実施の有無	×			
施設見学の有無				
広報誌等による啓発活動の有無				
空き缶回収機設置の有無	×	×	×	×
ごみ減量による還元制度の有無		×	×	×
堆肥化施設の有無(生ごみ、剪定枝など)	×	×	×	×
概 要				
その他、3Rの推進やごみの減量のため取り組んでいる事例について	買物袋持参運動 レジ袋を買わない場合にシールを渡し、シールが40枚溜まったら台紙に張ってゴミ袋10枚と交換できる。		ビナス計画 平成3年より、ごみの減量・再資源化に取り組むため始めた、啓発プロジェクト「ビナス計画」を展開し、市民、事業者、行政が一体となった取り組みを行っている。 「ビナス計画」は、1.気持ちの参加、2.できることへの参加、3.システムづくりへの参加、4.システム運用への参加の4つの段階を通じて様々な施策を展開し、本市のごみの減量・再資源化のシステムづくりを目指している。	

廃食用油回収モデル事業について / 松戸市

【事業概要】

松戸市では、家庭などで排出される廃食用油を活用したバイオディーゼル燃料（以下 B D F ）事業の社会実験を平成 20 年 4 月から開始し、回収や品質などの課題を検討してきました。これは松戸市が進めている「もったいない運動」の一環で、大気中の CO2 を増加させない B D F の活用により地球温暖化防止対策として取り組んできたものです。

平成 22 年度には、B D F を活用した「資源循環型社会の構築に向けての社会実験」として、その原料となる廃食用油の回収や製造・供給を安定的に行うことを目的として、民間の B D F 製造所と「廃食用油資源化に関する協定」を締結し、「廃食用油回収モデル事業」を実施しています。

【回収する場所及び時間】：市内 3 箇所

松戸市役所新館（守衛室前）

- ・曜日：月曜日から金曜日（祝日及び年末年始（12月29日から1月3日）除く）
- ・時間：午前9時から午後4時30分まで

ENEOS ガソリンスタンド

- ・曜日：毎日（年末年始（12月29日から1月3日）除く）
- ・時間：午前9時から午後7時まで

出光ガソリンスタンド

- ・曜日：毎日（年末年始（12月29日から1月3日）除く）
- ・時間：午前9時から午後7時まで

【回収する油の種類】

家庭で使用済みとなった天ぷら油・サラダ油や、消費期限切れ等でいらなくなった食用油を回収します。油は液体の植物性のものに限り（固めたものは対象外）。

- ・具体例：なたね油、コーン油、ごま油、紅花油、オリーブオイルなど
持ち込めない油（以下のものはリサイクルできません）
- ・動物性油（バター、ラードなど） ・パーム油、ヤシ油
- ・事業所から出た油 灯油や機械油など、食用以外の油

【出し方】

使用済みの油は、こしきで軽くこしてから、ペットボトル（500ml から 2000ml）に入れ、しっかりキャップを閉めて回収場所に持ち込む。

【廃油回収実績】

平成 22 年度 1,487 リットル

【BDF利用実績】

協定では、市は廃油を提供する代わりに無償でBDFの一部を使用できることになっているが、まだ、利用先を検討している段階であり未使用

【事業経費】

民間企業が事業主体となっているため、市としては、3箇所の回収場所に廃食用油が一定量集まったときに、収集運搬するのみで、今の回収量（1,500・/年）では特にかかっていない。

ごみの3Rに関する方策事例の事業効果比較及び野田市のごみの3R対策について

資料3-2

事例集 No.		3-1	3-2		3-3	3-4
団体名		長崎県 長崎市	茨城県 守谷市	茨城県 常総市	岩手県 花巻市	新潟県 新潟市
人口 (H23.4.1)		438,694 人	62,670 人	63,386 人	102,455 人	801,809 人
一般会計予算 (平成 23 年度当初)		2,142 億 7 千万円	173 億 5500 万円	221 億 6 千万円	450 億 694 7 万 9 千円	359 6 億円
事業名		小中学校リサイクル活動推進事業	生ごみ堆肥化モデル事業 (常総環境センター)		ごみ分別大辞典	生ごみ水切り用具モニター
事業概要		20 年 4 月から、ごみ減量やリサイクルの意識を高めるため教育の一環として、給食用牛乳パックリサイクル及びキャップくるくるリサイクルを行い、小学生及び中学生がリサイクルを体感することで、分別排出の習慣化や環境問題への関心を高めることを目的として実施している。	各家庭から出されている生ごみをごみ減量化の取組の一環として堆肥化し、ごみの減量及び資源化を進めている。 現在、事務組合では、平成 20 年度から稼働した守谷事業所と平成 21 年度に取手市から移管を受けた取手事業所の圏内 2 工場体制で生ごみの堆肥化事業に取り組んでいる。		現在の最新版は、平成 19 年 3 月に改訂され、前編は、リサイクルの仕組み、各分別項目ごとに排出するごみの性状や排出方法、また、資源集団回収についての仕組みなどを掲載しています。 後編は、720 余りの品目について具体的なごみの分類と出し方を 50 音順に掲載しています。 ごみの分類などで迷ったときにより分かりやすく活用できるよう配慮されており、ごみの減量とリサイクル推進の手引書として活用されています。	生ごみには水分が多く含まれており、これが重くなる原因の一つと考えられます。このため、できるだけ水分を取り除くことがごみの減量化にもつながることから、新潟市では、生ごみの水切り運動を推進しています。 平成 22 年度には、3 種類の水切り用具 (生ごみカラット、しぼりっ子、水切りダイエット) を利用して減量効果を重量で量っていただくモニターを募集し、水切り用具の効果を把握しました。平成 23 年度には水切り効果が 1 番高かった「生ごみカラット」を使用するモニターを募集し、日常的に使用してもらうことや、報告会等でモニター同士の交流を深めていただくことで、水きり用具の普及推進に努めています。
経費		平成 22 年度 1,007 千円	平成 22 年度 守谷事業所 63,389 千円 取手事業所 21,622 千円		平成 18 年度 5,717,250 円 (45,000 部) 平成 20 年度 1,056,300 円 (2,000 部)	平成 22 年度 約 28 万円 平成 23 年度 約 36 万円 (見込み)
効果	開始前年の一人一日当たりの排出量	(平成 19 年度) 809 g	(平成 19 年度生活系可燃) 469.8 g	(平成 19 年度生活系可燃) 470 g	(平成 18 年度) 851 g	平成 22 年度開始事業のため比較データなし
	22 年度の一人一日当たりの排出量	759 g	(生活系可燃) 419.9 g	(生活系可燃) 460 g	772 g	
	定量効果 (平成 22 年度)	古紙類 163.74 t 牛乳パック 21.16 t キャップ 8.39 t 事業全体では小中学校の 89.1% が取り組んでおり、学校からの古紙の回収量を含めた 193 t がリサイクルされている。	家庭系可燃ごみについては、原単位に表れているように、人口増加にもかかわらず、毎年減少している。 正確な数値はわからないが、可燃ごみ減量の取り組みとして、主に、この堆肥化事業と雑紙のリサイクルに取り組んでおり、この二つの取り組みの成果と考えている。	堆肥化用生ごみは、41 t を回収	可燃物で 79 g、9.3% の減量化を達成した。	ごみ量に影響が出るほどではありませんが、22 年度はモニター 82 名により計量を行っており、8 月 1 か月で計 224kg の減量がありました。
	定性効果	牛乳パック及びキャップの回収を学校で回収することによって児童生徒の分別意識を高める効果がある。 この事業の定量効果としては、少ないが、本来、減量を求めるものではなく、環境教育の一環として行っている。しかし、小中学生の分別意識が高まれば、それが、各家庭に広がりプラスαの減量効果があると考えている。	①ごみ集積所が鳥獣の被害にあわなくなった ②可燃ごみの袋が軽くなり集積所まで運ぶ負担がなくなった ③可燃ごみを出すことが極端に減った以上のような効果があります。	一部区域での実施のため、減量効果としては、高くはないが、実施地区の住民意識は高く、生ごみ回収の様子を見て、参加を希望する人が多いこともあり、少しでも生ごみを減量し、資源化したいと考えている。	適正分別が進むとともに、市への分別の問い合わせ件数が減少した。	モニターの取組を広報紙で紹介し、生ごみの水切りについて呼びかけを行いましたので、多少の啓発効果はあったものと考えています。
今後の課題について		非参加校の実施上の問題点を整理し、参加校を拡大するとともに、子どもたちの環境意識の高揚に努める。	モデル事業としてスタートし、モデル地区内のみで実施。そのため、市内誰もが参加できるものではない。 また、現施設の受け入れ量に限度があるため、限度に達した後、どのように継続実施していくかが課題。	市内水海道地区全域に回収範囲を広げる場合、施設容量に不足を生じる。	平成 27 年度に焼却施設が広域化されるため、ごみの分別方法が変更になることも考えられ、その際は内容を変更し再発行する必要がある。	現在行っている「生ごみカラット」のモニター制度による普及推進に関しては、「生ごみカラット」で乾燥させるという行為が多少手間であるため、比較的時間のある高齢者や環境問題に関心のある人しか取り組みにくい。 今後はより多くの市民が水切りに取り組めるようなアイデアを検討していきたい。
野田市での実現性の検証		別紙 1		別紙 2-1、-2、-3		

ごみの3Rに関する方策事例の事業効果比較及び野田市のごみの3R対策について

資料3-2

事例集 No.	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	
団体名	宮城県 仙台市		神奈川県 川崎市	愛知県 名古屋市	東京都 江戸川区	
人口(H23.4.1)	1,042,053人		1,426,943人	2,260,892人	680,224人	
一般会計予算 (平成23年度当初)	4,411億5600万円		6180億2238万7千円	1兆499億1437万5千円	2,229億4,398万9千円	
事業名	紙類回収庫の設置	野菜・リサイクルグッズと乾燥生ごみの交換制度	家庭ごみのダイエット・チェックシート	生ごみの分別収集・資源化事業	「リサイクルバンク」、「フリーマーケット」等の利用によるリユースの推進	
事業概要	<p>ごみの減量・リサイクルの推進のため、紙類を持ち込める常設の「紙類回収庫」を市内（区役所、市民センター、生協など）に設置している。</p> <p>紙類回収庫に集められた紙類は、集団資源回収業者で組織する集団資源回収業者協議会と協定を結び、収集を行っている。</p>	<p>各区の野菜市等の会場で乾燥生ごみ1キロにつき100円相当の新鮮野菜と交換することができる。</p> <p>また、各環境事業所、市民センター及びごみ減量推進課では、乾燥生ごみ1キロにつきスタンプ1個をカードに押印し、スタンプ数に応じてリサイクルグッズ等と交換することができるほか、カードを野菜市に持参すればスタンプ1個につき100円相当の新鮮野菜と交換することもできる。</p> <p>集めた乾燥生ごみは、生産者が完熟堆肥にして野菜作りに利用することで生ごみを資源として循環している。</p>	<p>日常生活の中でできる3Rの取組を広げていくため、「家庭のごみのダイエット・チェックシート」を作成し、HPへの掲載や各種イベント等で配布している。</p>	<p>生ごみを分別収集し、堆肥化することにより、ごみの減量及び資源化を図るため、平成16年3月から家庭から排出される生ごみを堆肥化する「生ごみ分別収集・資源化事業」を南区の一部地域で開始し、約7,400世帯を対象に事業を実施しました。</p> <p>生ごみは、家庭において分別し、生ごみ専用袋に入れて週2回の収集日（可燃ごみの収集日と同じ。）に出していただきます。</p> <p>各家庭から出された生ごみは、市の専用収集車が収集し、民間の堆肥化施設に搬入され資源化されます。</p> <p>しかし、各家庭における生ごみの保管に水分調整材（木くず等）を利用していたが、この配布に伴う作業や収集経費などの問題から平成21年1月をもって事業廃止となっています。</p>	<p>江戸川区では、自分には不要となった物でも必要な人に譲り、まだ使える物は再利用するなど、繰り返し使うことで、ごみになるものを減らすため、リサイクルバンク、フリーマーケット等を実施し、リユースの推進を図っている。</p> <p>リサイクルバンクは、不用品の情報登録の場であり、みなさんの登録した情報をホームページでお知らせし、「譲ります」「譲ってください」の条件が一致したときに直接交渉していただく制度です。</p> <p>対象品目は基本的に粗大ごみで処分するものとしている。ただし、家庭からのごみ減量の観点から粗大ごみの対象にならないものでも、レコード、百貨辞典のセットは対象とする。また、修理を必要としないものとしている。</p> <p>フリーマーケットやバザーは、リユースの観点から、区が実施するイベントで行う場合には、ホームページで情報提供を行っている。</p>	
経費	<p>紙類回収庫設置費 1箇所 12～19万円 (12年度～18年度実績) 維持管理費 平成22年度 277,000円</p>	平成22年度 61.0万円	「家庭のごみのダイエット・チェックシート」の印刷費 176,400円(2,000枚)	平成19年度 104,009千円	リサイクルバンク ポスターの印刷費、約250千円	
効果	開始前年の一人一日当たりの排出量	(平成11年度) 1,304g	(平成15年度) 1,229g	(平成20年度) 1,020g	(平成15年度生活系可燃) 525g	(平成16年度資源を除く) 842g
	22年度の一人一日当たりの排出量	962g	962g	940g	(生活系可燃) 446g	(資源を除く) 719g
	定量効果 (平成22年度)	紙類回収庫 2,622t 紙類回収ステーション 1,638t 紙類定期回収 10,782t	乾燥生ごみの回収実績 13,984t		約3,700tの生ごみを堆肥として資源化した。(平成19年度 726t)	
	定性効果	効果について数値化はしていないが、地域の集団資源回収を利用できない、家庭内保管が難しい市民に対して、紙類の排出の機会を作ることができた。	効果について数値化はしていないが、 ・乾燥型の電気式生ごみ処理機の生成物を自家利用できない市民が、そのままごみとして廃棄するのではなく、資源としてリサイクルする機会を提供することができた。 ・生ごみ減量・リサイクルに関する意識の高揚が図られている。	チェックシートを利用することにより、ごみの減量・リサイクルへの意識の向上を図ることができる。	市に限られた回数で一律に収集する方法では、生ごみの腐敗や収集コストの課題の克服が困難であった。	現状では利用者が少なく余り効果が上がっていない。
今後の課題について	本市では、平成20年10月より、市内の全ごみ集積所で紙類定期回収を開始しており、今後の紙類回収庫のあり方について、紙類定期回収や集団資源回収の動向を踏まえた上で、検討していく必要がある。	制度の更なる周知を図るとともに、現在利用している市民に対しては乾燥生ごみの品質向上（異物の混入防止等）について引き続き啓発を行う必要がある	チェックシートの利用者数と、使用者のチェック数の結果把握・分析（現在HPに掲載し、各診断結果のカウントを図っている。）	平成21年1月事業廃止	リサイクルバンク ・利用者が少ない（世論調査では認知度3.3%）いかにして普及啓発していくかが課題となっている。	
野田市での実現性の検証	別紙 3	別紙 4				

事例集 No.		3-10	
団体名		東京都 府中市	
人口 (H23.4.1)		251,037人	
一般会計予算 (平成23年度当初)		883億5千万円	
事業名		ダイレクトメールの受取拒否	
事業概要		<p>府中市では、一般廃棄物処理基本計画を具体的に実行する行動指針として策定した「府中市ごみ減量アクションプラン」の中で、暮らしの中でのリデュースの取組の一つとして、不要なダイレクトメールは断ることを取り上げています。</p> <p>ダイレクトメールは欲しい情報を得ることができる反面、ときには不要なごみとなってしまふことから、不要なダイレクトメールを断る方法も紹介しています。</p> <p>この他、ホームページへの掲載や各種イベント等での啓発に努めています。</p>	
経費		チラシ・ポスターの印刷費	
効果	開始前年の一人一日当たりの排出量	(平成14年度)	961g
	22年度の一人一日当たりの排出量	(平成21年度)	816g
	定量効果 (平成22年度)	/	
	定性効果	DM 施策の減量効果については、とらえていないが、不要な DM の断り方を紹介することで発生を抑制し、ごみとなってしまふ DM を極力資源（雑紙）としてリサイクルすることを周知している。なお、現在は、DM に対する問合せはほとんど無く、その量も減ってきていると思料される。	
今後の課題について		DMを廃棄する際の資源化の周知徹底を図っていく。	
野田市での実現性の検証		/	

野田市のごみの3 R対策について

他市の事例から想定できる効果について

No.	方 策
別紙1	生ごみ堆肥化の推進
別紙2 - 1	生ごみ水きりの推進(生ごみカラット)
別紙2 - 2	生ごみ水きりの推進(水切りダイエット)
別紙2 - 3	生ごみ水きりの推進(しぼりっ子)
別紙3	紙類の回収(常設紙類回収庫、紙類回収ステーション、定期収集)
別紙4	乾燥生ごみとの交換制度

生ごみ堆肥化の推進	
【他自治体における実施施策】	生ごみ堆肥化事業（常総地方広域市町村圏事務組合）
【他自治体における実施結果】	世帯参加率、参加 1 世帯あたり回収量
	世帯参加率：5.79%、生ごみ回収量：691 t、参加 1 世帯当たり、回収量：115.67kg/年、区域内全体での減量率：0.97%、減量化(原単位)：6.75g/人・日
【検討理由】	<p>本市の焼却対象ごみ組成から厨芥類が 50%以上含まれており、水分量についても 55%程度含まれています。そのため、厨芥類の堆肥化を行うことで厨芥類の排出抑制及び排出時における厨芥類から他のごみへの水分の移行削減が図れます。</p> <p>このことから、焼却処理対象量の削減、焼却処理対象物における水分量減少により焼却処理施設における助燃剤（灯油等）の軽減、収集運搬費の削減等の効果が期待できます。</p>
【本市での想定実施効果】	本市での可燃ごみに含まれる水分量の減少、厨芥類の排出抑制
《実施施策》	生ごみ堆肥化事業
【削減効果】	<p>1) 1 人 1 日当たりの排出量の削減量 18.1 g / 人・日</p> <p>2) 平成 22 年度排出量に対する減量効果 2.8%</p>
《計算根拠》	<p>世帯数 61,250 世帯（平成 22 年度） 「野田市 統計書 人口」</p> <p>守谷市と同程度の施設を整備したと仮定します。 全世帯のうち 9,000 世帯〔約 15%〕が生ごみ堆肥化事業に参加したと仮定します。 参加 1 世帯当たりの回収量 115.67kg/年を用います。 $9,000 \text{ 世帯} \times 115.67\text{kg} \div 1,000 = 1,041 \text{ トン/年}$ $1,041 \text{ (トン)} \div 157,033 \text{ 人} \div 365 \text{ 日} \times 10^6 = 18.2 \text{ グラム/人・日}$</p> <p>減量効果 $18.2/639.24 \times 100 = 2.8\%$ （平成 22 年度基準）</p>
《堆肥製造量》	<p>生ごみ回収量 691 トンに対し、196 トンの堆肥が製造され、本市における堆肥量は 295 トンと見込まれます。 $(196/691) \times 1,041 \text{ トン} = 295 \text{ トン}$</p>
《事業経費》	平成 22 年度 63,389 千円（守谷事業所）

《生ごみ水きりの推進》	
【他自治体における実施施策】	生ごみ水切り用具モニター（新潟市）
【他自治体における実施結果】	用具別脱水率
	生ごみカラット 30.9%、しぼりっ子 6.6%、水切りダイエット 8.1%
【検討理由】	<p>本市の焼却対象ごみ組成から厨芥類が 50%以上含まれており、水分量についても 55%程度含まれています。水分の原因のほとんどが厨芥類から移行したものと考えられることから、排出段階で水分量を減量することは非常に効果的であると考えられます。水分が減少することで、排出抑制効果、収集運搬費の削減、焼却処理施設における助燃剤（灯油等）の軽減効果が期待できます。</p>
【本市での想定実施効果】	本市での可燃ごみに含まれる水分量の減少
《実施施策》	生ごみの水きりの徹底、生ごみ水切り用具の購入補助の実施（生ごみカラット）
【削減効果】	<p>1) 1人1日当たりの排出量の削減量 8.3 g/人・日</p> <p>2) 平成 22 年度排出量に対する減量効果 1.3%</p>
《計算根拠》	<p>厨芥類 52.4 %湿基準（平成 22 年度推計値）</p> <p>厨芥類の 1人1日当たりの排出量 278.9 g （平成 22 年度推計値）</p> <p>1人1日当たりの排出量 639.24 g （平成 22 年度実績）</p> <p style="text-align: right;">「野田市のごみ質について」</p> <p>全人口の 5%で生ごみカラットによる脱水を行ったと仮定 脱水効果としてモニター値を使用。 $278.9 \times 0.05 \times 0.309 = 4.3 \text{ g/人・日}$</p> <p>全人口の 95%の方には日常の水きりの徹底をお願いすることで、生ごみの水分を 3%削減するものと仮定します。住民協力度を 50%と仮定します。 $278.9 \times 0.95 \times 0.03 \times 0.5 = 4.0 \text{ g/人・日}$</p> <p>合わせて 8.3 g/人・日が想定されます。</p> <p>減量効果 $8.3/639.24 \times 100 = 1.3\%$ （平成 22 年度基準）</p>
《事業経費》平成 22 年度	約 28 万円
《参考価格》	生ごみカラット 1,600 円、しぼりっ子 600 円、水切りダイエット 200 円程度

《生ごみ水きりの推進》

【他自治体における実施施策】 生ごみ水切り用具モニター（新潟市）

【他自治体における実施結果】 用具別脱水率

生ごみカラット 30.9%、**水切りダイエット 8.1%**、しぼりっ子 6.6%

【検討理由】

本市の焼却対象ごみ組成から厨芥類が50%以上含まれており、水分量についても55%程度含まれています。水分の原因のほとんどが厨芥類から移行したものと考えられることから、排出段階で水分量を減量することは非常に効果的であると考えられます。水分が減少することで、排出抑制効果、収集運搬費の削減、焼却処理施設における助燃剤（灯油等）の軽減効果が期待できます。

【本市での想定実施効果】 本市での可燃ごみに含まれる水分量の減少

《実施施策》生ごみの水きりの徹底、生ごみ水切り用具の購入補助の実施（水切りダイエット）

【削減効果】

1) 1人1日当たりの排出量の削減量 9.7 g / 人・日

2) 平成22年度排出量に対する減量効果 1.5%

《計算根拠》

厨芥類 52.4% 湿基準（平成22年度推計値）

厨芥類の1人1日当たりの排出量 278.9 g （平成22年度推計値）

1人1日当たりの排出量 639.24 g （平成22年度実績）

「野田市のごみ質について」

全人口の30%で水切りダイエットによる脱水を行ったと仮定

脱水効果としてモニター値を使用。

$$278.9 \times 0.3 \times 0.081 = 6.8 \text{ g / 人・日}$$

全人口の70%の方には日常の水切りを徹底をお願いすることで、生ごみの水分を3%削減するものと仮定します。住民協力度を50%と仮定します。

$$278.9 \times 0.7 \times 0.03 \times 0.5 = 2.9 \text{ g / 人・日}$$

合わせて 9.7 g / 人・日 が想定されます。

減量効果 $9.7 / 639.24 \times 100 = 1.5\%$ （平成22年度基準）

《事業経費》平成22年度 約28万円

《参考価格》生ごみカラット 1,600円、しぼりっ子 600円、水切りダイエット 200円程度

《生ごみ水きりの推進》	
【他自治体における実施施策】	生ごみ水切り用具モニター（新潟市）
【他自治体における実施結果】	用具別脱水率
	生ごみカラット 30.9%、水切りダイエット 8.1%、 しぼりっ子 6.6%
【検討理由】	<p>本市の焼却対象ごみ組成から厨芥類が 50%以上含まれており、水分量についても 55%程度含まれています。水分の原因のほとんどが厨芥類から移行したものと考えられることから、排出段階で水分量を減量することは非常に効果的であると考えられます。水分が減少することで、排出抑制効果、収集運搬費の削減、焼却処理施設における助燃剤（灯油等）の軽減効果が期待できます。</p>
【本市での想定実施効果】	本市での可燃ごみに含まれる水分量の減少
《実施施策》	生ごみの水きりの徹底、生ごみ水切り用具の購入補助の実施（しぼりっ子）
【削減効果】	<p>1) 1人1日当たりの排出量の削減量 9.9 g/人・日</p> <p>2) 平成 22 年度排出量に対する減量効果 1.5%</p>
《計算根拠》	<p>厨芥類 52.4 %湿基準（平成 22 年度推計値）</p> <p>厨芥類の 1人1日当たりの排出量 278.9 g （平成 22 年度推計値）</p> <p>1人1日当たりの排出量 639.24 g （平成 22 年度実績）</p> <p style="text-align: right;">「野田市のごみ質について」</p> <p>全人口の 40%でしぼりっ子による脱水を行ったと仮定 脱水効果としてモニター値を使用。</p> $278.9 \times 0.4 \times 0.066 = 7.4 \text{ g/人・日}$ <p>全人口の 60%の方には日常の水切りの徹底をお願いすることで、生ごみの水分を 3%削減するものと仮定します。住民協力度を 50%と仮定します。</p> $278.9 \times 0.6 \times 0.03 \times 0.5 = 2.5 \text{ g/人・日}$ <p>合わせて 9.9 g/人・日が想定されます。</p> <p>減量効果 $9.9/639.24 \times 100 = 1.5\%$ （平成 22 年度基準）</p> <p>《事業経費》平成 22 年度 約 28 万円</p> <p>《参考価格》生ごみカラット 1,600 円、しぼりっ子 600 円、水切りダイエット 200 円程度</p>

《紙類の回収》		
【他自治体における実施施策】	常設紙類回収庫の設置（仙台市）	
【他自治体における実施結果】	紙類の手法別回収原単位	
紙類回収庫による回収	市内 42 ヶ所に設置	回収原単位 7.42 g/人・日
紙類回収ステーションによる回収	市内 110 ヶ所	回収原単位 3.25 g/人・日
紙類定期回収（月 2 回）		回収原単位 28.87 g/人・日
【検討理由】	<p>本市の焼却対象ごみ組成から紙類が 25%以上含まれており、水分量についても 55%程度含まれています。水分の原因のほとんどが厨芥類から移行したものと考えられることから、排出段階で水分の吸収体である紙類を回収することは非常に効果的であると考えられます。水分が減少することで、排出抑制効果、収集運搬費の削減、焼却処理施設における助燃剤（灯油等）の軽減効果が期待できます。</p>	
【本市での想定実施効果】	本市での可燃ごみに含まれる紙類の削減・水分量の減少	
《実施施策》	紙類の回収（紙類回収庫、紙類回収ステーション、定期収集）	
【削減効果】		
1) 1人1日当たりの排出量の削減量	39.54 g/人・日	
2) 平成 22 年度排出量に対する減量効果	6.2%	
《計算根拠》		
紙類回収庫による回収見込み	7.42 g/人・日	
紙類回収ステーションによる回収	3.25 g/人・日	
紙類の定期回収	28.87 g/人・日	
合計	39.54 g/人・日	
1人1日当たりの排出量	639.24 g	（平成 22 年度実績）
「野田市のごみ質について」		
減量効果		
紙類回収庫	$7.42/639.24 \times 100 = 1.2\%$	（平成 22 年度基準）
紙類回収ステーション	$3.25/639.24 \times 100 = 0.5\%$	（平成 22 年度基準）
紙類の定期回収	$28.87/639.24 \times 100 = 4.5\%$	（平成 22 年度基準）
合計	$39.54/639.24 \times 100 = 6.2\%$	（平成 22 年度基準）
《事業経費》 平成 22 年度		
紙類回収庫	277,000 円	
紙類回収ステーション	15,235 円	
紙類の定期回収	254,819,190 円	

《乾燥生ごみとの交換制度》

【他自治体における実施施策】 野菜・リサイクルグッズと乾燥生ごみとの交換制度（仙台市）

【他自治体における実施結果】 乾燥生ごみの回収量

乾燥生ごみ回収量 16.931 トン

乾燥による減量化率 7 分の 1

生ごみ処理機（乾燥処理対象）による処理原単位 0.32 g / 人・日

【検討理由】

本市の焼却対象ごみ組成から厨芥類が 50%以上含まれており、水分量についても 55%程度含まれています。水分の原因のほとんどが厨芥類から移行したものと考えられることから、排出段階で水分量を減量することは非常に効果的であると考えられます。水分が減少することで、排出抑制効果、収集運搬費の削減、焼却処理施設における助燃剤（灯油等）の軽減効果が期待できます。

【本市での想定実施効果】 本市での可燃ごみに含まれる厨芥類の減少

《実施施策》乾燥生ごみの交換制度

【削減効果】

1) 1 人 1 日当たりの排出量の削減量 0.32 g / 人・日

2) 平成 22 年度排出量に対する減量効果 0.05%

《計算根拠》

乾燥生ごみの回収見込み 0.046 g / 人・日

乾燥生ごみ減量効果を 1/7 と仮定する。

生ごみ処理（乾燥方式）による処理理想定量 $0.046 \times 7 = 0.32 \text{ g / 人・日}$

1 人 1 日当たりの排出量 639.24 g （平成 22 年度実績）
「野田市のごみ質について」

減量効果 $0.32 / 639.24 \times 100 = 0.05\%$ （平成 22 年度基準）

《事業経費》 平成 22 年度 610,000 円

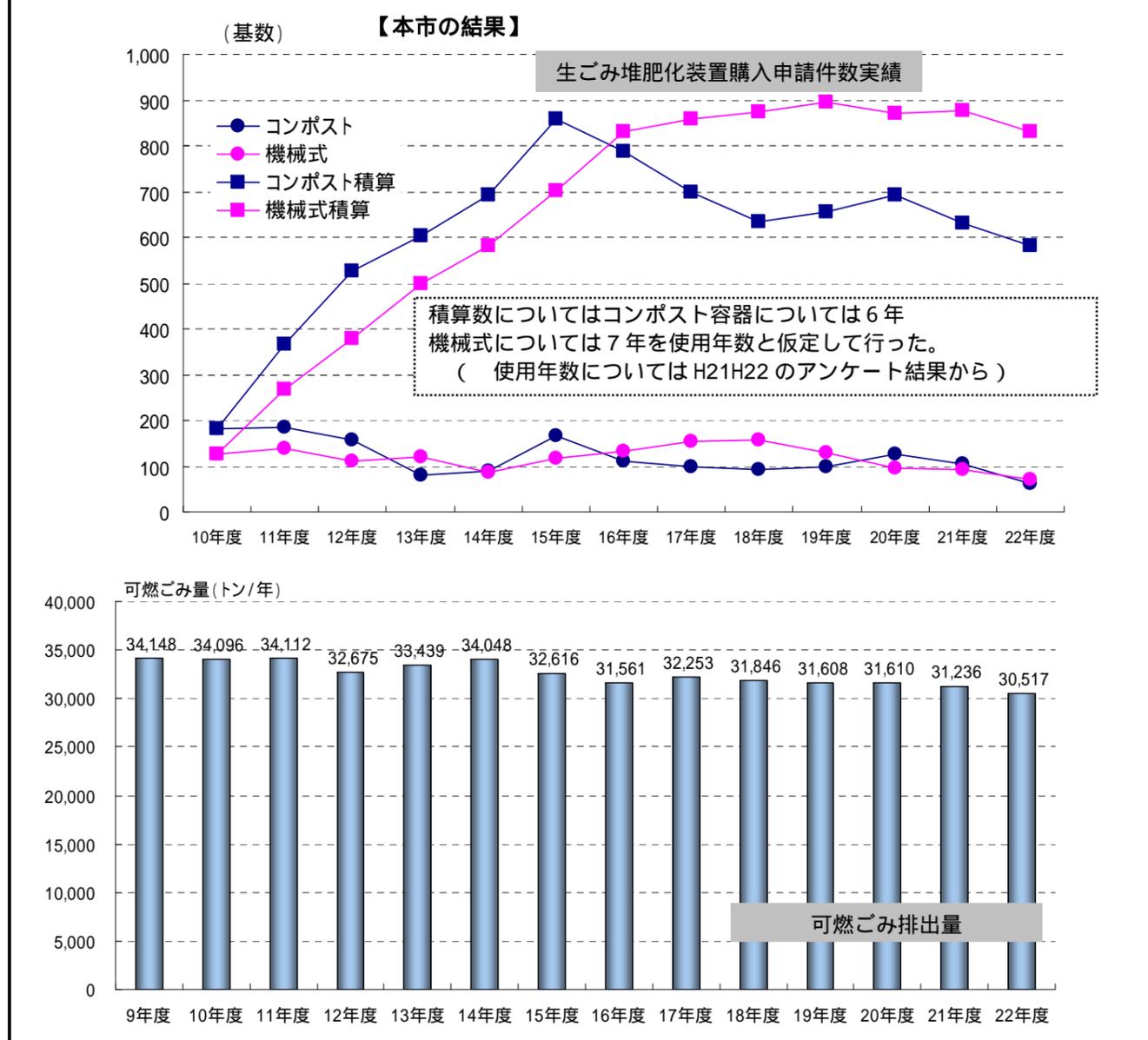
野田市のごみの 3 R に関する対策について

現況施策の評価

野田市で実施している主な 3 R 関連の施策について、現状確認をしたうえで課題をまとめました。

No.	方策
実施施策	生ごみの堆肥化装置購入補助 (野田市生ごみ堆肥化装置購入補助金交付規則)
実施施策	リサイクル展示場におけるリサイクルの推進
実施施策	リサイクルフェアの実施
実施施策	剪定枝、草・落ち葉の堆肥化处理
実施施策	空き缶回収機の設置
実施施策	ごみ減量による還元制度
実施施策	指定袋制度の導入
実施施策	粗大ごみ処理券制度の導入
実施施策	ごみ組成調査
実施施策	集団資源回収の実施
実施施策	事業系可燃ごみへの減量対策 (申し訳ございませんが、実施施策 の資料につきましては、当日配布させていただきます。)

実施施策	生ごみ堆肥化装置購入助成金〈野田市生ごみ堆肥化装置購入助成金交付規則〉	3 R 施策の分類		
実施時期	平成 10 年 10 月から実施	影響を与える発生源	家庭系ごみ	事業系ごみ
期待する効果	可燃ごみの発生抑制、リサイクルの促進	ごみ種類	可燃ごみ	不燃ごみ その他
		効果	排出抑制	再利用 資源化



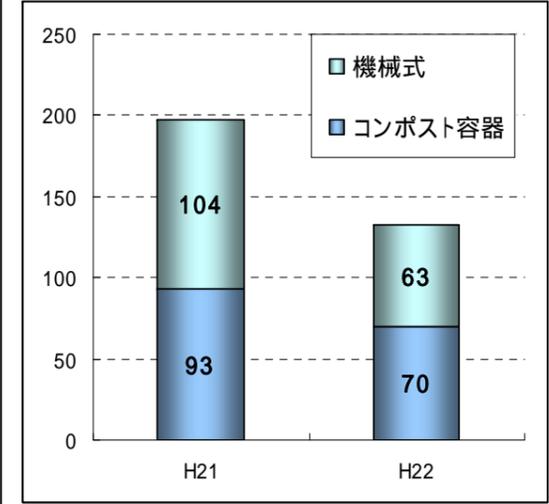
【平成 18 年度】及び【平成 21、22 年度の申請者へアンケート調査の結果】詳細は別紙参照

制度の評価
制度継続を望む割合が平成 18 年度調査時は 6 割、21 年度、22 年度調査では 7 割に増加している。

現状における使用状況
コンポスト容器と機械式の使用状況は半々であるが、農家畜産住宅では 8 割以上がコンポスト容器、一般住宅では 6 割、マンション・アパートでは 8 割が機械式を使用している。

堆肥化方式と居住区域等クロス集計(平成21,22年度の件数)

項目	件数(割合)	コンポスト容器	機械式
堆肥化設備基数	330(100)	167(50.6)	163(49.4)
居住区域	市街化区域 : 件数(割合)	84(38.4)	135(61.6)
	市街化調整区域 : 件数(割合)	83(74.8)	28(25.2)
堆肥化設備基数	330(100)	167(50.6)	163(49.4)
居住形態	一般住宅 : 件数(割合)	87(39.2)	135(60.8)
	農家畜産住宅 : 件数(割合)	95(100)	78(82.1)
	マンション・アパート : 件数(割合)	13(100)	2(15.4)

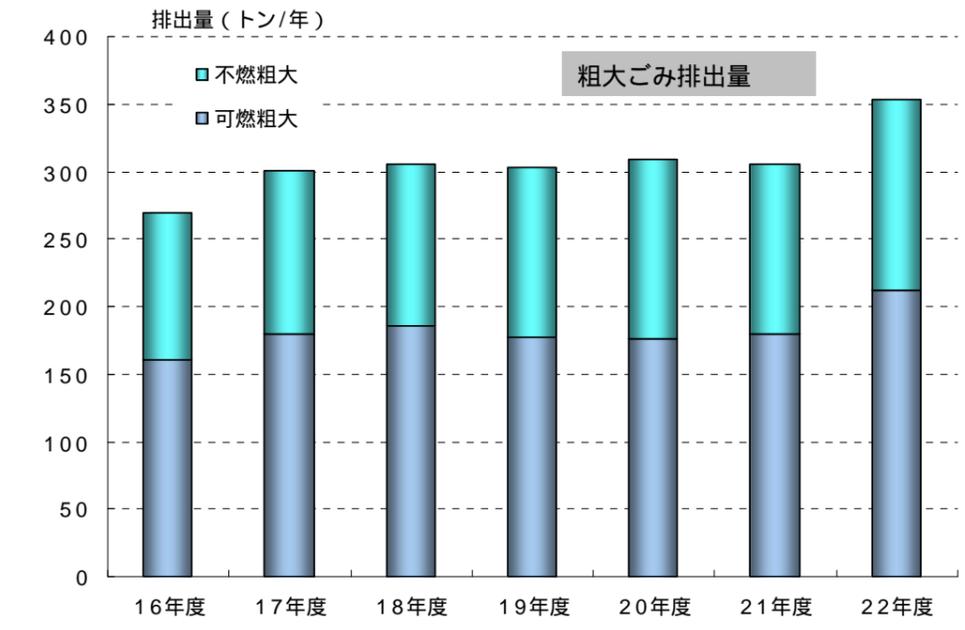
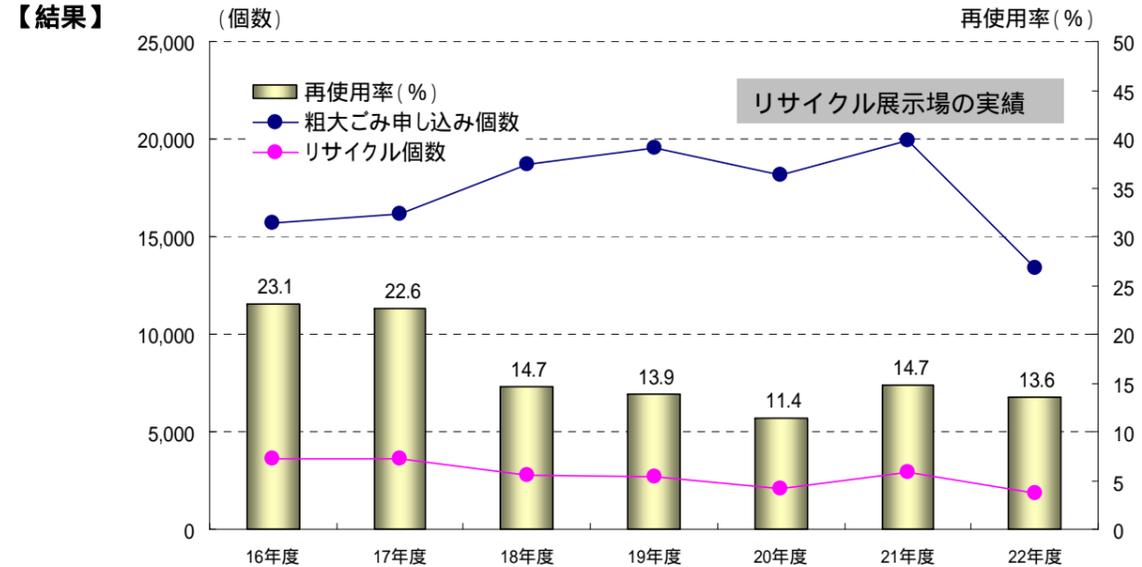


	平成21年度	平成22年度	H22/H21
コンポスト容器-新規	45	27	0.60
機械式-新規	63	36	0.57
コンポスト容器-更新	16	21	1.31
機械式-更新	19	15	0.79
不明・未回答コンポスト容器	32	22	0.69
不明・未回答機械式	22	12	0.55
合計	197	133	0.68

申請数の減少が見られます。減少の要因は新規申請者の大幅な減少があります。

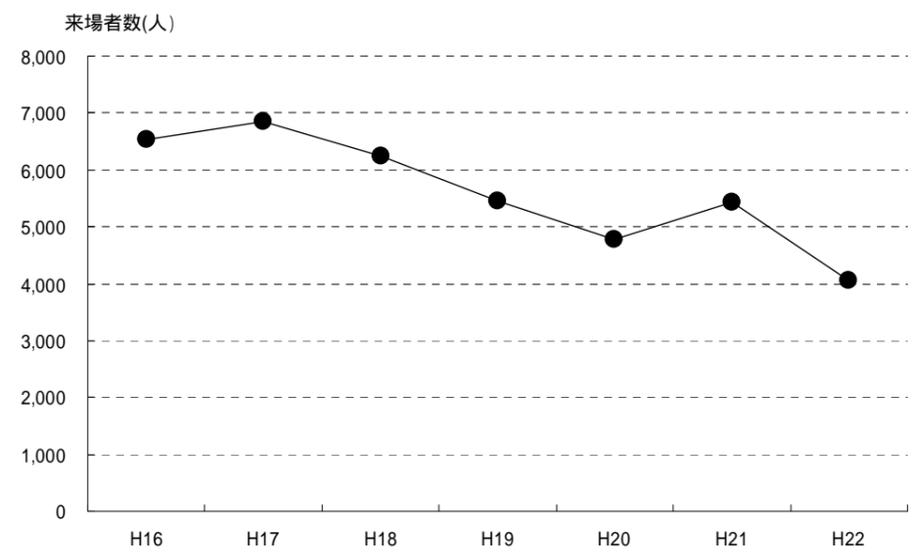
現状確認	可燃ごみ排出量の抑制に効果があると考えられます。しかし、平成 10 年の制度開始から 12 年が経過し、初期のコンポスト容器や機械式堆肥化装置の老朽化が懸念されます。排出抑制効果についても頭打ちの状況が想定されます。
課題	購入申請数は停滞しています。最大数申請されたのはコンポスト容器が平成 11 年度の 185 基、機械式が平成 18 年度の 157 基ですが、平成 22 年度の実績を見ると、それぞれ 34%と 45%まで低下しています。比較した 2 回のアンケート結果によると、使用した住民からの施策継続要望は増加していますので、購入申請数の停滞は、新規購入者の減少が考えられます。普及世帯の頭打ちの要因として、堆肥化装置の利用による効果や補助制度の PR 不足が考えられます。

実施施策	リサイクル展示場におけるリサイクルの推進	3R施策の分類		
実施時期	平成7年9月から実施	影響を与える発生源	家庭系ごみ	事業系ごみ
期待する効果	粗大ごみの排出抑制、再利用の推進	ごみ種類	可燃ごみ	不燃ごみ その他
		効果	排出抑制	再利用 資源化



リサイクル展示場供与数の推移

年度	来場者数	抽選会参加者数	展示数	供与数	廃棄数	粗大ごみ申込個数	リバ-搬出量	収集粗大ごみ			1人1日当りごみ排出量
								可燃	不燃	合計	
16	6,539	2,454	3,836	3,614	203	15,658	20.76	160.60	108.56	269.16	671.87
17	6,852	2,341	3,804	3,653	229	16,152	19.93	179.96	120.43	300.39	686.79
18	6,232	2,298	2,850	2,744	90	18,701	14.77	185.74	119.91	305.65	674.40
19	5,452	2,324	2,801	2,718	108	19,568	14.66	176.80	126.41	303.21	656.87
20	4,786	2,173	2,085	2,065	145	18,140	13.24	175.72	132.99	308.71	653.85
21	5,423	2,442	3,045	2,935	132	19,955	14.53	179.24	126.67	305.91	648.96
22	4,054	1,037	1,997	1,823	29	13,415	11.84	212.39	141.29	353.68	639.24



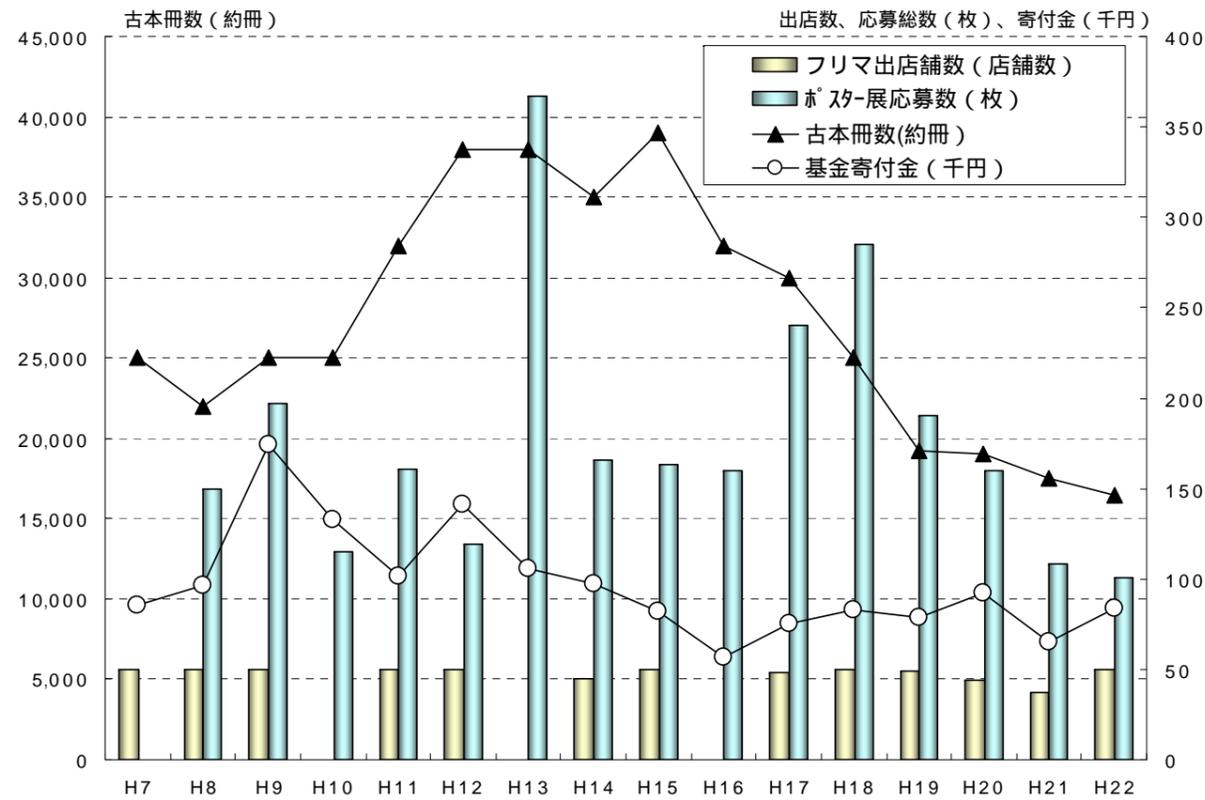
現状把握 平成7年から粗大ごみの減量化と市民に対する啓発のため、戸別収集した粗大ごみから再利用可能なものについてリサイクル展示場で無償提供を行っていますが、その再使用率が、ここ5年間では14%前後で推移しており、増加傾向は見られません。平成22年度の粗大ごみ排出量が増加していますが、再生利用率はわずかながら減少しています。リサイクル展示場への来場者の減少に伴い、申し込み個数も大きく減少しています。

課題 近年、再使用率が停滞しています。平成17年度までは22%程度を示していた再使用率ですが平成18年以降は14%程度で推移しています。来場者が減少しています。平成17年度には約6,800人であった来場者数ですが、平成22年度には59%(4,054人)に低下しています。原因としましては、場所も含めた施設運営の周知不足が原因と考えられます。

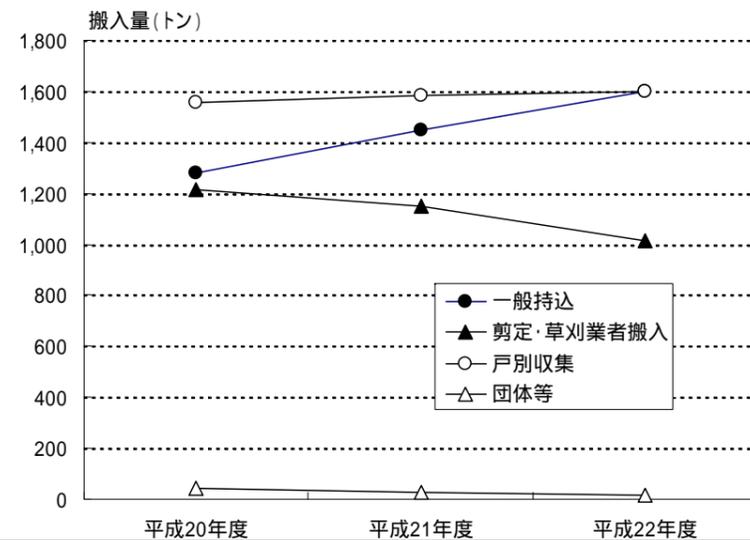
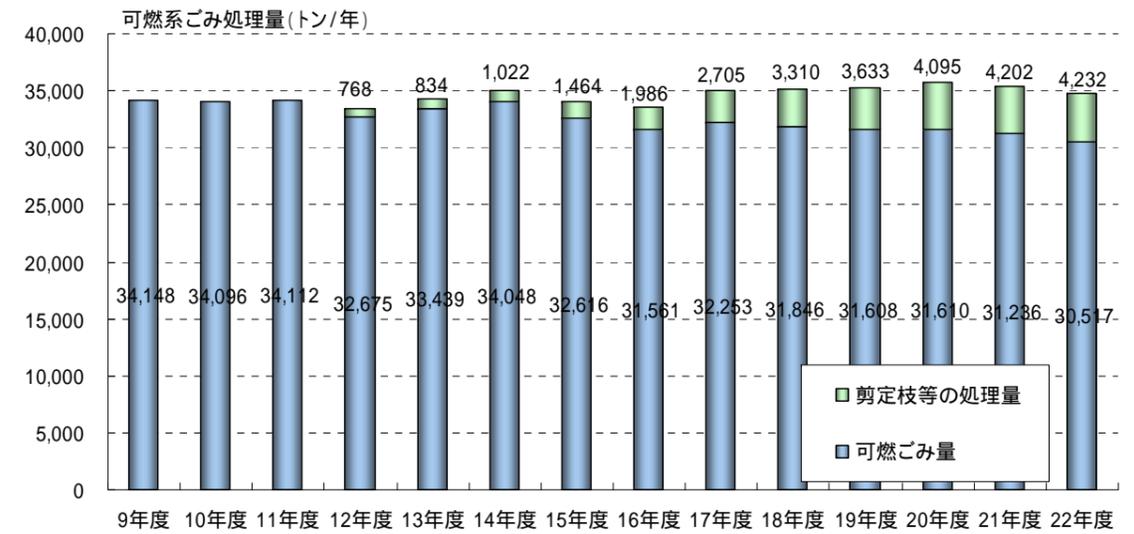
実施施策	リサイクルフェアの実施	3 R 施策の分類		
実施時期	平成 7 年から実施	影響を与える発生源	家庭系ごみ	事業系ごみ
期待する効果	排出抑制、再生利用の推進	ごみ種類	可燃ごみ	不燃ごみ その他
		効果	排出抑制	再利用 資源化

実施施策	剪定枝、草・落ち葉の堆肥化処理	3 R 施策の分類		
実施時期	平成 12 年から回収実施、平成 16 年度から収集基準を変更	影響を与える発生源	家庭系ごみ	事業系ごみ
期待する効果	可燃ごみ排出量の削減、堆肥化によるリサイクル促進	ごみ種類	可燃ごみ	不燃ごみ その他
		効果	排出抑制	再利用 資源化

【結果】



【結果】



現状把握 毎年「産業祭」に合わせてリサイクルフェアを実施しています。リサイクルフェアでは市民の皆様から提供頂いた書籍を古本市として無償配布するとともに寄付金の募集を行い、市民によるフリーマーケットの開催や、市内小学校4年生によるポスターの展示、表彰を行っています。

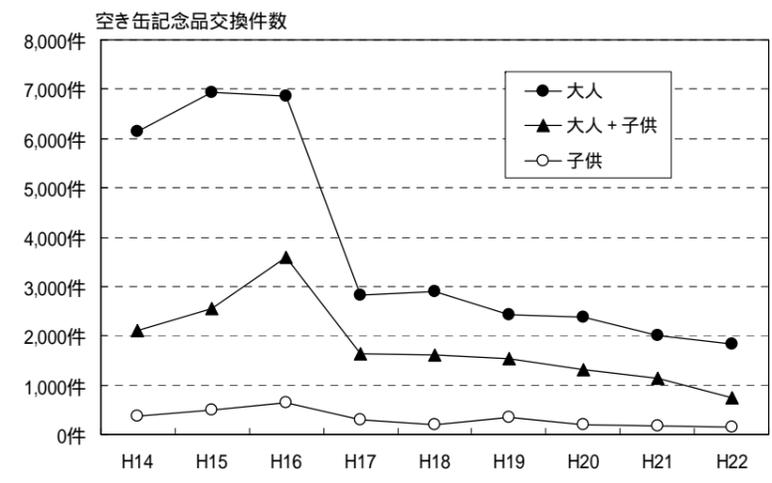
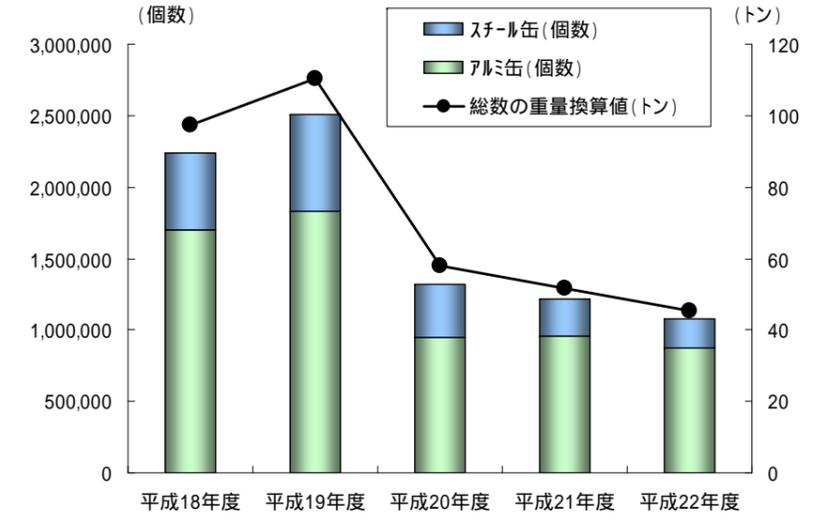
課題 古本市のために市民から提供頂いている書籍数が年々減少しています。平成 19 年度に約 39,000 冊の古本が提供されていましたが、平成 22 年度には 42% (約 16,500 冊) に減少しています。(古本の減少については、リサイクル店舗等の民間市場へ流れていることも一つの原因と考えられます。) リサイクルフェアによる一定の啓発効果はありますが、明確な数値化はできません。リサイクルフェアの内容の充実に向けて、実施内容や PR 方法の充実が課題となっております。

剪定枝及び落ち葉の回収を開始した平成 12 年以降、回収量は増加しています。特に平成 16 年度の収集基準の見直しにより回収量は増加していますが、平成 21 年度から横ばい傾向が見られます。可燃ごみ量は減少傾向が見られます。合わせた総量は増減を繰り返していますが、ほぼ横ばいで推移しています。

剪定枝等の堆肥化には、発酵から熟成まで 14 ヶ月かかることから広い保管場所が必要なため、回収量が大きく増加した場合、保管場所の拡張が必要になります。回収量は、開始年度の平成 12 年度の 768 トンが、平成 22 年度には 5.5 倍 (4,232 トン) に増加していますので、有料受入の事業所分と無料受入である家庭分が混入しないように管理する必要があります。他自治体では稲わらや竹等を堆肥化している事例もあります。

実施施策		3R施策の分類			
実施時期	平成7年12月から実施	影響を与える発生源	家庭系ごみ	事業系ごみ	
期待する効果	啓発活動、再資源化	ごみ種類	可燃ごみ	不燃ごみ	その他
		効果	排出抑制	再利用	資源化

【結果】



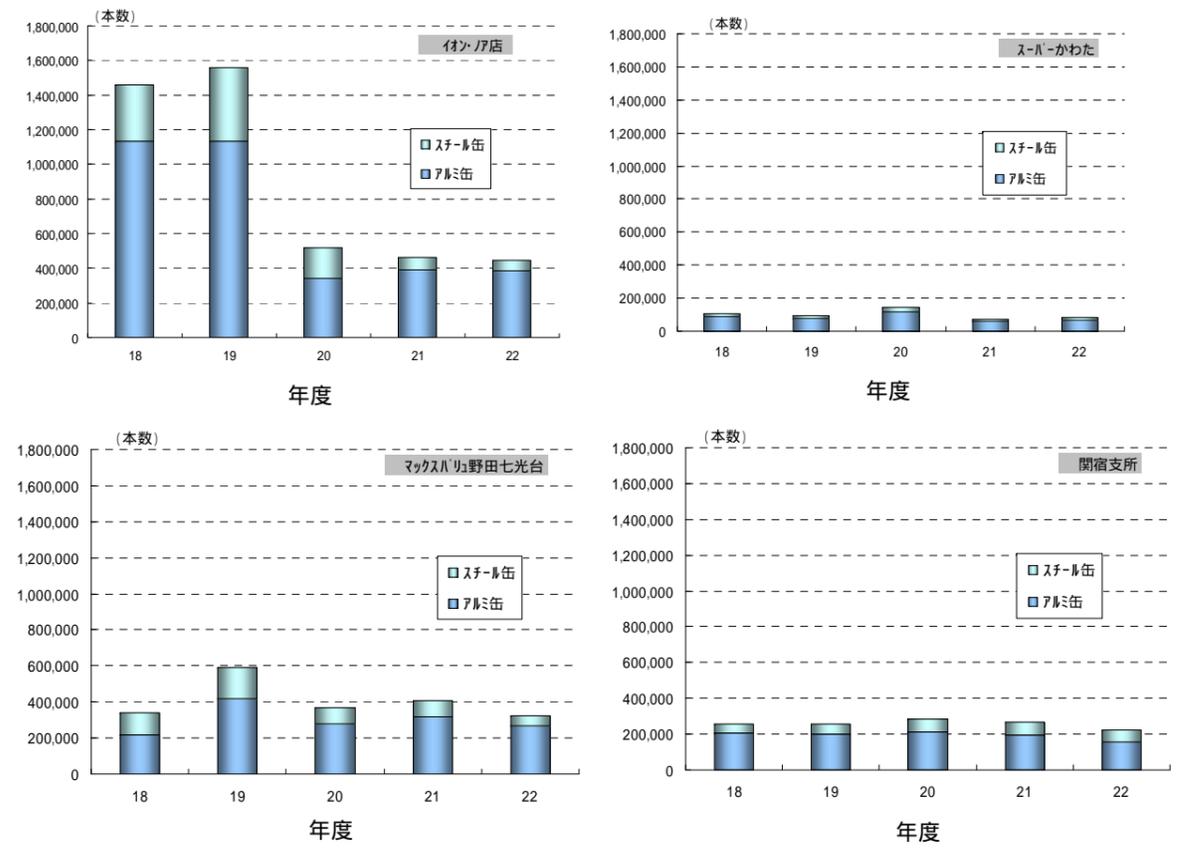
《支出》

空き缶回収機の取得価格：1,905,500円/台
 耐用年数：14～15年（4台ともH20～H21更新済み）
 維持費年間：定期保守点検52万円+修繕費

【回収拠点実績】

年度	イオン・ア店		スーパーかわた		マックスバリュ野田七光台		関宿支所	
	アルミ缶	スチール缶	アルミ缶	スチール缶	アルミ缶	スチール缶	アルミ缶	スチール缶
18	1,131,900	327,300	88,427	19,479	216,447	125,590	204,166	54,933
19	1,133,650	426,600	76,241	20,799	417,779	173,639	201,645	57,048
20	338,550	178,085	114,362	31,199	279,254	89,828	214,271	69,892
21	391,158	73,444	59,152	15,324	316,315	89,009	192,860	75,675
22	384,968	61,860	65,436	15,624	267,989	57,094	158,732	62,918

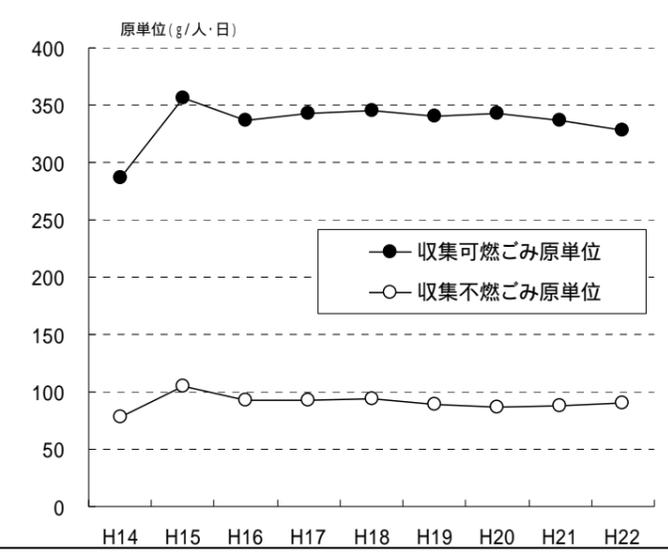
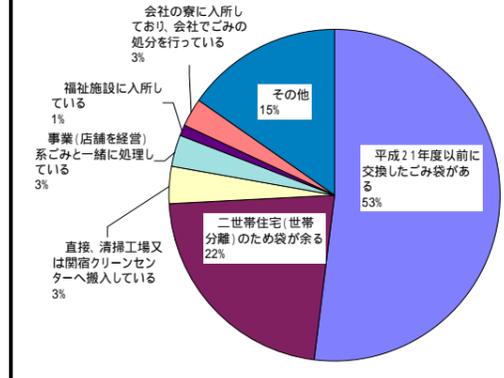
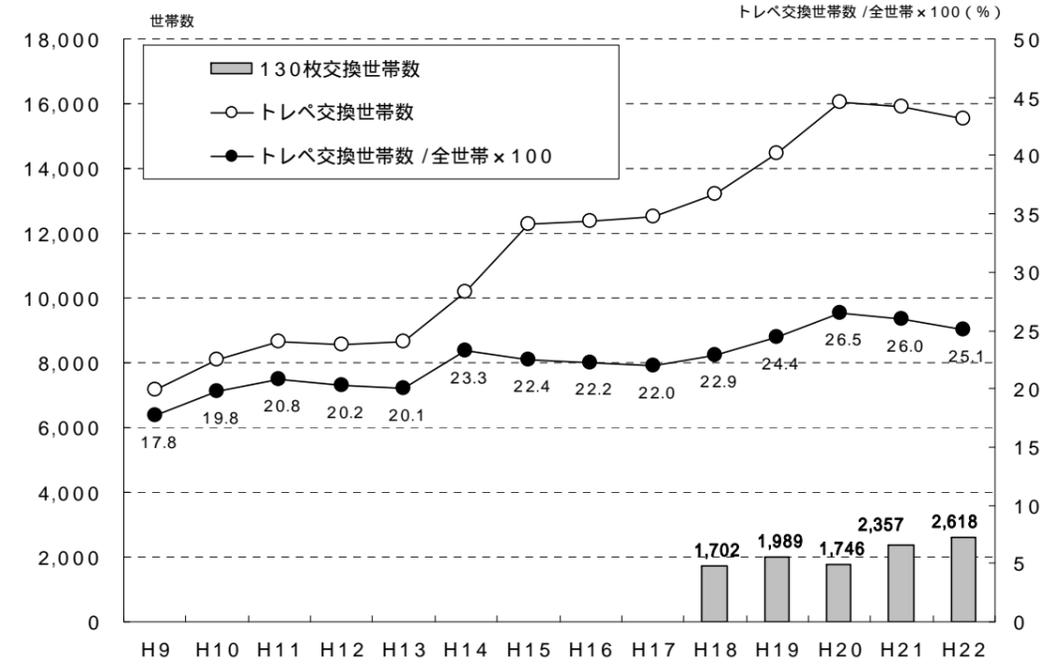
(*2) アルミ缶1本で1点、スチール缶1本で1点のポイントを付与。250点で文具セット(ノート2冊・鉛筆2本・消しゴム1個)と交換可能。



現状把握	現在、ジャスコ、マックスバリュウ、スーパーかわた、関宿支所の4箇所に機械を設置しています。ポイントカード制で、アルミ缶1本を投入することで1ポイント、スチール缶2本で1ポイントが得られます。250ポイントで文具セットと交換できます。記念品については、平成15年度までは図書券、平成16年度は図書券と文具セット、平成17年度以降は文具セットとなっています。
課題	図書券から文具セットに変更してから大幅に景品交換件数が減少しましたが、それ以降も減少しています。近年は、持込量で見ても減少傾向が見られます。記念品交換に訪れる子供の割合が総じて少なく、子供への啓発効果は少ないことが想定されます。

実施施策	ごみ減量による還元制度	3 R 施策の分類			
実施時期	平成 9 年から実施	影響を与える発生源	家庭系ごみ	事業系ごみ	
期待する効果	排出抑制	ごみ種類	可燃ごみ	不燃ごみ	その他
		効果	排出抑制	再利用	資源化

【結果】

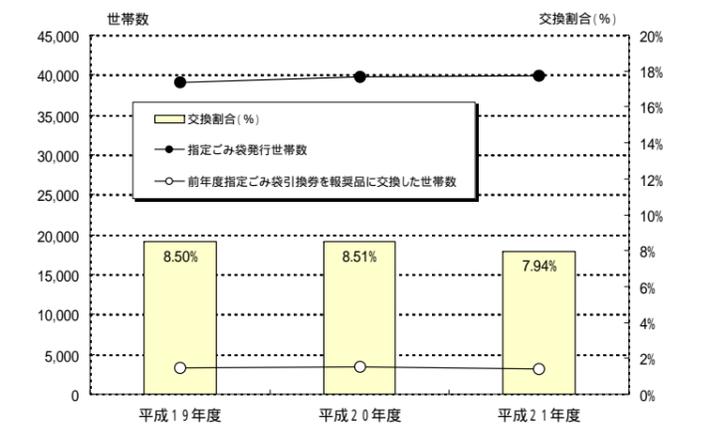


【他都市の事例-君津市におけるトイレトペーパー還元制度-】

《制度の概要》

- 引換え状況：券1枚(袋10枚)につき、3ロールの交換
- ごみ袋の配布枚数：年間で可燃ごみ用袋90枚、不燃ごみ用袋20枚の無料引換券を交付し、不足する分は購入してもらう。
- 平成22年度ごみ袋引換券の取り扱い
 - 平成22年8月頃発送する。
 - ごみ袋引換券の有効期間は、22年10月から、23年9月まで
 - 22年度ごみ引換券をトイレトペーパーに引換えできる時期は、22年9月から23年9月まで可能
 - 23年度ごみ袋引換券は、23年9月にトイレトペーパーに引き換えることも可能

還元制度の中止による、ごみ排出量の推移は、来年度ではないとわからない。



《君津市におけるトイレトペーパー還元制度の中止の影響》

- 現状：平成13年度開始、22年度(23年9月)で終了
- 市民からの反響について
 - 市民から200件程度のご質問。内容としては、「中止の確認」と「減量化に協力しなくていいの？」等の意見があった。
- 中止のPR方法：広報、HP、引換券等に中止を記載

《千葉県平成21年度排出原単位》

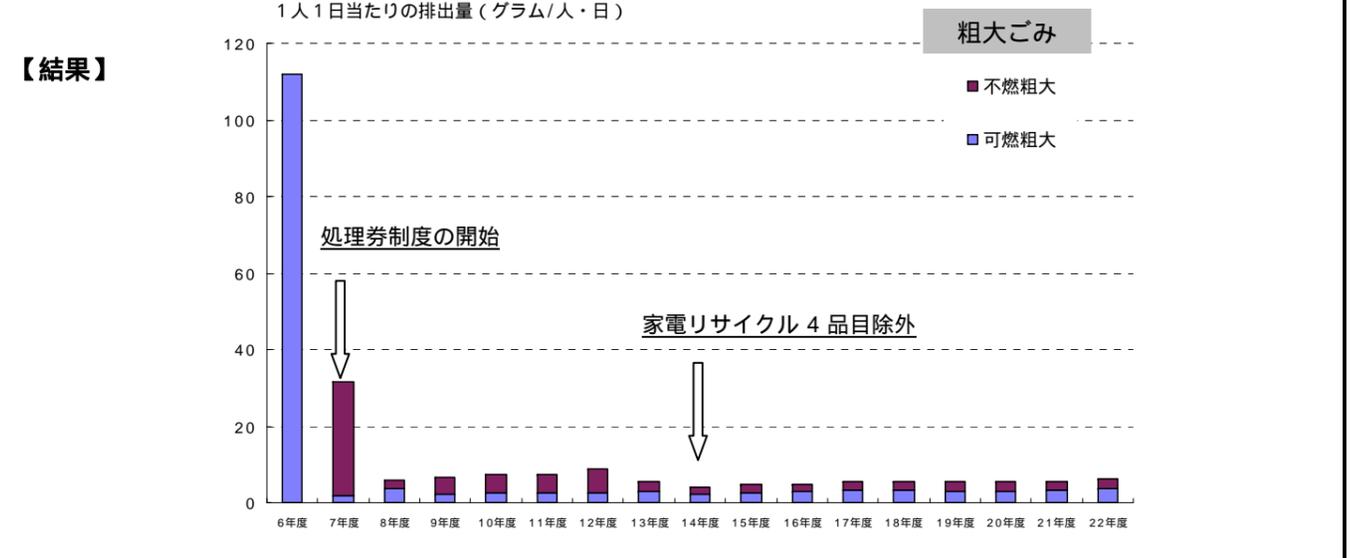
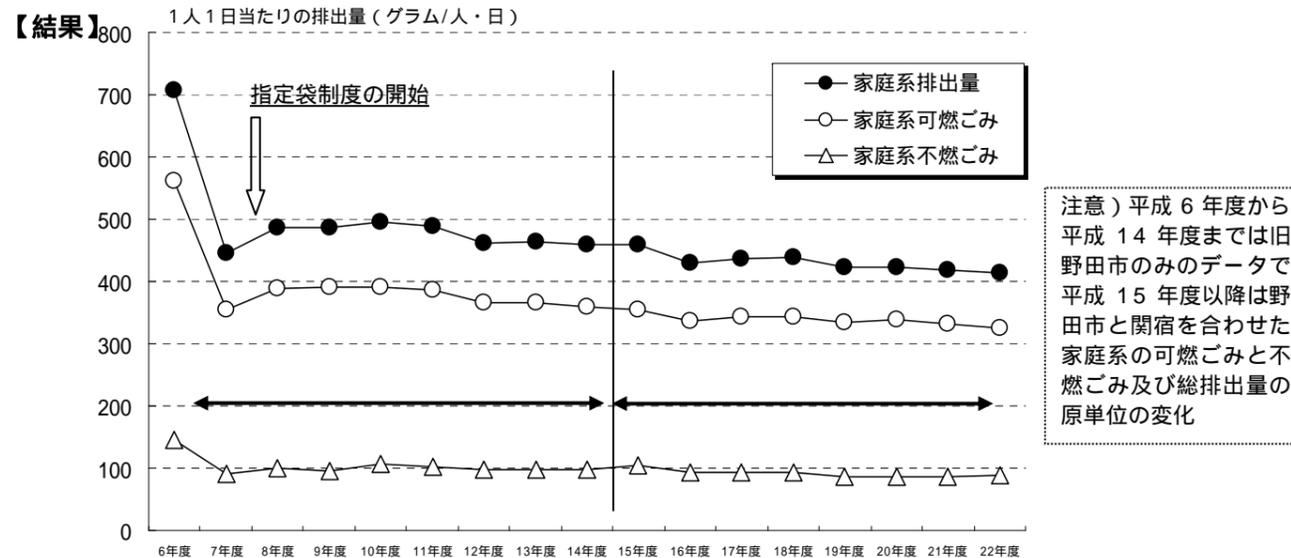
(生活系+事業系)	5位	野田市	880g/人・日
	20位	君津市	1,014g/人・日
(生活系)	3位	君津市	657g/人・日
	7位	野田市	692g/人・日
(事業系)	12位	野田市	188g/人・日
	29位	君津市	356g/人・日

現状把握：ごみ減量に努め、指定ごみ袋を使い切らなかった世帯に対して、引換券(10枚)と資源回収で集めた古紙を使用したトイレトペーパー(6ロール)と交換しています。制度開始初年度から全世帯の18%の世帯で引き換えが行われています。平成22年度では、全世帯の25%の世帯で引き換えが行われています。

課題：本来減量は、市民一人一人の責務であり、還元制度を設けること自体が課題とも言えますが、その一方で全世帯の25%の世帯で引換えが行われており、還元制度は排出抑制に貢献している実態があります。平成21年度の130枚交換世帯の調査結果の円グラフでは、「平成21年度以前に交換したごみ袋がある。」と答えており、全体の53%となります。同様の制度を実施していた君津市が、平成22年度限りで制度を廃止したので、今後の経過を検証する必要があります。

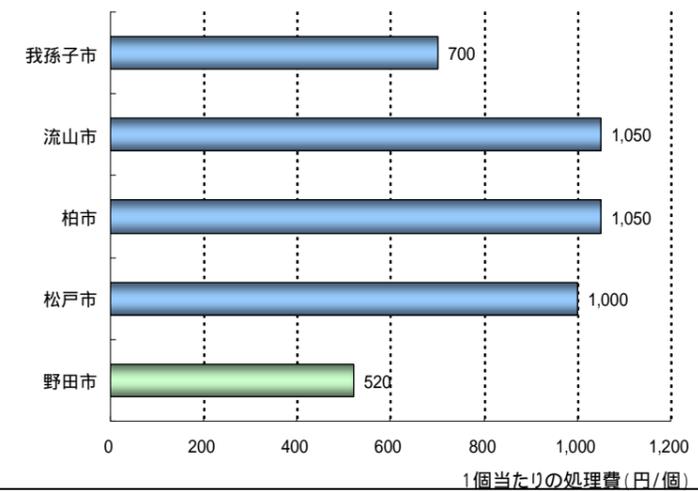
実施施策	指定袋制度の導入	3 R 施策の分類		
実施時期	平成 7 年度から実施	影響を与える発生源	家庭系ごみ	事業系ごみ
期待する効果	家庭系可燃ごみ及び不燃ごみの排出抑制、リサイクルの推進	ごみ種類	可燃ごみ	不燃ごみ その他
		効果	排出抑制	再利用 資源化

実施施策	粗大ごみ処理券制度の導入	3 R 施策の分類		
実施時期	平成 7 年度から実施	影響を与える発生源	家庭系ごみ	事業系ごみ
期待する効果	家庭系可燃ごみ及び不燃ごみの排出抑制、リサイクルの推進	ごみ種類	可燃ごみ	不燃ごみ その他
		効果	排出抑制	再利用 資源化



【還元実績】

年度	人口	世帯数 A	トレバ交換世帯数 B	b/a	ごみ袋有料販売枚数	ごみ袋無料交換枚数	1世帯当り無料交換枚数
9	120,744	40,225	7,144	17.8%	297,635	4,292,730	106.72
10	120,930	41,004	8,100	19.8%	311,510	4,457,000	108.70
11	121,262	41,664	8,654	20.8%	466,035	4,704,670	112.92
12	121,591	42,367	8,569	20.2%	368,450	4,832,630	114.07
13	121,876	43,194	8,670	20.1%	389,520	4,754,560	110.07
14	121,698	43,781	10,181	23.3%	370,595	4,634,060	105.85
15	152,952	54,779	12,280	22.4%	367,290	5,207,490	95.06
16	153,375	55,724	12,394	22.2%	397,385	5,889,440	105.69
17	153,905	56,814	12,510	22.0%	423,910	6,220,250	109.48
18	154,630	57,897	13,230	22.9%	364,570	6,169,610	106.56
19	156,083	59,320	14,451	24.4%	344,685	6,021,960	101.52
20	156,876	60,452	16,038	26.5%	331,805	6,805,800	112.58
21	157,183	61,250	15,903	26.0%	291,085	6,101,240	99.61
22	157,033	61,950	15,523	25.1%	310,895	6,501,200	104.94



現状把握 平成 7 年度から指定袋制を開始したことで平成 7 年度の家庭系ごみに大幅な減少が見られます。事業系ごみを見ると不燃ごみについて若干の増加が見られますが、大きな変化は見られません。

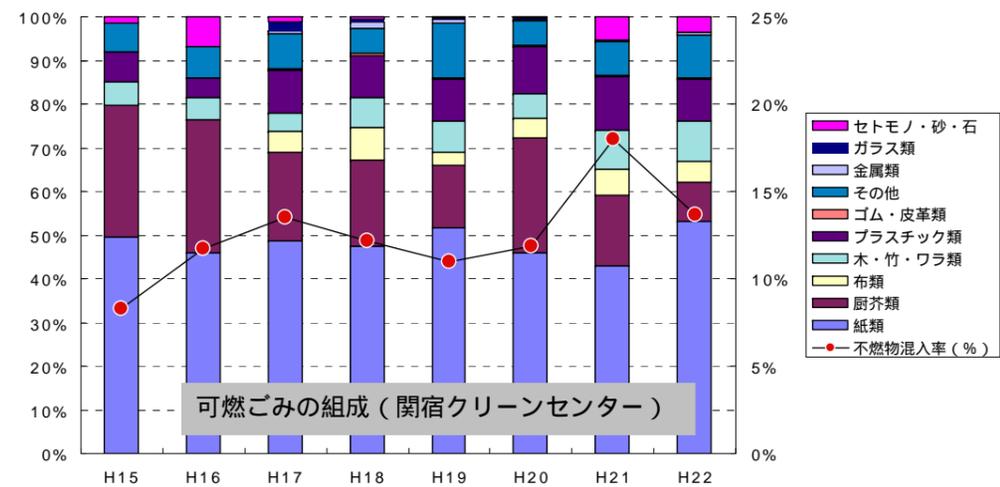
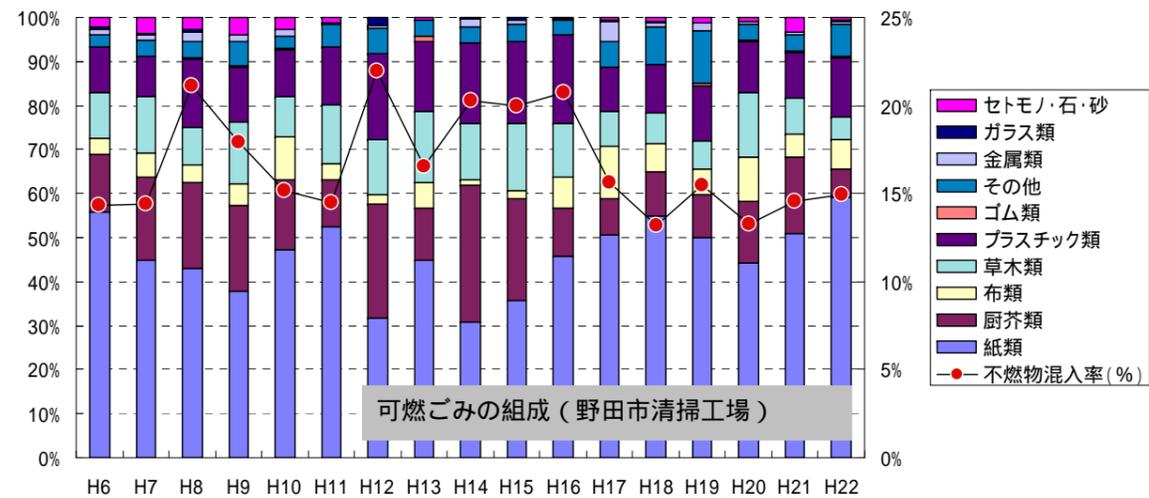
課題 一世帯当りの無料交換枚数が、130枚を下回っている一方、ごみ袋有料販売枚数は、30万枚となっております。平成 22 年度で全世帯の、25%が処理券をトイレトーパーに交換しております。

粗大ごみの原単位の推移を見ると、平成 7 年度から粗大ごみの処理券制度を開始したことで大幅な減少が見られ、その後、平成 13 年度に家電リサイクル法に基づく対象品目の除外したことにより、さらに減少しています。

処理券発行による大幅な減少以降はほぼ横ばいで推移していることから、長期使用せず、廃棄する傾向があまり改善されていない可能性があります。本市における粗大ごみ処理単価は周辺他都市と比較して低い値ですので、長期使用せず、ごみとして出しやすい環境と考えられます。

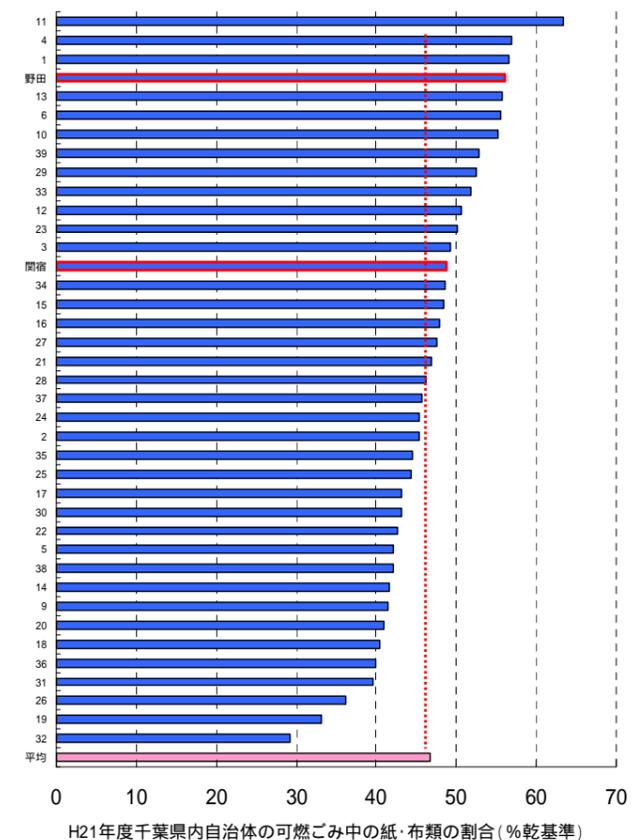
実施施策	ごみ組成調査	3R施策の分類			
実施時期	各施設稼働年から実施	影響を与える発生源	家庭系ごみ	事業系ごみ	
期待する効果	資源化可能物の混入度合いから資源化物の資源化、リサイクルの推進	ごみ種類	可燃ごみ	不燃ごみ	その他
		効果	排出抑制	再利用	資源化

【結果】



不燃物:プラスチック類、金属類、ガラス類、セトモノ・砂・石

地方公共団体名	施設名称	紙・布類
11 習志野市	習志野市芝園清掃工場	63.4
4 館山市	館山市清掃センター	57
1 市川市	市川市クリーンセンター（ごみ焼却処理施設）	56.6
7 野田市	野田市清掃工場	56
13 柏市	柏市第二清掃工場	55.8
6 松戸市	松戸市和名ヶ谷クリーンセンター	55.5
10 旭市	旭市クリーンセンター焼却施設	55.2
39 印西市	印西クリーンセンター	52.8
29 城南地区環境衛生組合	大谷クリーンセンター	52.5
23 柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	クリーンセンターしらさぎ	51.8
12 柏市	柏市清掃工場	50.59
23 浦安市	浦安市クリーンセンター（ごみ処理施設）	50.1
3 船橋市	船橋市南部清掃工場	49.3
8 野田市	関宿クリーンセンター	48.7
34 市原市ほか二町環境衛生組合	匠達市ほか二町環境衛生組合松山清掃工場	48.6
15 市原市	市原市福増クリーンセンター第一工場	48.4
16 市原市	市原市福増クリーンセンター第二工場	47.9
27 いすみ市	いすみクリーンセンター	47.6
21 鴨川市	鴨川清掃センター	46.905
28 御宿町	御宿町清掃センター	46.2
37 香取広域市町村圏事務組合	伊地山クリーンセンター	45.74
24 四街道市	四街道市クリーンセンターごみ焼却施設	45.4
2 船橋市	船橋市北部清掃工場	45.3
35 鴨川市南房総市環境衛生組合	ごみ焼却場	44.5
25 八街市	八街市クリーンセンター	44.3
17 流山市	流山市クリーンセンターごみ焼却施設	43.2
30 佐倉市・酒々井町清掃組合	酒々井リサイクル文化センター焼却処理施設	43.1
22 鴨川市	天津小湊清掃センター	42.5675
38 香取広域市町村圏事務組合	仁良清掃工場	42.2
5 松戸市	松戸市クリーンセンター	42.2
14 勝浦市	勝浦市クリーンセンター	41.7
9 成田市	成田市いすみ清掃工場	41.4
20 我孫子市	我孫子市クリーンセンター	41
18 八千代市	八千代市清掃センター（3号炉）	40.5
36 長生郡市広域市町村圏環境衛生センター	ごみ処理場	39.9
31 東金市外三町清掃組合	東金市外三町環境クリーンセンター（焼却施設）	39.58
26 富里市	富里市クリーンセンター焼却施設	36.2
19 八千代市	八千代市清掃センター（1・2号炉）	33.1
32 山武都市環境衛生組合	ごみ焼却施設	29.3



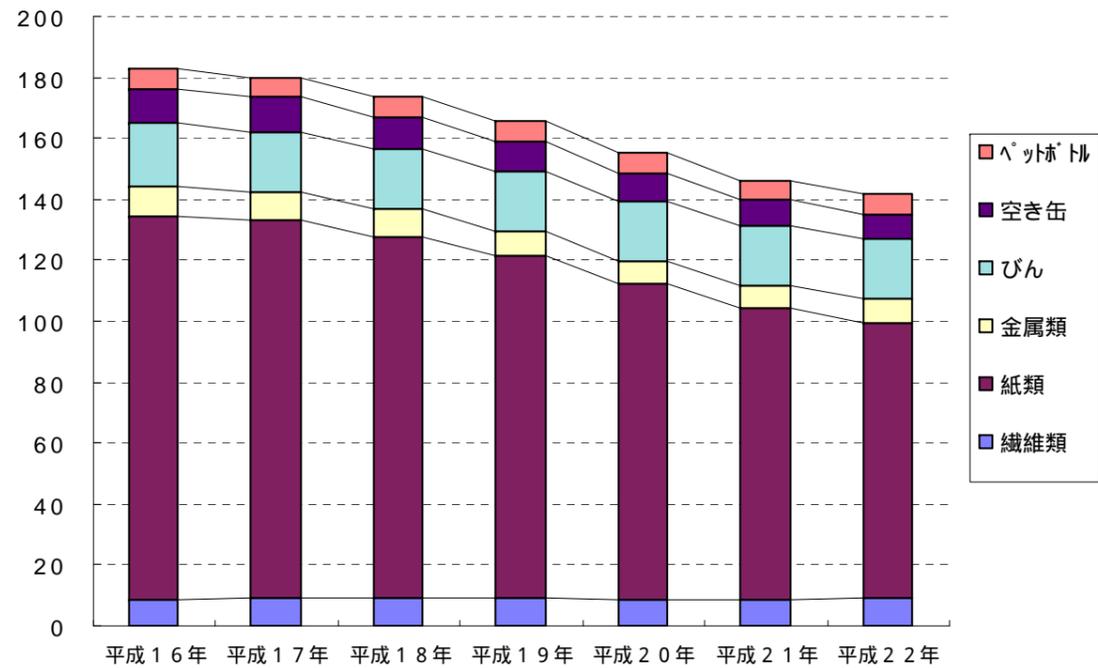
当市では紙類と布類は分類して調査を行っていますが、通常は紙・布類として分類されているため、紙類と布類を合わせて比較を行いました。

現状把握	可燃ごみ中に紙類が50%（乾基準）程度含まれています。野田地域では平成14年度以降その割合は増加する傾向が見られます。関宿地域でも平均的に紙類が50%（乾基準）程度含まれています。千葉県の他自治体と比較しても紙・布類の割合（乾基準）が平均値より高く、特に人口比率の高い野田地域の割合が非常に高い状況が確認できます。ごみ中の水分量が高く、湿基準の排出状況を推計した結果でも厨芥類（生ごみ）が非常に多く排出されていることがわかります。さらに、両地域とも14~15%程度の不燃物の混入も見られます。
課題	紙類の混入率が高い状況が見られます。県内の他の焼却施設の紙類（紙布類）を比較すると、野田市清掃工場及び関宿クリーンセンターともに平均値より高く、特に野田市清掃工場では非常に高い傾向が確認できます。3成分の比較からも水分量が非常に高いことが確認できます。（ごみ質調査結果参照） 厨芥類（生ごみ）の排出量が非常に多いことが推計できます。（ごみ質調査結果参照） 不燃物の混入割合が高いことが確認できます。（千葉県平均で5%（乾基準）程度（不燃物+その他として））

実施施策	集団資源回収の実施	3 R 施策の分類			
実施時期	昭和 53 年度から実施	影響を与える発生源	家庭系ごみ	事業系ごみ	
期待する効果	可燃ごみ、不燃ごみに含まれる資源化物の資源化、リサイクルの推進	ごみ種類	可燃ごみ	不燃ごみ	その他
		効果	排出抑制	再利用	資源化

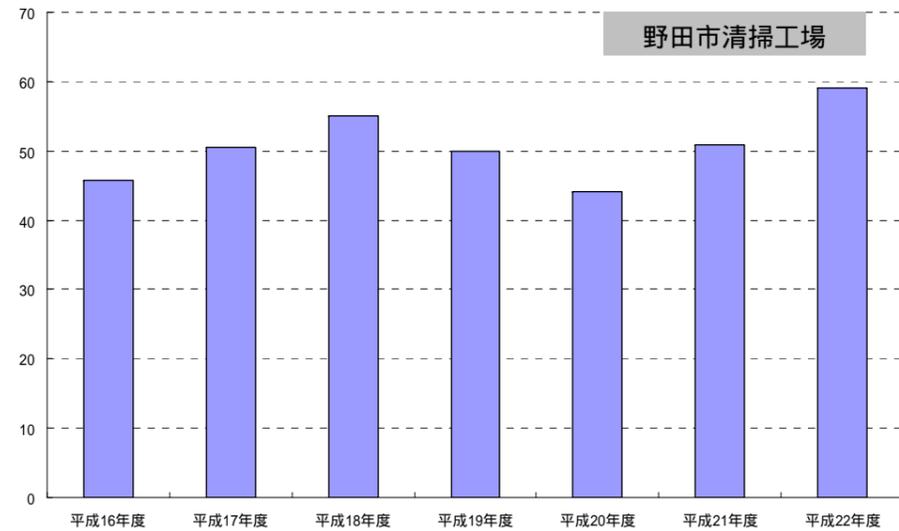
【結果】

1人1日当たりの排出量（グラム/人・日）

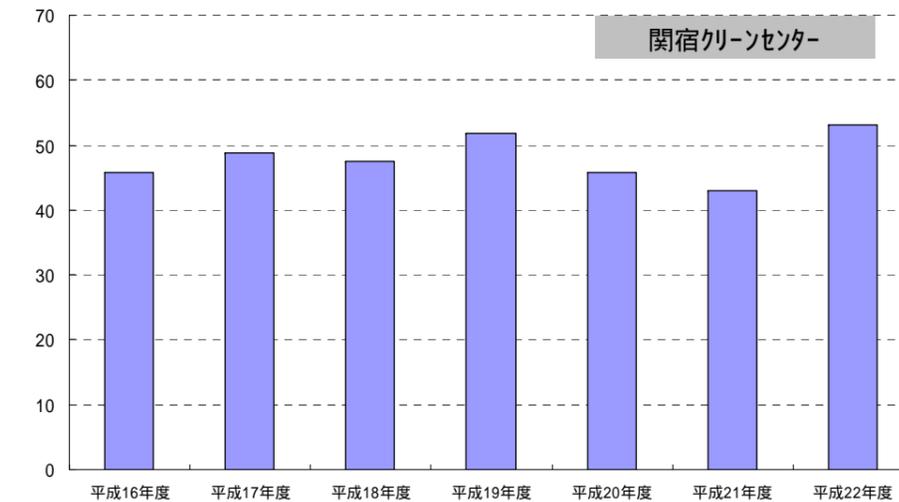


【集団資源回収（市全域）】

可燃ごみ中の紙類の割合（% - 乾基準）



可燃ごみ中の紙類の割合（% - 乾基準）



現状把握

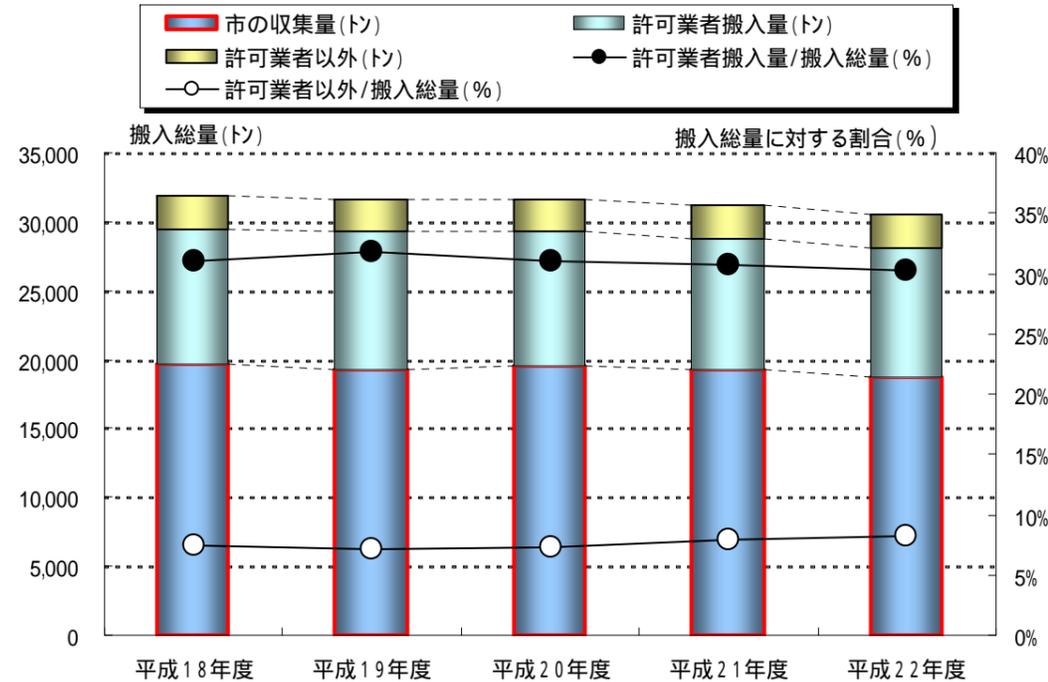
集団資源回収の原単位の変動及び内訳を見ると、紙類の資源化量に大きな減少傾向が見られます。

課題

可燃ごみ中の紙類の割合は増加傾向にある一方で、資源化量の減少の原因の一つに雑紙が可燃ごみとして排出されている可能性があります。

実施施策	事業系可燃ごみへの減量対策	3R施策の分類		
実施時期		影響を与える発生源	家庭系ごみ	事業系ごみ
期待する効果	可燃ごみの減量化	ごみ種類	可燃ごみ	不燃ごみ その他
		効果	排出抑制	再利用 資源化

【結果】

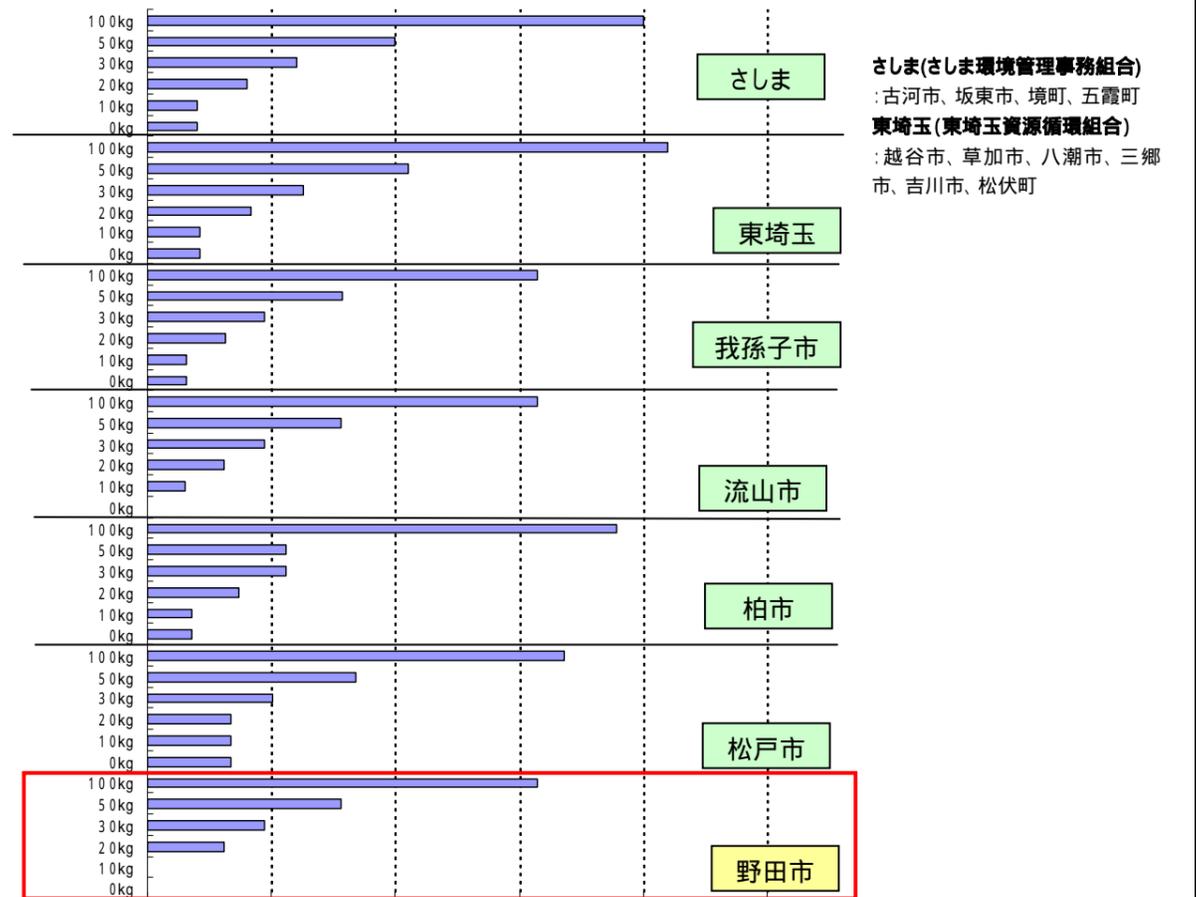


【野田市全体の可燃ごみ搬入量の推移】

年度	可燃ごみの搬入総量(t)	市の収集量(トン)	許可業者搬入量(トン)	許可業者以外(トン)	許可業者搬入量/搬入総量(%)	許可業者以外/搬入総量(%)
平成18年度	31,846	19,618	9,879	2,349	31.0%	7.4%
平成19年度	31,608	19,320	10,022	2,267	31.7%	7.2%
平成20年度	31,610	19,510	9,809	2,291	31.0%	7.2%
平成21年度	31,236	19,201	9,571	2,464	30.6%	7.9%
平成22年度	30,517	18,783	9,233	2,502	30.3%	8.2%

市の収集量；可燃・可燃粗大
 持込量：許可業者、一般家庭、商店、不法投棄

【周辺自治体との単位重量当たりの受入単価の比較】



重量	野田	松戸	柏 ¹	流山	我孫子 ²	東埼玉	さしま
0kg	0円	336円	180円	0円	157円	210円	200円
10kg	0円	336円	180円	150円	157円	210円	200円
20kg	310円	336円	370円	310円	314円	420円	400円
30kg	470円	504円	560円	470円	471円	630円	600円
50kg	780円	840円	940円	780円	785円	1,050円	1,000円
100kg	1,570円	1,680円	1,890円	1,570円	1,570円	2,100円	2,000円

¹容器包装プラを除く

²家庭系のみ

現状把握	本市の可燃ごみ搬入総量に占める持込ごみ量は38%程度であり、徐々に減少する傾向が見られます。当市の持込ごみの受入単価は周辺自治体と比較して低額で設定されています。
課題	周辺自治体と比較して持込ごみの受入単価が安価であり、周辺自治体からの持込が懸念されます。